بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者のシャマーイル

全シリーズ合本

まるでそのお姿を見るように

預言者ﷺのシャマーイル — 合本：イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』全 56 章、各伝承の判定付き

لَّقَدْ كَانَ لَكُمْ فِي رَسُولِ ٱللَّهِ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُواْ ٱللَّهَ وَٱلْيَوْمَ ٱلْآخِرَ وَذَكَرَ ٱللَّهَ كَثِيرًا

“本当にアッラーの使徒は，アッラーと終末の日を熱望する者，アッラーを多く唱念する者にとって，立派な模範であった。.”

部族連合章 33:21

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | facebook.com/QuranScienceMY

スキャンして quranscience.my で無料のデジタル版を読む

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の本。販売はできません。

謝辞

アッラーと終末の日を望む者のための良き模範として、預言者ムハンマド ﷺ を私たちに遣わされたアッラーに、すべての称賛あれ。彼の上に、そしてそのお姿、衣服、食卓、ほほえみ、崇拝、人柄を深い愛をもって見つめ、そのあらゆる描写を守り伝えたご家族と教友たちの上に、祝福と平安あれ。彼らのおかげで、彼を見たことのない私たちも、まるでそのお姿を見るように彼を知ることができる。

この本を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

本書は『預言者のシャマーイル』全六巻を一冊にまとめたものであり、イマーム・ティルミズィーの『シャマーイル・ムハンマディーヤ』全 56 章の章立てに従っている。各ハディースの判定と伝承経路を明記し、弱い伝承は注の枠に分けて示した。本書が、アッラーの使徒 ﷺ を知り、愛し、従うための架け橋となり、これに協力し、読み、広めるすべての人にとって絶えることのない善行（サダカ・ジャーリヤ）となりますように。

表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、**夕暮れのマディーナのオアシス**である。熟した実をつけた**緑のナツメヤシの林**、ヤシの葉で屋根を葺いた**低い日干しれんがの家々**、そしてその中央に、日干しれんがの壁、ヤシの幹の柱、ヤシの葉の屋根をもち、ドームもミナレットもない**質素なモスク**がある。遠くには広い空の下、**赤みを帯びたウフド山の連なり**が広がっている。

ここは、アッラーの使徒 ﷺ が生涯最後の十年を過ごされた町である。このモスクで彼は礼拝し、教え、教友たちとともに座られた。このナツメヤシの林の中を歩き、食べ、休まれた。アナス رضي الله عنه は、彼がマディーナに着かれた日、**そこにあるすべてのものが明るく輝いた**と語った（『シャマーイル』393）。絵の中には誰もいない。しかし本書に収めた教友たちの伝承を通して、私たちは**まるでそのお姿を見るように**、彼がその小道を歩まれるのを思い描くことができる。

下部の**紺色の帯**は**細い金の線**に縁取られ、そこに著者名が記されている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

第一部：誰よりも美しい方 11

誰よりも美しい方 12
1. 『シャマーイル』を知る 13
2. イマーム・ティルミズィー 13
3. 本書の方法 14
4. 第 1 章：そのお姿 15
5. 高すぎず、低すぎず 15
6. 中背で堂々とした方 17
7. アリー・イブン・アビー・ターリブの描写 17
8. ヒンド・イブン・アビー・ハーラのハディース 19
9. 口、目、かかと 20
10. 「いいえ、むしろ月のよう」 21
11. 銀で形づくられたかのよう 23
12. 示された預言者たち 23
13. 第 2 章：預言者性の印 25
14. 天蓋のボタンのよう 25
15. 「毛の房」 27
16. サルマーン・ファーリスィーと印 28
17. 「あなたにも」 30
18. 第 3 章：その髪 32
19. 垂らし、そして分ける 32
20. マッカでの四つの編み髪 34
21. 第 4 章：髪の手入れ 34
22. 右から始める 35
23. 身だしなみに凝りすぎない 36
24. 第 5 章：その白髪 37
25. 「フード章とその姉妹章」 38
26. 第 6 章：染髪 39
27. 第 7 章：コール（目墨） 41
28. 教訓と結び 42
参考文献 44

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二部：最も愛された衣 **47**

最も愛された衣 48
1. イスラームにおける衣服 49
2. 第 8 章：その衣服 50
3. カミース：最も好まれた衣服 50
4. 新しい衣服を着るときの祈り 51
5. ヒバラと赤い縞の布 53
6. 白、緑、そして黒 54
7. 袖の細いビザンツの長衣 55
8. 第 9 章：そのフッフ 57
9. 第 10 章：そのサンダル 59
10. 履物の作法 60
11. 第 11 章：その指輪 62
12. アリースの井戸に落ちた指輪 63
13. 第 12 章：右手の指輪 64
14. 投げ捨てられた金の指輪 65
15. 第 13 章：その剣 66
16. 第 14 章：その鎧 67
17. 第 15 章：その兜 69
18. 第 16 章：そのターバン 70
19. 第 17 章：その腰布 72
20. 裾の位置と高慢の危険 72
21. 第 18 章：その歩き方 74
22. 第 19 章：その頭巾 75
23. 第 20 章：その座り方 76
24. 第 21 章：そのクッション 78
25. 「私はもたれて食べない」 79
26. 第 22 章：クッション以外にもたれること 80
27. 衣服における質素さ 81
28. 教訓と結び 81
参考文献 83

第三部：なんと良い副菜 **85**

なんと良い副菜 86
1. イスラームにおける飲食 87

2. 第 23 章：その食べ方 88
3. 三本の指をなめる 89
4. 空腹のあまりしゃがんで食べる 90
5. 第 24 章：そのパン 91
6. 食卓もなく、薄いパンもなく 93
7. 第 25 章：パンとともに食べたもの 94
8. 「酢はなんと良い副菜か」 95
9. オリーブ油：祝福された木 96
10. 好まれたひょうたん 97
11. 仕立屋の招待 99
12. 甘いものと蜂蜜 100
13. 焼いた肉 102
14. 鶏肉と鳥 103
15. サリードとアーイシャの優れよう 104
16. 食事と婚礼の宴 105
17. 「では私は断食しよう」 106
18. 第 26 章：ウドゥーと食事 108
19. 第 27 章：食事の前のビスミッラー 108
20. 食後の祈り 110
21. アッラーは称賛を喜ばれる 111
22. 第 28 章：その杯 113
23. 第 29 章：果物 114
24. 初物の祈り 115
25. 第 30 章：その飲み物 116
26. 第 31 章：その飲み方 117
27. 立って飲むこと 119
28. 教訓と結び 120
29. 付録：食事の作法チェックリスト 121
参考文献 122

第四部：その笑いはほほえみ 123

その笑いはほほえみ 124
1. 崇高な徳性 125
2. 第 32 章：その香り 126
3. 「断ってはならない三つのもの」 127

4. 第 33 章：その話し方 128
5. 第 34 章：その笑い 129
6. 「私を見るといつもほほえまれた」 131
7. 奥歯が見えるほどの笑い 132
8. 赦しを求めるしもべを喜ばれるアッラー 133
9. 第 35 章：その冗談 134
10. アブー・ウマイルと小鳥 135
11. 雌ラクダの子とザーヒル 136
12. 第 36 章：詩 138
13. 戦場の詩句 140
14. ハッサーン・イブン・サービトとイブン・ラワーハ 142
15. 第 37 章：夜の語らい 143
16. 第 38 章：ウンム・ザルウのハディース 143
17. 「私はあなたにとってアブー・ザルウのよう」 144
18. 第 39 章：その眠り 144
19. 眠る前と目覚めたときの祈り 146
20. 眠る前の三つの「クル」 148
21. その横になり方 149
22. 第 40 章：その崇拝 149
23. 夜の礼拝 151
24. 美しく長い十一ラクア 152
25. 長い起立と一晩じゅう一つの節 154
26. 座っての礼拝 156
27. ラワーティブの任意の礼拝 156
28. 教訓と結び 158
29. 付録：毎日のスンナ・チェックリスト 159
参考文献 160

第五部：「いいえ」と言わない方 163

「いいえ」と言わない方 164
1. 優しく情け深い使徒 165
2. 第 41 章：ドゥハーの礼拝 166
3. ウンム・ハーニゥの家での八ラクア 167
4. 天の門が開かれる時 169
5. 第 42 章：家での任意の礼拝 170

6. 第 43 章：その断食 171
7. シャアバーンの月 173
8. 月曜日、木曜日、そして毎月三日 173
9. アーシューラーの日 175
10. 「少なくても」 176
11. アウフ・イブン・マーリクとの夜の礼拝 178
12. 第 44 章：その朗唱 178
13. 小さな声で、大きな声で 180
14. マッカ征服の日の朗唱 181
15. 第 45 章：その涙 182
16. 「私に読んで聞かせなさい」 183
17. 慈悲の涙 185
18. 第 46 章：その寝床 186
19. 第 47 章：その謙虚さ 187
20. ふつうの人々とともに 188
21. 人に立たれることを好まず 189
22. 家での彼 190
23. 第 48 章：その人柄 191
24. 赦し、報復しない 193
25. すべての人に優しく 194
26. 「いいえ」と言わない方 194
27. 第 49 章：その恥じらい 196
28. 教訓と結び 198
29. 付録：崇拝と人柄のチェックリスト 198
参考文献 200

第六部：ムスハフの一葉のように 201

ムスハフの一葉のように 202
1. ムハンマドは一人の使徒に過ぎない 203
2. 第 50 章：吸い玉療法 204
3. 吸い玉療法：スンナと現代の研究 205
4. 第 51 章：その御名 206
5. 慈悲の預言者、預言者たちの封緘 208
6. 第 52 章：その暮らし 209
7. アッラーのために脅かされて 210

8. 教友たちとともに味わった空腹 212
9. 第 53 章：その年齢 213
10. 六十三年 214
11. 第 54 章：そのご逝去 216
12. 最後の病 217
13. アーイシャの胸にもたれて 218
14. 死の苦しみ 219
15. 最後の教え 220
16. アブー・バクルの口づけ 221
17. 暗くなったマディーナ 222
18. 彼を慕って 224
19. 礼拝を導くアブー・バクル 225
20. 第 55 章：その遺産 226
21. 私たちは相続されない 227
22. ディーナールもディルハムもなく 228
23. 第 56 章：夢で彼を見ること 229
24. ヤズィード・ファーリスィーの夢 231
25. この知識こそ宗教である 232
26. 彼への祝福の祈り 232
27. 六部で描く一つの姿 233
28. 教訓と結び 234
29. 付録：彼に倣うためのチェックリスト 235
参考文献 237

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。

第一部

誰よりも美しい方

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 1〜7 章

容姿、預言者性の印、髪、白髪、染髪、コール

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

誰よりも美しい方

本書は、シリーズ『**預言者のスィーラ（生涯）**』の続編である。スィーラがアッラーの使徒 ﷺ の誕生から逝去までの**人生の歩み**をたどったのに対し、本書『**預言者 ﷺ のシャマーイル**』は、彼の容姿、衣服、食事、言葉、崇拝、人柄といった**彼ご自身により近づく**ことを目指す。章立ては、非常に有名な一冊の書物、すなわち**イマーム・ティルミズィー**の『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』に従う。

この第一部は同書の**第 1 章から第 7 章**、すなわちそのお姿、預言者性の印、髪、髪の手入れ、白髪、染髪、コール（目墨）を扱い、合わせて **53 の伝承**を含む。サヒーフ（真正）とハサン（良好）の伝承はハディースの枠で紹介し、ダイーフ（弱い）伝承は注の枠で説明する。

なぜ彼の容姿を知るのか。それは**愛は知ることから生まれる**からである。彼を見た教友たちはあらゆる細部を守り伝えた。後の世代、そして私たちもまた、彼らの言葉を通して彼を知ることができるように。

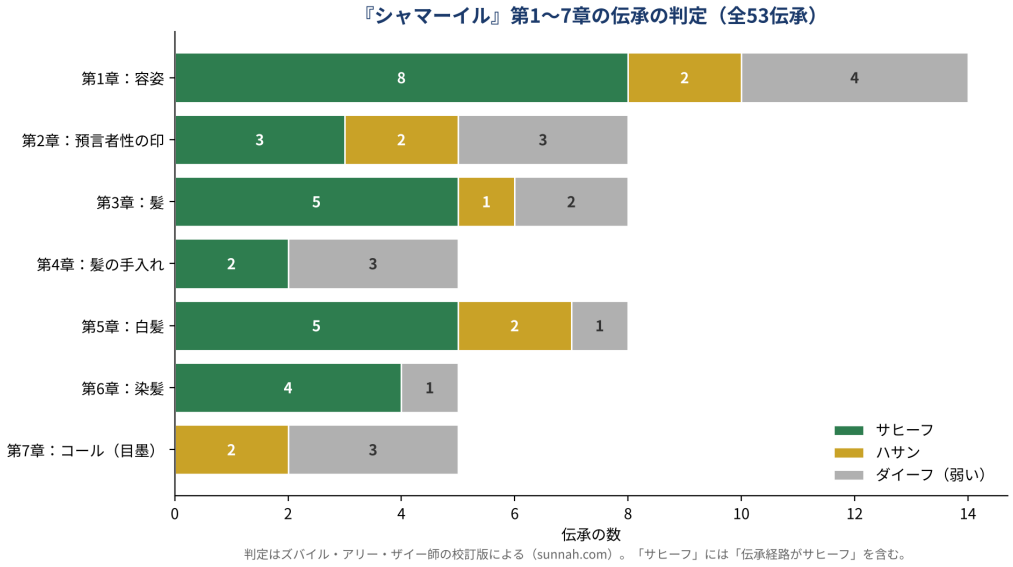


図 1：『シャマーイル』第 1〜7 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。アッラーの使徒 ﷺ への敬意から、そのお姿は言葉のみで伝え、絵は一切用いない。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：12 / 238

『シャマーイル』を知る

シャマーイルという語は**シマール**の複数形で、性質、気質、ふるまいを意味する。ハディース学者の用語では、『**シャマーイル**』とは、アッラーの使徒 ﷺ の**身体的特徴と人柄**、そして日常生活におけるふるまいや習慣についての伝承を集めた分野を指す。

『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』は、この分野で最も有名な書物である。イマーム・ティルミズィーはこれを **56 の章**に分け、彼の容姿から始めて、夢で彼を見ることについての章で締めくくった。完全な伝承経路を備えた伝承は **400 を超える**。

この書は多くの学者によって注釈されてきた。ムッラー・アリー・カーリーの『**ジャムウ・ル＝ワサーイル**』や、シャイフ・イブラーヒーム・バージューリーの『**マワーヒブ・ラドゥニーヤ**』などである。近代では、シャイフ・ナースィルッディーン・アルバーニーが弱い伝承を除いて『**ムフタサル・シャマーイル**』に要約し、シャイフ・ズバイル・アリー・ザイーがすべての伝承経路を判定した。

マレー世界でもこの書はよく知られ、特にバージューリーの注釈を通して、ポンドック（伝統的な寄宿学校）やモスクで教えられている。これを学ぶことは、アッラーの使徒 ﷺ への**愛を心の中で生き生きとさせる**一つの道である。

イマーム・ティルミズィー

彼の正式な名は**アブー・イーサー・ムハンマド・イブン・イーサー・イブン・サウラ・ティルミズィー**である。ヒジュラ暦 **209 年**ごろ、ジャイフーン川（アムダリヤ川）のほとりの町ティルミズの近く、現在の**ウズベキスタン**に生まれた。

彼はハディースを求めてホラーサーン、イラク、ヒジャーズを旅し、**イマーム・ブハーリー**、**イマーム・ムスリム**、**イマーム・アブー・ダーウード**といった偉大なイマームたちに学んだ。彼はブハーリーの最も近しい弟子であり、伝承者やハディースについての師の判断をしばしば引用した。

彼の最大の著作は、六大ハディース集の一つである『**ジャーミウ**』（『スナン・ティルミズィー』）である。ほかに『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』や『**イラル**』も著した。晩年には盲目となり、ヒジュラ暦 **279 年**に亡くなった。

注：ブハーリーによる弟子への賞賛

ザハビーによれば、イマーム・ブハーリーはあるときティルミズィーにこう言った。「私があなたから得た益は、あなたが私から得た益よりも多い。」この言葉は、師のもとでのティルミズィーの優秀さと地位を示している。ただし、これは詳しく検証された伝承経路ではなく、伝記資料を通して伝えられたものである。

出典：

ザハビー『スィヤル・アアラーム・ヌバラーゥ』（ティルミズィーの伝記）、イブン・ハジャル『タフズィーブ・タフズィーブ』。

イマーム・ティルミズィーはまた、アッラーへの畏れから**敬虔で、よく涙を流す人**として知られていた。ザハビーによれば、彼は涙を流し続け、晩年には盲目になったという。豊かな学識は彼を高慢にせず、かえってアッラーへの畏れを深めたのである。

本書の方法

『シャマーイル』には**さまざまな判定**の伝承が含まれている。イマーム・ティルミズィーは、当時のハディース学者たちと同様に、読者が自ら判断できるよう完全な伝承経路とともに伝えた。そのため、その伝承にはサヒーフのもの、ハサンのもの、そしてダイーフ（弱い）ものがある。

本書では三つの原則を守る。（1）**サヒーフとハサン**の伝承は、リンク付きの伝承経路とともにハディースの枠で紹介する。（2）**ダイーフ**の伝承は注の枠で説明し、その意味が他のサヒーフな伝承によって支えられている場合はそのことを記す。（3）各伝承の判定を明確に記す。

用いる判定は、sunnah.com に示された**シャイフ・ズバイル・アリー・ザイー**のものであり、見解が異なる場合にはシャイフ・アルバーニーの判定にも触れる。ハディース学者の間の見解の違いはごく普通のことであり、それはスンナを守る彼らの**細心さ**を示している。

図 1 が示すように、第 1〜7 章の 53 の伝承のうち、およそ **3 分の 2** がサヒーフまたはハサンである。つまり、アッラーの使徒 ﷺ の容姿の基本的な姿は、**確かな伝承**を通して私たちに届いているのである。

この方法は、預言者 ﷺ の次の警告に沿うものである。「偽りと知りながら私についてハディースを語る者は、嘘つきの一人である」（『サヒーフ・ムスリム』序文）。だからこそ、彼に何かを帰するときには慎重でなければならない。

第 1 章：そのお姿

『シャマーイル』の第 1 章は「**アッラーの使徒 ﷺ のお姿について伝えられたこと**」と題されている。そこには、彼を自分の目で見た教友たち、すなわちアナス・イブン・マーリク、バラーゥ・イブン・アーズィブ、アリー・イブン・アビー・ターリブ、ジャービル・イブン・サムラ、アブー・フライラ、ジャービル・イブン・アブドゥッラー、アブー・トゥファイルらによる 14 の伝承が収められている（アッラーが彼らに満悦されますように）。

これらの教友たちは画家ではなかったが、言葉にはきわめて正確であった。彼らはアラブ人に分かる比喩、すなわち**月、銀、剣**を用い、あらゆる特徴を的確な語で名指した。後の学者たちは、これらの語を一つ一つ説明した。

教友たちは皆、単なる観察ではなく**愛**をもって彼を描写した。彼を深く愛していたからこそ、あらゆる細部を覚えていたのである。そしてその愛が、これらの伝承を私たちのもとまで守り届けた。

高すぎず、低すぎず

『シャマーイル』の最初の伝承は、十年間アッラーの使徒 ﷺ に仕えた**アナス・イブン・マーリク** رضى الله عنه によるものである。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 1 番

حَدَّثَنَا أَبُو رَجَاءٍ قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَنَسٍ، عَنْ رَبِيعَةَ بْنِ أَبِي عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّهُ سَمِعَهُ، يَقُولُ: كَانَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، لَيْسَ بِالطَّوِيلِ الْبَائِنِ، وَلاَ بِالْقَصِيرِ، وَلاَ بِالأَبْيَضِ الأَمْهَقِ، وَلاَ بِالآدَمِ، وَلاَ بِالْجَعْدِ الْقَطَطِ، وَلاَ بِالسَّبْطِ، بَعَثَهُ اللَّهُ تَعَالَى عَلَى رَأْسِ أَرْبَعِينَ سَنَةً، فَأَقَامَ بِمَكَّةَ عَشْرَ سِنِينَ، وَبِالْمَدِينَةِ عَشْرَ

سِنِينَ، وَتَوَفَّاهُ اللَّهُ تَعَالَى عَلَى رَأْسِ سِتِّينَ سَنَةً، وَلَيْسَ فِي رَأْسِهِ وَلِحْيَتِهِ عِشْرُونَ شَعَرَةً بَيْضَاءَ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、背が高すぎることも低すぎることもなく、青白い白さでも浅黒さでもなく、髪は強く縮れてもおらず、まっすぐでもなかった。**至高なるアッラーは彼を四十歳で遣わされた。彼はマッカに十年、マディーナに十年とどまり、アッラーは彼を六十歳で召された。**そのとき頭とあごひげの白髪は二十本にも満たなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・ラジャーゥ・クタイバ・イブン・サイード ← マーリク・イブン・アナス ← ラビーア・イブン・アビー・アブドゥッラフマーン ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 1 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3547 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2347 番にもある。

判定： サヒーフ（真正）な伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。同じ意味の伝承は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』にもある。

ソース：sunnah.com/shamail:1

このハディースからの教訓

アナスは「～すぎず、～すぎず」という言い方を用いた。まるで彼のそれぞれの特徴が**最も均衡のとれた中間点**に立っているかのようである。学者たちは、この身体の均衡が彼の教えの均衡、すなわち極端にも怠慢にも偏らないことを映していると指摘する。

このハディースはまた、預言者としての**年表**を要約している。四十歳で遣わされ、マッカとマディーナで暮らし、六十歳ほどで亡くなった。より正確な伝承によれば、彼はマッカに 13 年住み、63 歳で亡くなった。学者たちは、アナスが端数を数えずに概数を述べたのだと説明する。

そして、とても個人的な細部に注目してほしい。**白髪は二十本にも満たなかった。**毎日彼に仕えたアナスのように、ごく身近な人でなければ、これほど細かいことは知りえない。白髪については第 5 章で再び取り上げる。

中背で堂々とした方

続く伝承はアナスの描写を裏付けている。第二の伝承でアナスはこう言った。「アッラーの使徒 ﷺ は**中背**で、高くも低くもなく、**体格がよく**、髪は縮れてもまっすぐでもなく、肌は小麦色であった。**歩くときは、しっかりとした足取りで歩かれた**」（『シャマーイル』2）— サヒーフ。

バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。「アッラーの使徒 ﷺ は中背の人で、**肩幅が広く**、豊かな髪は耳たぶに届き、赤い衣をまとっておられた。**私は彼より美しいものを見たことがない**」（『シャマーイル』3）— 伝承経路はサヒーフ。

別の伝承では彼はこう言った。「赤い衣をまとった長髪の人で、**アッラーの使徒 ﷺ より美しい人を私は見たことがない**」（『シャマーイル』4）— サヒーフ。本書の題名『**誰よりも美しい方**』は、このバラーゥの言葉から取ったものである。

> **注：赤い衣について**
>
> 学者たちは、彼がまとった「赤いフッラ」は全体が赤いのではなく、**赤い縞模様**、すなわち赤い線の入ったイエメン産の布であったと説明する。衣服については第二部（衣服の章）で改めて述べる。
>
> **出典：**
> イブン・ハジャル『ファトフ・ル＝バーリー』、イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』衣服の章。

アリー・イブン・アビー・ターリブの描写

彼の従弟であり娘婿でもあり、彼の家で育ったアリー・イブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は、さらに詳しい描写を伝えている。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 5 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا الْمَسْعُودِيُّ، عَنْ عُثْمَانَ بْنِ مُسْلِمِ بْنِ هُرْمُزَ، عَنْ نَافِعِ بْنِ جُبَيْرِ بْنِ مُطْعِمٍ، عَنْ عَلِيِّ بْنِ أَبِي طَالِبٍ، قَالَ: لَمْ يَكُنِ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِالطَّوِيلِ، وَلا بِالْقَصِيرِ، شَثْنَ الْكَفَّيْنِ وَالْقَدَمَيْنِ، ضَخْمَ الرَّأْسِ، ضَخْمَ الْكَرَادِيسِ، طَوِيلَ الْمَسْرُبَةِ، إِذَا مَشَى تَكَفَّأَ تَكَفُّؤًا، كَأَنَّمَا يَنْحَطُّ مِنْ صَبَبٍ، لَمْ أَرَ قَبْلَهُ، وَلا بَعْدَهُ مِثْلَهُ، صلى الله عليه وسلم.

日本語訳：

アリー・イブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ は背が高くも低くもなかった。手のひらと足は厚く、しっかりしていた。頭は大きく、関節も大きかった。胸からへそにかけての毛の筋は長かった。歩くときは、坂を下るかのように前かがみになった。彼の前にも後にも、彼のような人を私は見たことがない ﷺ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・イスマーイール（ブハーリー）← アブー・ヌアイム・ファドル・イブン・ドゥカイン ← マスウーディー ← ウスマーン・イブン・ムスリム・イブン・フルムズ ← ナーフィウ・イブン・ジュバイル・イブン・ムトイム ← アリー・イブン・アビー・ターリブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 5 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3637 番（ハサン・サヒーフ）にもある。

判定： ハサン（良好）な伝承経路 ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは『ジャーミウ』で「ハサン・サヒーフ」と判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:5

このハディースからの教訓

アリーの描写は**力強さ**を強調している。しっかりした手足、大きな関節。彼は身体的に弱い人ではなかった。塹壕を掘り、バドルとウフドで戦い、長い距離を歩いた。**坂を下るかのように前かがみになる**その歩き方は、怠惰でも尊大でもない、活力に満ちた目的ある足取りを示している。

注：アリーの長い伝承（『シャマーイル』7）

ティルミズィーは、アリーの孫であるイブラーヒーム・イブン・ムハンマドを通して、アリーによるより長い描写も伝えている。そこにはこうある。お顔はやや丸く、白く赤みを帯び、瞳は深く黒く、まつ毛は長かった。「**不意に彼を見た者は畏敬の念に打たれ、彼と親しくなった者は彼を愛した。**」

この伝承の伝承経路は、イブラーヒーム・イブン・ムハンマドとアリーの間が途切れているため**ダイーフ**である。とはいえ、その内容の大部分は、この章の他のサヒーフな伝承によって支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 7 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:7

ヒンド・イブン・アビー・ハーラのハディース

この章で最も長い伝承は**ハサン・イブン・アリー** رضي الله عنهما によるものである。彼はおじの**ヒンド・イブン・アビー・ハーラ**に、アッラーの使徒 ﷺ の容姿について尋ねた。ヒンドは彼の継子（ハディージャの前夫との子）で、描写の巧みさで知られていた。

注：ヒンド・イブン・アビー・ハーラのハディース（『シャマーイル』8）

ヒンドの描写には次のようなものがある。**お顔は満月の夜の月のように輝いていた。**額は広く、眉は弓なりで離れており、その間には怒ると浮き上がる血管があった。あごひげは濃く、首は銀で彫られた像の首のようであった。胸は広く、足の裏はなめらかで水がたまらなかった。

そのふるまいについてはこうある。「**彼はよく目を伏せ、空よりも地面を見ている時間のほうが長かった。教友たちの後ろを歩き、出会う人には自分から先に挨拶された。**」

この伝承の伝承経路には素性の知られない伝承者（タミーム族の一人の男）が含まれるため**ダイーフ**である。それでも非常に有名であり、その内容の多くはサヒーフな伝承と一致している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 8 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:8

この伝承からは**知識を求める作法**も学ぶことができる。孫であるハサンは、より詳しく知る人に尋ねた。彼は言った。「私がしっかりと心に留めておけるようなことを描写してほしかったのです。」教友たちの後の世代は彼を慕い、彼を見た人々を通して彼を知ろうと努めたのである。

口、目、かかと

ジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنهما は、三つの特徴をごく簡潔な言葉で描写した。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 9 番

حَدَّثَنَا أَبُو مُوسَى مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ سِمَاكِ بْنِ حَرْبٍ، قَالَ: سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ سَمُرَةَ، يَقُولُ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم ضَلِيعَ الْفَمِ، أَشْكَلَ الْعَيْنِ، مَنْهُوسَ الْعَقِبِ.

日本語訳：

スィマーク・イブン・ハルブは言った。私はジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنهما がこう言うのを聞いた。「**アッラーの使徒 ﷺ は、ダリーウ・ル＝ファム（口が大きく）、アシュカル・ル＝アイン（目の切れ長が長く）、マンフース・ル＝アキブ（かかとの肉が少ない）方であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・ムーサー・ムハンマド・イブン・ムサンナー ← ムハンマド・イブン・ジャアファル（グンダル） ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← スィマーク・イブン・ハルブ ← ジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 9 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2339 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:9

このハディースからの教訓

この伝承の中で、伝承者シュウバは師のスィマークに各語の意味を尋ね、スィマークはこう説明した。**ダリーウ・ル＝ファム**は口が大きいこと、**アシュカル・ル＝アイン**は目の切れ長が長いこと、**マンフース・ル＝アキブ**はかかとの肉が少ないことである。アラブ人にとって、大きな口は**雄弁**のしるしであり、切れ長の目は美しさのしるしであった。

ハディースの伝承者たちの**正確さ**に注目してほしい。彼らは言葉だけで満足せず、誤解されないようにその意味を尋ねた。これこそが、何世紀にもわたってスンナを守ってきた、知識に対する誠実さである。

「いいえ、むしろ月のよう」

アッラーの使徒 ﷺ のお顔を表す最も有名なたとえは、**月**である。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 11 番

حَدَّثَنَا سُفْيَانُ بْنُ وَكِيعٍ، حَدَّثَنَا حُمَيْدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الرُّؤَاسِيُّ، عَنْ زُهَيْرٍ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ: سَأَلَ رَجُلٌ الْبَرَاءَ بْنَ عَازِبٍ: أَكَانَ وَجْهُ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم مِثْلَ السَّيْفِ؟ قَالَ: لا، بَلْ مِثْلَ الْقَمَرِ.

日本語訳：

アブー・イスハークは言った。ある男がバラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما に尋ねた。「**アッラーの使徒 ﷺ のお顔は剣のようでしたか。**」彼は答えた。「**いいえ、むしろ月のようであった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：スフヤーン・イブン・ワキーウ ← フマイド・イブン・アブドゥッラフマーン・ルアースィー ← ズハイル・イブン・ムアーウィヤ ← アブー・イスハーク・サビーイー ← バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 11 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3552 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:11

このハディースからの教訓

尋ねた男は、剣の刃のようにきらめく細長い顔を思い描いていたのかもしれない。バラーゥはそれを否定した。お顔は月のように**やや丸みを帯び、柔らかく輝いて**おり、細長く鋭いものではなかった。月の光はまぶしくなく、心を和ませる。彼を見る人々にとって、彼のお顔はまさにそのようであった。

注：「月よりも美しい」（『シャマーイル』10）

ジャービル・イブン・サムラは言った。「月の明るい夜、赤い衣をまとったアッラーの使徒 ﷺ を見た。私は彼と月とを見比べた。**私には、彼のほうが月よりも美しかった。**」

この伝承は非常に有名だが、伝承者アシュアス・イブン・サウワールのため、ズバイル・アリー・ザイーによれば伝承経路は**ダイーフ**である。これは『ジャーミウ・ティルミズィー』（第 2811 番）にもあり、そこでも同様に弱いと判定されている。その基本的な意味、すなわち月のようなお顔は、上のバラーゥのハディースによって確かである。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 10 番、『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2811 番。
sunnah.com/shamail:10

これはまた、アッラーの使徒 ﷺ の**真の美しさ**がお顔だけでなく、彼がもたらした導きの光にあることを思い出させてくれる。月のようなそのお顔は、クルアーンとスンナによって世界を照らしたのである。

銀で形づくられたかのよう

アブー・フライラ رضى الله عنه は別のたとえを伝えた。「アッラーの使徒 ﷺ は白く、**まるで銀で形づくられたかのよう**で、髪はゆるやかに波打っていた」（『シャマーイル』12）— ハサン。銀は、青白くはなく、白く輝く肌を思わせる。

学者たちは、肌の色についての伝承を総合する。アナスは「青白い白さでも浅黒さでもない」と言い、別の伝承では「小麦色」と言った。結論として、彼は**赤みを帯びた輝く白さ**であり、それはアラブ人の目に最も美しい色であった。

最後に亡くなった教友である**アブー・トゥファイル** رضى الله عنه は言った。「私は預言者 ﷺ を見た。**今、地上で彼を見た者は私のほかに一人も残っていない。**」描写を求められると、彼は言った。「彼は白く、好ましいお顔で、中くらいの体格であった」（『シャマーイル』14）— サヒーフ。アブー・トゥファイルはヒジュラ暦 100〜110 年ごろに亡くなり、彼の死とともに教友の時代は終わった。

注：前歯の間の光（『シャマーイル』15）

イブン・アッバースは、彼の前歯にはわずかに隙間があり、話すとその間から光が出てくるように見えたと伝えた。この伝承の伝承経路は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**非常に弱い**ため、根拠にすることはできない。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 15 番 — 伝承経路は非常に弱い。 sunnah.com/shamail:15

示された預言者たち

第 1 章には、心ひかれるハディースも収められている。アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、示された何人かの預言者たちの姿を描写されたのである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 13 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: أَخْبَرَنِي اللَّيْثُ بْنُ سَعْدٍ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللهِ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: عُرِضَ عَلَيَّ الأَنْبِيَاءُ، فَإِذَا مُوسَى عَلَيْهِ

السَّلامُ، ضَرْبٌ مِنَ الرِّجَالِ، كَأَنَّهُ مِنْ رِجَالِ شَنُوءَةَ، وَرَأَيْتُ عِيسَى بْنَ مَرْيَمَ عَلَيْهِ السَّلامُ، فَإِذَا أَقْرَبُ مَنْ رَأَيْتُ بِهِ شَبَهًا عُرْوَةُ بْنُ مَسْعُودٍ، وَرَأَيْتُ إِبْرَاهِيمَ عَلَيْهِ السَّلامُ، فَإِذَا أَقْرَبُ مَنْ رَأَيْتُ بِهِ شَبَهًا صَاحِبُكُمْ، يَعْنِي نَفْسَهُ، وَرَأَيْتُ جِبْرِيلَ عَلَيْهِ السَّلامُ، فَإِذَا أَقْرَبُ مَنْ رَأَيْتُ بِهِ شَبَهًا دِحْيَةُ.

日本語訳：

ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**預言者たちが私に示された。**ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ は細身の人で、シャヌーア族の男たちの一人のようであった。マルヤムの子イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ を見たが、私が見た中で彼に最も似ているのはウルワ・イブン・マスウードである。**イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ を見たが、彼に最も似ているのはあなたがたの仲間である**（ご自身のこと）。そしてジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ を見たが、彼に最も似ているのはディフヤである。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ライス・イブン・サアド ← アブー・ズバイル ← ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 13 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 167 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:13

このハディースからの教訓

このハディースは、アッラーの使徒 ﷺ の容姿が、預言者たちの父であり彼の祖先である**預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ に最も似ていた**ことを示している。これは栄誉である。アッラーは、カアバを建てたイブラーヒームの面影を、イブラーヒームの宗教を完成させた最後の預言者のお顔に現されたのである。

これはまた、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ がときに、美しい容貌で知られた教友**ディフヤ・カルビー**の姿で現れた理由も説明している。ウンム・サラマなどの教友は、それと気づかずにディフヤの姿をしたジブリールを見たことがあった。

第 2 章：預言者性の印

ハータム・ン＝ヌブーワ、すなわち「預言者性の印」は、アッラーの使徒 ﷺ の両肩の間、左肩寄りにあった身体のしるしである。それは以前の啓典で最後の預言者のしるしの一つとして言及されており、啓典の民の中にはそれによって彼を見分けた人々もいた。

『シャマーイル』の第 2 章には、印についての 8 つの伝承がある。教友たちはそれを、**天蓋のボタン、ハトの卵、握りこぶし、毛の房**といったさまざまなイメージで描写した。これらの違いは矛盾ではない。それぞれの教友が、異なる角度から、異なる時に見たものを描写したのである。

「印（封緘）」という名には、より深い意味もある。アッラーは、ムハンマドが**「アッラーの使徒であり，また預言者たちの封緘である」**（部族連合章 33:40）と仰せられた。背中のこの身体のしるしは、預言者の系譜を閉じて確証する**封印**のようなものであった。

天蓋のボタンのよう

サーイブ・イブン・ヤズィード رضى الله عنه は、まだ子どもだったころに印を見た。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 16 番

حَدَّثَنَا أَبُو رَجَاءٍ قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا حَاتِمُ بْنُ إِسْمَاعِيلَ، عَنِ الْجَعْدِ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ: سَمِعْتُ السَّائِبَ بْنَ يَزِيدَ، يَقُولُ: ذَهَبَتْ بِي خَالَتِي إِلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، فَقَالَتْ: يَا رَسُولَ اللهِ، إِنَّ ابْنَ أُخْتِي وَجِعٌ فَمَسَحَ رَأْسِي وَدَعَا لِي بِالْبَرَكَةِ، وَتَوَضَّأَ، فَشَرِبْتُ مِنْ وَضُوئِهِ، وَقُمْتُ خَلْفَ ظَهْرِهِ، فَنَظَرْتُ إِلَى الْخَاتَمِ بَيْنَ كَتِفَيْهِ، فَإِذَا هُوَ مِثْلُ زِرِّ الْحَجَلَةِ.

日本語訳：

サーイブ・イブン・ヤズィード رضى الله عنه は言った。母方のおばが私を預言者 ﷺ のもとへ連れて行き、「アッラーの使徒よ、私の姉妹の息子が病気です」と言った。**すると彼は私の頭をなで、私のために祝福を祈ってくださった。**それから彼はウドゥー（小浄）

をされ、私はその水を飲んだ。私は彼の後ろに立ち、**両肩の間にある印を見た。それは婚礼の天蓋のボタンのようであった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・ラジャーゥ・クタイバ・イブン・サイード ← ハーティム・イブン・イスマーイール ← ジャアド・イブン・アブドゥッラフマーン ← サーイブ・イブン・ヤズィード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 16 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 190 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2345 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:16

このハディースからの教訓

このハディースは、アッラーの使徒 ﷺ の子どもたちへの**優しさ**を示している。彼は病気の少年の頭をなで、その子のために祈り、そばに近づくことを許された。サーイブは長生きし、マディーナで亡くなった最後の教友の一人となった。彼の弟子は、94 歳になってもなお丈夫で背筋の伸びた彼を見ている。サーイブは、自分の耳と目が衰えないのは預言者の祈りのおかげだと語った（『サヒーフ・ブハーリー』3540）。

注：ハトの卵のよう（『シャマーイル』17〜19）

ティルミズィーはジャービル・イブン・サムラから、印は「**赤みを帯びたハトの卵のよう**」であったと伝えている。ティルミズィーの伝承経路はダイーフだが、その意味は**確か**である。イマーム・ムスリムが別の伝承経路でジャービル・イブン・サムラから「ハトの卵のようで、その色は彼の体の色に似ていた」と伝えているからである（『サヒーフ・ムスリム』2344）。

サアド・イブン・ムアーズの死に際して玉座が揺れたというルマイサの伝承（第 18 番）は、ここでは伝承経路がダイーフだが、出来事そのものは『サヒーフ・ブハーリー』第 3803 番で**確か**である。

出典：

『シャマーイル』17〜19、『サヒーフ・ムスリム』2344、『サヒーフ・ブハーリー』3803。
sunnah.com/muslim:2344a

「毛の房」

アブー・ザイド・アムル・イブン・アフタブ رضى الله عنه は、預言者の求めに応じて、自分の手で印に触れたことがある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 20 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو عَاصِمٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَزْرَةُ بْنُ ثَابِتٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي عِلْبَاءُ بْنُ أَحْمَرَ الْيَشْكُرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنِي أَبُو زَيْدٍ عَمْرُو بْنُ أَخْطَبَ الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: قَالَ لِي رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: يَا أَبَا زَيْدٍ، ادْنُ مِنِّي فَامْسَحْ ظَهْرِي، فَمَسَحْتُ ظَهْرَهُ، فَوَقَعَتْ أَصَابِعِي عَلَى الْخَاتَمِ قُلْتُ: وَمَا الْخَاتَمُ؟ قَالَ: شَعَرَاتٌ مُجْتَمِعَاتٌ.

日本語訳：

アブー・ザイド・アムル・イブン・アフタブ・アンサーリー رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は私に言われた。「**アブー・ザイドよ、近くに来て私の背中をさすってくれ。**」そこで私が背中をさすると、指が印に触れた。（伝承者が尋ねた）「その印とは何でしたか。」彼は言った。「**毛の房であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブー・アースィム・ダッハーク・イブン・マフラド ← アズラ・イブン・サービト ← イルバーゥ・イブン・アフマル・ヤシュクリー ← アブー・ザイド・アムル・イブン・アフタブ・アンサーリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 20 番に収録。『ムスナド・アフマド』にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:20

このハディースからの教訓

彼の**温かさ**に注目してほしい。彼は、父が息子にするように、教友に背中をさすってくれるよう頼まれた。別の伝承では、彼はアブー・ザイドの顔をなでて彼のために祈られた。伝承者によれば、アブー・ザイドは 120 歳まで生き、白髪はわずかしかなかったという（『ジャーミウ・ティルミズィー』3629 — サヒーフ）。

アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه は、それを「**背中の盛り上がった肉**」と描写した（『シャマーイル』22）— 伝承経路はハサン。これらの描写はすべて互いを補い合っている。それはハトの卵ほどの大きさの、わずかに盛り上がった肉の部分で、その上に何本かの毛があったのである。

印についての教友たちの描写の違いは、彼らの**誠実さ**も示している。彼らは話を合わせることをせず、それぞれが見たものを自分の言葉で伝えた。これは作り話ではなく、本物の伝承であることのしるしである。

今日の信仰者にとって、預言者性の印はもはや目で見ることのできるものではない。しかしその意味は残っている。ムハンマド ﷺ は最後の使徒であり、**彼の後に預言者は来ない**。この信仰を堅く守ることが、あらゆる時代の偽預言者からウンマを守るのである。

サルマーン・ファーリスィーと印

この章で最も心を打つ物語は、**サルマーン・ファーリスィー** رضى الله عنه の物語である。サルマーンはペルシアの出身で、ゾロアスター教を離れ、何人かのキリスト教の修道士のもとで学んだ。最後の師は、来たるべき預言者のしるしを彼に教えた。**その預言者は施しを食べず、贈り物は受け取り、両肩の間には預言者性の印がある**、と。やがて彼は奴隷として売られ、マディーナにたどり着いた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 21 番

حَدَّثَنَا أَبُو عَمَّارٍ الْحُسَيْنُ بْنُ حُرَيْثٍ الْخُزَاعِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ حُسَيْنِ بْنِ وَاقِدٍ، حَدَّثَنِي أَبِي، قَالَ: حَدَّثَنِي عَبْدُ اللهِ بْنُ بُرَيْدَةَ، قَالَ: سَمِعْتُ أَبِي بُرَيْدَةَ، يَقُولُ: جَاءَ سَلْمَانُ الْفَارِسِيُّ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، حِينَ قَدِمَ الْمَدِينَةَ بِمَائِدَةٍ عَلَيْهَا رُطَبٌ، فَوَضَعَهَا بَيْنَ

يَدَيْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، فَقَالَ: يَا سَلْمَانُ مَا هَذَا؟ فَقَالَ: صَدَقَةٌ عَلَيْكَ، وَعَلَى أَصْحَابِكَ، فَقَالَ: ارْفَعْهَا، فَإِنَّا لا نَأْكُلُ الصَّدَقَةَ، قَالَ: فَرَفَعَهَا، فَجَاءَ الْغَدَ بِمِثْلِهِ، فَوَضَعَهُ بَيْنَ يَدَيْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، فَقَالَ: مَا هَذَا يَا سَلْمَانُ؟ فَقَالَ: هَدِيَّةٌ لَكَ، فَقَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم لأَصْحَابِه: ابْسُطُوا ثُمَّ نَظَرَ إِلَى الْخَاتَمِ عَلَى ظَهْرِ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، فَآمَنَ بِه، وَكَانَ لِلْيَهُودِ فَاشْتَرَاهُ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، بِكَذَا وَكَذَا دِرْهَمًا عَلَى أَنْ يَغْرِسَ لَهُمْ نَخْلا، فَيَعْمَلَ سَلْمَانُ فِيه، حَتَّى تُطْعِمَ، فَغَرَسَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، النَّخلَ إِلا نَخْلَةً وَاحِدَةً، غَرَسَهَا عُمَرُ فَحَمَلَتِ النَّخْلُ مِنْ عَامِهَا، وَلَمْ تَحْمِلْ نَخْلَةٌ، فَقَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: مَا شَأْنُ هَذِهِ النَّخْلَةِ؟ فَقَالَ عُمَرُ: يَا رَسُولَ اللهِ، أَنَا غَرَسْتُهَا، فَنَزَعَهَا رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، فَغَرَسَهَا فَحَمَلَتْ مِنْ عَامِهَا.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・ブライダは言った。私は父ブライダ رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに来られたとき、サルマーン・ファーリスィーが生のナツメヤシの実を盛った盆を持って来て、彼の前に置いた。彼は尋ねた。「サルマーンよ、これは何か。」彼は言った。「あなたとお仲間への施し（サダカ）です。」彼は言われた。「**下げなさい。私たちは施しを食べないのだ。**」翌日、彼は同じものを持って来て、「これはあなたへの贈り物です」と言った。するとアッラーの使徒 ﷺ は教友たちに「手を伸ばして（食べなさい）」と言われた。**それからサルマーンはアッラーの使徒 ﷺ の背中の印を見て、彼を信じた。**当時サルマーンはユダヤ教徒たちの奴隷であったので、アッラーの使徒 ﷺ は一定のディルハムで彼を買い取られた。ナツメヤシを植え、実がなるまでサルマーンが世話をするという条件であった。アッラーの使徒 ﷺ は、ウマルが植えた一本を除いて、すべての木をご自身で植えられた。その年のうちに、その一本以外はすべて実をつけた。彼がそれについて尋ねると、ウマルは「私が植えました」と言った。**そこでアッラーの使徒 ﷺ はそれを抜いて植え直され、その木はその年のうちに実をつけた。**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・アンマール・フサイン・イブン・フライス・フザーイー ← アリー・イブン・フサイン・イブン・ワーキド ← フサイン・イブン・ワーキド（その父） ← アブドゥッラー・イブン・ブライダ ← ブライダ・イブン・フサイブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 21 番に収録。『ムスナド・アフマド』にもある。

判定： ハサンな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:21

このハディースからの教訓

サルマーンは三つのしるしを一つずつ確かめた。**施しは断られ、贈り物は受け取られ、そして印を見た。**三つすべてが確かめられたとき、彼はすぐに信仰した。これは単なる模倣ではなく、**知識と探求**の上に築かれた信仰である。

ナツメヤシの木の話は、彼の**奇跡**と、奴隷を解放しようとする熱意を示している。アッラーの使徒 ﷺ はご自身の手で木を植えられ、彼が植えた木はその年のうちに実をつけた。サルマーンの物語の全体は、スィーラのシリーズで触れた。

「あなたにも」

アブドゥッラー・イブン・サルジス رضى الله عنه は印を見たいと願ったが、頼むのをためらっていた。アッラーの使徒 ﷺ は、一言もなしに彼の望みを察せられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 23 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ الْمِقْدَامِ أَبُو الأَشْعَثِ الْعِجْلِيُّ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: أَخْبَرَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ عَاصِمٍ الأَحْوَلِ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ سَرْجِسَ، قَالَ: أَتَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ فِي نَاسٍ مِنْ أَصْحَابِهِ، فَدُرْتُ هَكَذَا مِنْ خَلْفِهِ، فَعَرَفَ الَّذِي أُرِيدُ، فَأَلْقَى الرِّدَاءَ عَنْ ظَهْرِهِ، فَرَأَيْتُ مَوْضِعَ الْخَاتَمِ عَلَى كَتِفَيْهِ، مِثْلَ الْجُمْعِ حَوْلَهَا خِيلاَنٌ، كَأَنَّهَا ثَآلِيلُ، فَرَجَعْتُ حَتَّى اسْتَقْبَلْتُهُ، فَقُلْتُ: غَفَرَ اللَّهُ لَكَ يَا رَسُولَ اللهِ، فَقَالَ: وَلَكَ فَقَالَ الْقَوْمُ:

أَسْتَغْفَرَ لَكَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم؟ فَقَالَ: نَعَمْ، وَلَكُمْ، ثُمَّ تَلا هَذِهِ الآيَةَ ﴿وَاسْتَغْفِرْ لِذَنْبِكَ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَالْمُؤْمِنَاتِ﴾

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・サルジス رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ が教友たちの中におられるところへ私は行き、このように彼の後ろへ回った。**すると彼は私の望みを察し、背中から外套を下ろされた。**私は彼の両肩の上に、握りこぶしのような印の場所を見た。その周りにはいぼのようなほくろがあった。それから私は前へ回って言った。「アッラーがあなたをお赦しくださいますように、アッラーの使徒よ。」彼は言われた。「**あなたにも。**」人々は尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ があなたのために赦しを請われたのですか。」彼は言った。「そうだ、あなたがたのためにも」と。そして次の節を読んだ。「**あなたの罪過に対し御赦しを請え。また信仰する男たち，信仰する女たちのためにも**」（ムハンマド章 47:19）。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・ミクダーム・アブー・アシュアス・イジュリー ← ハンマード・イブン・ザイド ← アースィム・アフワル ← アブドゥッラー・イブン・サルジス رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 23 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2346 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:23

このハディースからの教訓

彼が読まれた節はこれである。「**あなたの罪過に対し御赦しを請え。また信仰する男たち，信仰する女たちのためにも御赦しを請え**」（ムハンマド章 47:19）— タフスィール・イブン・カスィール 47:19。

このハディースには三つの教訓がある。（1）他人の気持ちに対する彼の**繊細さ**。（2）彼のために赦しを祈ったアブドゥッラー・イブン・サルジスの**礼儀正しさ**。（3）その祈りに応えるだけでなく、今日の私たちを含むすべての信仰者のためにも赦しを請われた彼の**愛**である。

第 3 章：その髪

『シャマーイル』の第 3 章には、アッラーの使徒 ﷺ の髪についての 8 つの伝承がある。サヒーフな伝承は、**髪の長さが時期によって異なった**ことを示している。ときには**耳の半ばまで**（『シャマーイル』24）、ときには**耳たぶまで**（『シャマーイル』26）、そしてときには**肩に触れるほど**であった（『シャマーイル』4）。

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「アッラーの使徒 ﷺ と私は一つの器から沐浴した。彼の髪は**耳たぶより長く、肩には届かなかった**」（『シャマーイル』25）— 伝承経路はハサン。カターダがアナスに彼の髪について尋ねると、アナスは答えた。「縮れてもまっすぐでもなく、耳たぶに届いていた」（『シャマーイル』27）— 伝承経路はサヒーフ。

学者たちの説明によれば、彼はハッジとウムラのとき以外は**頭を常に剃ることはなかった**。剃った後、髪はまた長く伸びたので、教友たちはそれぞれ自分が見た時の長さを描写したのである。ここから学者たちは、髪を整えて**伸ばしておくこと**はスンナであり、剃ることもまた許されると結論した。

垂らし、そして分ける

ある重要な伝承は、彼の髪型の変化を説明している。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 30 番

حَدَّثَنَا سُوَيْدُ بْنُ نَصْرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ يُونُسَ بْنِ يَزِيدَ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ عُتْبَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ: أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ كَانَ يُسْدِلُ شَعْرَهُ، وَكَانَ الْمُشْرِكُونَ يَفْرِقُونَ رُءُوسَهُمْ، وَكَانَ أَهْلُ الْكِتَابِ يُسْدِلُونَ رُءُوسَهُمْ، وَكَانَ يُحِبُّ مُوَافَقَةَ أَهْلِ الْكِتَابِ فِيمَا لَمْ يُؤْمَرْ فِيهِ بِشَيْءٍ، ثُمَّ فَرَقَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ رَأْسَهُ.

日本語訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は伝えた。「**アッラーの使徒 ﷺ は髪を前に垂らしておられた。多神教徒たちは髪を分け、啓典の民は髪を垂らしていた。彼は、命令が下され**

ていない事柄については啓典の民に合わせることを好まれた。その後、アッラーの使徒 ﷺ は髪を分けられた。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：スワイド・イブン・ナスル ← アブドゥッラー・イブン・ムバーラク ← ユーヌス・イブン・ヤズィード ← イブン・シハーブ・ズフリー ← ウバイドゥッラー・イブン・アブドゥッラー・イブン・ウトバ ← イブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 30 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3558 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2336 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:30

このハディースからの教訓

マッカでは、彼は初め啓典の民のように髪を前に垂らしておられた。啓典の民は多神教徒よりも啓示の宗教に近かったからである。その後、彼は**髪を真ん中で分けられ**、この髪型は生涯の終わりまで続いた。

学者たちはこのハディースから、**ムスリムとしてのアイデンティティ**についての教訓を引き出している。具体的な命令のない事柄では、彼は初め啓典の民の側に傾いておられた。その後、ムスリム共同体が確立するにつれて、白髪を染めることのように（第 6 章）、ムスリムを**際立たせる**多くの特徴を定められたのである。

このハディースはまた、**シャリーアが段階的に啓示された**ことも示している。啓示のない事柄では、彼は真理に最も近いものを選ばれた。その後、アッラーがより明確な規定を定められた。これは、文脈と時間の流れを見てスンナを理解するよう私たちに教えている。

今日、多くのムスリム男性は髪を短くしており、それもまた許されている。大切なのは、**清潔さと身だしなみにおいてスンナに従うという意図**であり、イスラームの価値観に反する集団を象徴するような髪型をまねないことである。

マッカでの四つの編み髪

注：四つの編み髪（『シャマーイル』28 と 31）

ウンム・ハーニゥ・ビント・アビー・ターリブ رضى الله عنها は言った。「アッラーの使徒 ﷺ は（マッカ開放の日に）マッカに来られたが、そのとき**四つの編み髪**をしておられた。」

ズバイル・アリー・ザイーは、ムジャーヒドがウンム・ハーニゥから直接聞いていないため、両方の伝承経路を**ダイーフ**と判定した。しかしシャイフ・アルバーニーは、『スナン・アビー・ダーウード』（第 4191 番）にある同じ伝承を**サヒーフ**と判定した。これはハディース学者の間で評価が分かれる一例である。

出典：

『シャマーイル』28、31、『スナン・アビー・ダーウード』4191。 sunnah.com/shamail:28

この伝承を受け入れるならば、長い旅の間、彼の長い髪は、整えて砂ぼこりや風から守るために**結ぶか編むかされていた**ことになる。それは過度の装飾ではなく、旅人としての**身だしなみ**であった。

この章全体から、アッラーの使徒 ﷺ が、清潔で整った、油をつけた髪というように、度を越すことなく**ご自身の身なりに気を配っておられた**ことを学ぶ。清潔さと身だしなみは、ムスリムの人格の一部なのである。

第 4 章：髪の手入れ

『シャマーイル』の第 4 章は**タラッジュル**、すなわち髪をとかし整えることについて述べている。最初の伝承はアーイシャ رضى الله عنها によるものである。「私は**月経中に**アッラーの使徒 ﷺ の髪をとかしていた」（『シャマーイル』32）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』第 295 番にもある。

このハディースには二つの教訓がある。第一に、**夫婦の愛情**である。妻が夫の髪をとかし、夫はそれを喜んで受け入れた。第二に、**月経中の女性の清浄さ**である。彼女の体は不浄ではなく、いつものように夫に触れ、仕え、世話をすることができる。

この教えは、月経中の女性を家族から隔離した過去のいくつかの社会の慣習とは大きく異なる。イスラームは**女性を尊び**、月経が人を汚れた者、卑しい者にするという考えを退けるのである。

アーイシャはまた、アッラーの使徒 ﷺ がモスクでイウティカーフ（籠もり）をしておられるとき、頭を彼女の部屋に差し入れ、月経中の彼女がその髪をとかしたことも伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』2028）。イウティカーフも、妻の愛情ある世話を受けることを妨げなかったのである。

右から始める

アッラーの使徒 ﷺ が大切にされたスンナの一つは、良い事柄において**右から始める**ことであった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 34 番

حَدَّثَنَا هَنَّادُ بْنُ السَّرِيِّ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو الأَحْوَصِ، عَنِ الأَشْعَثِ بْنِ أَبِي الشَّعْثَاءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ مَسْرُوقٍ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: إِنْ كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم لَيُحِبُّ التَّيَمُّنَ فِي طُهُورِهِ إِذَا تَطَهَّرَ، وَفِي تَرَجُّلِهِ إِذَا تَرَجَّلَ، وَفِي انْتِعَالِهِ إِذَا انْتَعَلَ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、身を清めるときの清め、髪をとかすときの整髪、サンダルを履くときの履き方において、右から始めることを好まれた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハンナード・イブン・サリー ← アブー・アフワス・サッラーム・イブン・スライム ← アシュアス・イブン・アビー・シャアサーゥ ← アブー・シャアサーゥ（その父） ← マスルーク ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 34 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 168 番、『サヒーフ・ムスリム』第 268 番にもある。

判定： サヒーフな伝承経路 — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:34

このハディースからの教訓

学者たちはその原則をこう説明する。ウドゥー、衣服やサンダルを身につけること、髪をとかすこと、食べること、飲むこと、モスクに入ることといった**尊く清らかな**事柄では、右を先にする。その反対の事柄、すなわちトイレに入ること、サンダルを脱ぐこと、モスクを出ることでは、左を先にする。

このスンナは小さなものだが、**日々のあらゆる動作**を崇拝に変える。スンナに従って右の靴から履くムスリムは、ごく普通の行いの中で報いを得る。幼いころから子どもたちに教えよう。

右から始めるスンナは、**恵み**についても教えている。学者たちは、右手はアッラーの恵みへの敬意のしるしとして尊いことに用い、左手は汚れを清めるために用いると指摘する。これは子どものころからムスリムの礼儀を形づくるしつけである。

アッラーの使徒 ﷺ は別のハディースでもこう教えられた。「あなたがたの誰かが食べるときは右手で食べ、飲むときは右手で飲みなさい」（『サヒーフ・ムスリム』2020）。このスンナについては、飲食についての巻で詳しく述べる。

身だしなみに凝りすぎない

アッラーの使徒 ﷺ は髪を整えておられたが、身だしなみに**凝りすぎることはなかった**。アブドゥッラー・イブン・ムガッファル رضي الله عنه は伝えた。「アッラーの使徒 ﷺ は、**ときどきでなければ**髪をとかすことを禁じられた」（『シャマーイル』35）。

注：これらの伝承の判定（『シャマーイル』33、35、36）

ズバイル・アリー・ザイーは、三つの伝承すべてを**伝承経路がダイーフ**と判定した。伝承 33（彼は髪に油をよくつけたので、頭の布が油売りの布のように見えた）は、伝承者ヤズィード・ラカーシーのためにダイーフである。

しかし伝承 35（ときどきでなければ髪をとかすことを禁じた）は『スナン・アビー・ダーウード』第 4159 番にもあり、シャイフ・アルバーニーはこれを**サヒーフ**と判定した。その意味は、装飾の行き過ぎを禁じる他のハディースによっても支えられている。

出典：

『シャマーイル』33、35、36、『スナン・アビー・ダーウード』4159。 sunnah.com/abudawud:4159

学者たちは「ときどき」をこう説明する。髪をとかすことが禁じられているのではなく、**装うことが主な関心事になってはならない**ということである。それは時間を浪費させ、外見にとらわれた人々に似ることになる。イスラームは**均衡**を教える。清潔で整っていても、見た目にとらわれないことである。

この教訓は、多くの人が自分の外見に何時間も費やすソーシャルメディアの時代に、まさにふさわしい。アッラーの使徒 ﷺ は、**ほどよく自分の身を整え**、時間をより意味のあることに使うよう教えてくださったのである。

第 5 章：その白髪

『シャマーイル』の第 5 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**白髪**について述べている。サヒーフな伝承は、白髪が**ごくわずか**であったことで一致している。アナス رضى الله عنه はそれを数えた。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 38 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، وَيَحْيَى بْنُ مُوسَى، قَالَا: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، عَنْ مَعْمَرٍ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ: مَا عَدَدْتُ فِي رَأْسِ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم وَلِحْيَتِهِ، إِلا أَرْبَعَ عَشْرَةَ شَعَرَةً بَيْضَاءَ.

日本語訳：

アナス رضى الله عنه は言った。「**私がアッラーの使徒 ﷺ の頭とあごひげに数えた白髪は、十四本を超えなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・マンスール と ヤフヤー・イブン・ムーサー ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・イブン・ラーシド ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 38 番に収録。

判定： サヒーフな伝承経路 ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:38

このハディースからの教訓

カターダはアナスに尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ は髪を染められましたか。」アナスは答えた。**「彼はそこまでには至らなかった。白髪はこめかみにあるだけだった。**しかしアブー・バクルはヘンナとカタムで髪を染めていた」（『シャマーイル』37）— 伝承経路はサヒーフ。

ジャービル・イブン・サムラ رضي الله عنه は興味深い細部を付け加えた。**「髪に油をつけると白髪は見えず、油をつけていないと少し見えた」**（『シャマーイル』39）— 伝承経路はサヒーフ。イブン・ウマルは、白髪は**「二十本ほど」**であったと言った（『シャマーイル』40）— ハサン。

14 本、17 本ほど、20 本ほどという数は矛盾しない。教友たちはそれぞれ異なる時に数え、概数を述べた者もいた。確かなのは、アッラーの使徒 ﷺ が 63 歳で亡くなったとき、髪は**ほとんど黒いままであった**ということである。それは、アッラーが彼に授けた健康と活力のしるしであった。

白髪はイスラームにおいて尊ばれる地位もある。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「白髪を抜いてはならない。それは復活の日に**ムスリムの光**となる」（『スナン・アビー・ダーウード』4202 — ハサン・サヒーフ）。白髪は恥ずべきものではなく、イスラームの中で過ごした人生のしるしなのである。

「フード章とその姉妹章」

白髪はわずかであったが、教友たちはそれに気づき、尋ねた。アブー・ジュハイファ رضي الله عنه は言った。「人々は言った。『アッラーの使徒よ、あなたは白髪になられたようにお見受けします。』彼は答えられた。**『フード章とその姉妹章が私を白髪にしたのだ』**」（『シャマーイル』42）— ハサン。

> **注：イブン・アッバースの伝承（『シャマーイル』41）**
>
> イブン・アッバースの伝承では、アブー・バクルが「アッラーの使徒よ、あなたは白髪になられました」と言った。彼は言われた。「私を白髪にしたのは、**フード章、ワーキア章、ムルサラート章、アンマ・ヤタサーアルーン（ナバア章）、イザッ・シャムス・クウウィラト（タクウィール章）**である。」

ズバイル・アリー・ザイーは、アブー・イスハークの伝承に不一致があるため、その伝承経路をダイーフと判定した。しかし『ジャーミウ・ティルミズィー』（第 3297 番）にある同じ伝承は、ダールッサラーム版の校訂者とシャイフ・アルバーニーによって**サヒーフ**と判定されている。

出典：

『シャマーイル』41〜42、『ジャーミウ・ティルミズィー』3297。 sunnah.com/tirmidhi:3297

なぜフード章なのか。学者たちはその理由の一つとして、次の節を挙げている。**「命じられたように，（正しい道を）堅く守れ」**（フード章 11:112）— タフスィール・イブン・カスィール 11:112。

堅く立ち続けよという命令、すなわち少しも逸れることなくまっすぐな道に立ち続けることは、計り知れない責任である。これらの章はまた、以前の民の滅亡や終末の日の恐ろしさも語っている。彼はウンマの行く末を思い、その影響が髪に現れるほどであった。アッラーの使徒 ﷺ がこれほどクルアーンに心を動かされたのなら、私たちはどうであろうか。

第 6 章：染髪

第 6 章は**ヒダーブ**、すなわちヘンナなどで髪を染めることについて述べている。一見異なるように見える二種類の伝承がある。アナスは、彼は染めるところまでは**至らなかった**と言い（『シャマーイル』37）、一方アブー・フライラは「アッラーの使徒 ﷺ は髪を染められましたか」と尋ねられて、**「はい」**と答えた（『シャマーイル』46）— サヒーフ。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 45 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا هُشَيْمٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الْمَلِكِ بْنُ عُمَيْرٍ، عَنْ إِيَادِ بْنِ لَقِيطٍ، قَالَ: أَخْبَرَنِي أَبُو رِمْثَةَ، قَالَ: أَتَيْتُ رَسُولَ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ مَعَ ابْنٍ لِي، فَقَالَ: ابْنُكَ هَذَا؟ فَقُلْتُ: نَعَمْ , أَشْهَدُ بِهِ، قَالَ: لا يَجْنِي عَلَيْكَ، وَلا تَجْنِي عَلَيْهِ، قَالَ: وَرَأَيْتُ الشَّيْبَ أَحْمَرَ.

日本語訳：

アブー・リムサ رضى الله عنه は言った。私は息子を連れてアッラーの使徒 ﷺ のもとへ行った。彼は「これはあなたの息子か」と尋ねられた。私は「はい、そのことを証言します」と言った。彼は言われた。**「彼はあなたの罪を負わず、あなたも彼の罪を負わない。」**（アブー・リムサは）言った。**「そして私は、彼の白髪が赤みを帯びているのを見た。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← フシャイム・イブン・バシール ← アブドゥルマリク・イブン・ウマイル ← イヤード・イブン・ラキート ← アブー・リムサ・リファーア・イブン・ヤスリビー・タイミー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 45 番に収録。『スナン・アビー・ダーウード』と『スナン・ナサーイー』にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは「これはこの題目で最も良い伝承である」と述べた。

ソース：sunnah.com/shamail:45

このハディースからの教訓

ティルミズィー自身、アブー・リムサの伝承がこの章で**最も良く、最も明確な**ものであると述べている。学者たちは、異なる伝承を次のように調和させる。彼は**ときどき**わずかな白髪を染められたか、あるいはその赤みは彼が用いた**香料**によるものであった。アナス自身、赤みを帯びた彼の髪の毛を何本か見せており（『シャマーイル』48）、ウンム・サラマも彼の染めた髪の毛を何本か保管していた（『サヒーフ・ブハーリー』5897）。

アブー・リムサへの彼の言葉、**「彼はあなたの罪を負わず、あなたも彼の罪を負わない」**は、イスラームの正義の原則である。各人は自分自身の行いに責任を負う。イスラーム以前の社会では、父の罪のために息子が殺されることもあったが、イスラームはその不当な慣習を廃止した。

別のハディースでは、彼はウンマに**白髪を染める**よう勧められた。「ユダヤ教徒とキリスト教徒は染めない。だから彼らと異なるようにせよ」（『サヒーフ・ブハーリー』3462）。アブー・バクルの父アブー・クハーファが、綿のように白い髪で彼

のもとへ連れて来られたとき、彼は言われた。「**この色を変えなさい。ただし黒は避けなさい**」（『サヒーフ・ムスリム』2102）。

第 7 章：コール（目墨）

本書の最後の章である第 7 章は、**コール（目墨）**について述べている。この章の五つの伝承のうち、三つはダイーフ、二つはハサンである。最も確かなものは次の伝承である。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 53 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا بِشْرُ بْنُ الْمُفَضَّلِ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ عُثْمَانَ بْنِ خُثَيْمٍ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: إِنَّ خَيْرَ أَكْحَالِكُمُ الإِثْمِدُ، يَجْلُو الْبَصَرَ، وَيُنْبِتُ الشَّعْرَ.

日本語訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**あなたがたのコール（目墨）の中で最も良いのはイスミドである。それは視力をはっきりさせ、まつ毛を伸ばす。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ビシュル・イブン・ムファッダル ← アブドゥッラー・イブン・ウスマーン・イブン・フサイム ← サイード・イブン・ジュバイル ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 53 番に収録。『スナン・アビー・ダーウード』第 3878 番にもある。

判定： ハサンな伝承経路 ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。アブー・ダーウードも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:53

このハディースからの教訓

イスミドとは、ヒジャーズやイスファハーン産の黒いコールの石を粉にしたものである。イブン・ウマル رضى الله عنهما も同じ勧めを伝えている。「イスミドを用いなさ

い。それは視力をはっきりさせ、まつ毛を伸ばす」（『シャマーイル』54）— 伝承経路はハサン。

> **注：寝る前のコール（『シャマーイル』50〜52）**
>
> イブン・アッバースは、アッラーの使徒 ﷺ がコールの入れ物を持っておられ、毎晩寝る前に**両目にそれぞれ三回**コールをつけておられたと伝えた。ジャービルは、寝る前にイスミドを用いるよう勧める伝承を伝えた。
>
> ズバイル・アリー・ザイーは、伝承者アッバード・イブン・マンスールとムハンマド・イブン・イスハークのため、三つの伝承すべてを**伝承経路がダイーフ**と判定した。したがって、三回という数や寝る前という時は確かな伝承では確認できないが、多くの学者はそれを実践している。
>
> **出典：**
>
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 50〜52 番。 sunnah.com/shamail:50

この章から、アッラーの使徒 ﷺ が当時知られていた方法で、目を含むご自身の体の**健康に気を配っておられた**ことを学ぶ。男性がコールをつけることは、女性をまねるためや見せびらかすためでない限り許されている。

教訓と結び

『シャマーイル』の最初の七つの章は、アッラーの使徒 ﷺ の**容姿と身だしなみ**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
1. 容姿	均衡、「彼より美しい人はいない」、月のようなお顔
2. 預言者性の印	預言者性のしるし、知識に基づくサルマーンの信仰
3. 髪	清潔で整った身なり、ムスリムとしてのアイデンティティ
4. 髪の手入れ	右から始めること、身だしなみに凝りすぎないこと

章	主な教訓
5. 白髪	「フード章とその姉妹章」— クルアーンが心に与える影響
6. 染髪	各人は自分の罪を負う、啓典の民と異なること
7. コール	許された方法で健康に気を配ること

私たちへのメッセージ

私たちは彼のお顔を見たことがない。しかし教友たちは、これらの伝承を通して**私たちに自分たちの目を貸してくれた**。彼の容姿を知ることが私たちの愛を深め、アッラーが楽園で彼にお会いする機会を私たちにお与えくださいますように。

話は**第二部**へと続く。その衣服、革の靴下、サンダル、指輪、剣、鎧、ターバン、腰布、歩き方、座り方、もたれ方、すなわち『シャマーイル』の第 8 章から第 22 章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第一部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（イムラーン家章 3:164、フード章 11:112、部族連合章 33:40、ムハンマド章 47:19）。tafsir.app/ibn-katheer/11/112

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 1〜7 章（ハディース第 1〜54 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

ムハンマド・ナースィルッディーン・アルバーニー『ムフタサル・シャマーイル・ムハンマディーヤ』。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』168、190、295、2028、3462、3540、3547、3552、3558、3803、5897。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』167、268、2020、2102、2336、2339、2344、2345、2346、2347。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』2811、3297、3629、3637、『スナン・アビー・ダーウード』3878、4159、4191、4202。sunnah.com

伝記

ザハビー『スィヤル・アアラーム・ヌバラーゥ』（ティルミズィーの伝記）、イブン・ハジャル『タフズィーブ・タフズィーブ』。

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

第二部

最も愛された衣

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 8〜22 章

衣服、フッフ、サンダル、指輪、剣、鎧、ターバン、腰布、歩き方、座り方、もたれ方

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

最も愛された衣

第一部では、彼を見た教友たちの言葉を通して、アッラーの使徒 ﷺ の**お姿**を知った。この第二部は、さらに一歩彼に近づく。**彼が何を着て、どのように歩き、座り、もたれておられたか**である。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』第 8 章から第 22 章に従う。

これらの章には、衣服（カミース、ヒバラ、長衣、腰布）、フッフとサンダル、指輪とその刻印、剣、鎧、兜、ターバン、歩き方、頭巾、座り方、クッション、もたれ方についての **77 の伝承**が含まれている。第一部と同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

なぜこのような小さなことが大切なのか。アッラーはアッラーの使徒 ﷺ を、礼拝や崇拝だけでなく、サンダルの履き方、衣服の選び方、集まりでの座り方に至るまで、**生活のすべて**において**立派な模範**とされたからである。こうした小さなことの中にこそ、**質素さ、清潔さ、謙虚さ**についての大きな教えが隠されている。

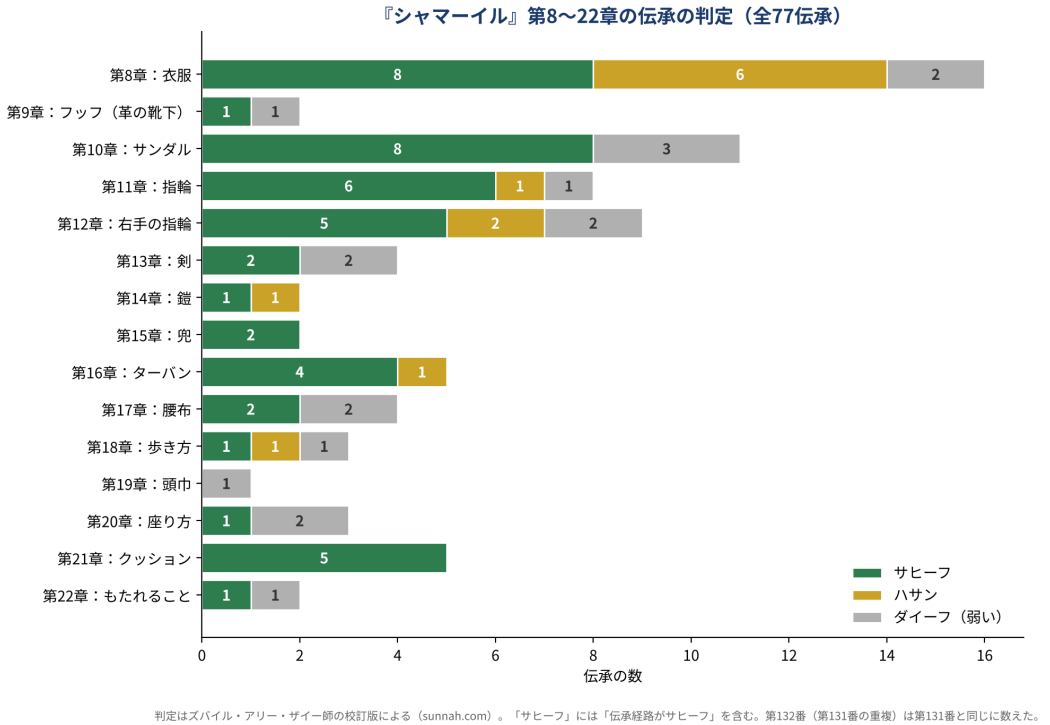


図 2：『シャマーイル』第 8〜22 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。これらの章の 77 の伝承のうち、およそ 4 分の 3 がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の

日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

イスラームにおける衣服

アッラーの使徒 ﷺ の衣服を見る前に、**イスラームにおける衣服の位置づけ**を理解しておこう。アッラーは衣服を、アーダムの子孫に与えられた大きな恵みの一つとして述べておられる。

高壁章 7:26

يَٰبَنِيٓ ءَادَمَ قَدۡ أَنزَلۡنَا عَلَيۡكُمۡ لِبَاسٗا يُوَٰرِي سَوۡءَٰتِكُمۡ وَرِيشٗاۖ وَلِبَاسُ ٱلتَّقۡوَىٰ ذَٰلِكَ خَيۡرٞۚ ذَٰلِكَ مِنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ لَعَلَّهُمۡ يَذَّكَّرُونَ ٢٦

アーダムの子孫よ，われは，恥ずかしいところを覆い，また飾るために衣装をあなたがたに授けた。だが篤信という衣装こそ最も優れたものである。これはアッラーの印である。恐らくかれらは諭されるであろう。

日本語訳：三田了一 — quran.com/7:26

この節は**三種類の衣服**を挙げている。恥ずかしいところを覆う衣服、飾るための衣服、そして**篤信という衣装**である。前の二つは外側の衣服であり、三つ目は心の衣服である。イブン・カスィールは、篤信という衣装とは信仰と善行であり、それこそが最も優れた衣服であると説明している（タフスィール・イブン・カスィール 7:26）。

アッラーはまた、崇拝のときに身なりを整えるよう命じておられる。「**何処のマスジドでも清潔な衣服を体につけなさい**」（高壁章 7:31）—タフスィール・イブン・カスィール 7:31。

アッラーの使徒 ﷺ は、良い衣服を好むことは**高慢ではない**とも説明された。心に塵ほどの高慢がある者は楽園に入らないと言われたとき、ある男が、衣服や履物の良いものを好む人について尋ねた。彼は答えられた。「**アッラーは美しく、美を愛される。高慢とは、真理を退け、人々を見下すことである**」（『サヒーフ・ムスリム』91）。

したがって、イスラームにおける衣服の基準は、高価か安価かではなく、**清潔であること、体を覆うこと、浪費しないこと、高慢でないこと**である。本書を通して、私たちはアッラーの使徒 ﷺ の生活の中にこのことを見ていく。

第 8 章：その衣服

『シャマーイル』の第 8 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の衣服について伝えられたこと**」と題されている。本書で最も長い章であり、**16 の伝承**を含む。サヒーフが 8、ハサンが 6、弱いものが 2 である（図 2）。

これらの伝承から、彼が身につけた衣服の種類がわかる。**カミース**（袖のある丈の長い縫製のシャツ）、**イザール**（下半身に巻く腰布）、**リダーゥ**（上半身に掛ける布）、**ヒバラ**（縞模様のイエメンの布）、**ブルダ**（厚手の外套）、**ジュッバ**（長衣）、そして**イマーマ**（ターバン）である。その多くは当時のアラブ人の普通の衣服であった。

ここに大切な教えがある。アッラーの使徒 ﷺ は、自分を人々から区別するための**特別な衣服を作らなかった**。シャリーアの条件を守りながら、自分の民が着ているものを着られた。学者たちは、体を覆い、清潔で、他宗教に固有の衣服をまねていない限り、その土地の衣服は許されると結論している。

カミース：最も好まれた衣服

この章の最初の伝承は、家での彼の習慣をよく知る妻、**ウンム・サラマ** رضى الله عنها によるものである。

ハディース ―『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 55 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ حُمَيْدٍ الرَّازِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا الْفَضْلُ بْنُ مُوسَى، وَأَبُو تُمَيْلَةَ، وَزَيْدُ بْنُ حُبَابٍ، عَنْ عَبْدِ الْمُؤْمِنِ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ بُرَيْدَةَ، عَنْ أُمِّ سَلَمَةَ، قَالَتْ: كَانَ أَحَبَّ الثِّيَابِ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم الْقَمِيصُ.

日本語訳：

信仰者たちの母ウンム・サラマ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が最も好まれた衣服は、カミース（丈の長いシャツ）であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・フマイド・ラーズィー ← ファドル・イブン・ムーサー と アブー・トゥマイラ と ザイド・イブン・フバーブ ← アブドゥルムウミン・イブン・ハーリド ← アブドゥッラー・イブン・ブライダ ← ウンム・サラマ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 55 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1762 番にもある。

判定： ハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは『ジャーミウ』でハサンと判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:55

このハディースからの教訓

なぜカミースが好まれたのか。学者たちは、カミースは巻きつける必要のある布よりも**体をよく覆い**、着るのも簡単だからだと説明する。一枚で体全体を覆い、動いてもずれにくい。これは、彼が見栄のためではなく**実用性**によって衣服を選ばれたことを示している。

アスマーゥ・ビント・ヤズィード رضى الله عنها は、彼のカミースの袖の長さについて述べた。「**アッラーの使徒 ﷺ のカミースの袖は手首までであった**」（『シャマーイル』58）— 伝承経路はハサン。長すぎない袖はウドゥーや仕事をしやすくし、高慢な者の衣服のように引きずることもない。

ムアーウィヤ・イブン・クッラは父から、忠誠の誓いに来たとき、**預言者のカミースのボタンが開いていた**ので、手を入れて預言者性の印に触れたと伝えている（『シャマーイル』59）— 伝承経路はサヒーフ。彼のカミースには胸元にボタンがあり、彼は教友たちが近づくことを少しも嫌がらなかったことがわかる。

新しい衣服を着るときの祈り

アッラーの使徒 ﷺ は、どんな恵みも感謝せずに過ぎ去らせることはなかった。新しい衣服を着るときもそうであった。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 61 番

حَدَّثَنَا سُوَيْدُ بْنُ نَصْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ إِيَاسٍ الْجُرَيْرِيِّ، عَنْ أَبِي نَضْرَةَ، عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ، قَالَ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، إِذَا اسْتَجَدَّ ثَوْبًا سَمَّاهُ بِاسْمِهِ عِمَامَةً أَوْ قَمِيصًا أَوْ رِدَاءً، ثُمَّ يَقُولُ: اللَّهُمَّ لَكَ الْحَمْدُ كَمَا كَسَوْتَنِيهِ، أَسْأَلُكَ خَيْرَهُ وَخَيْرَ مَا صُنِعَ لَهُ، وَأَعُوذُ بِكَ مِنْ شَرِّهِ وَشَرِّ مَا صُنِعَ لَهُ.

日本語訳：

アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は新しい衣服を身につけると、ターバン、シャツ、外衣などとその名を言い、こう祈られた。「**アッラーフンマ・ラカ・ル＝ハムド・カマー・カサウタニーヒ、アスアルカ・ハイラフ・ワ・ハイラ・マー・スニア・ラフ、ワ・アウーズ・ビカ・ミン・シャッリヒ・ワ・シャッリ・マー・スニア・ラフ。**」（アッラーよ、これを私に着せてくださったことに、あなたにすべての称賛あれ。私はあなたに、これの良きものと、これが作られた目的の良きものを願い、これの悪しきものと、これが作られた目的の悪しきものからあなたに守りを求めます。）

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：スワイド・イブン・ナスル ← アブドゥッラー・イブン・ムバーラク ← サイード・イブン・イヤース・ジュライリー ← アブー・ナドラ ← アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 61 番に収録。『スナン・アビー・ダーウード』第 4020 番、『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1767 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。シャイフ・アルバーニーは『スナン・アビー・ダーウード』でサヒーフと判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:61

このハディースからの教訓

この祈りには**三つのこと**が含まれている。衣服を与えてくださる方としてのアッラーへの称賛、その衣服の良きものとそれが作られた目的の良きものを願うこと、そ

してその悪しきものからの守りを求めることである。衣服の良きものとは服従のために用いられることであり、悪しきものとは高慢、浪費、罪へと導くことである。

また、彼が**衣服の名前を言われた**ことにも注目してほしい。ターバン、シャツ、外衣と。これは、彼が恵みを漠然とではなく、一つ一つ具体的に感謝しておられたことを示している。たとえばイードの日など、子どもたちが新しい服を着るときにこの祈りを教えることは、幼いころから感謝の心を育てる美しい方法である。

この祈りはまた、衣服が**預かりもの（アマーナ）**であることを思い出させる。私たちが身につけるすべての衣服について、どこから得たのか、何のために使ったのかを問われる。合法な財で買い、体を覆いアッラーの恵みを表すという意図で着る衣服は、崇拝となるのである。

ヒバラと赤い縞の布

カミースのほかにも、彼が**最も好まれた**衣服として挙げられるものがある。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 63 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاذُ بْنُ هِشَامٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي أَبِي، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: كَانَ أَحَبَّ الثِّيَابِ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، يَلْبَسُهُ الْحِبَرَةُ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が着るのに最も好まれた衣服は、ヒバラ（縞模様のイエメンの布）であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ムアーズ・イブン・ヒシャーム ← ヒシャーム・ダストゥワーイー（その父） ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 63 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5813 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:63

このハディースからの教訓

ウンム・サラマはカミースを、アナスはヒバラを挙げているが、これらはどう調和されるのか。学者たちは、**カミースは衣服の形**であり、**ヒバラは布の種類**であると説明する。彼のカミース自体がヒバラの布で作られていたのかもしれない。あるいは、それぞれの教友が彼の身につけているのを最もよく見たものを挙げたのである。

ヒバラとは、イエメン産の**縞模様**の綿布で、多くは赤か緑であった。だから教友たちは、彼が「**赤いフッラ**」を着ていたと言ったのである。アブー・ジュハイファは「預言者 ﷺ が赤いフッラを着ておられるのを見た。まるで彼のすねの輝きが見えるようであった」と言い、スフヤーンは「それはヒバラだったと思う」と言った（『シャマーイル』64）— サヒーフ。

バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。「**赤いフッラを着た人で**、アッラーの使徒 ﷺ より美しい人を私は見たことがない」（『シャマーイル』65）— サヒーフ。この言葉は第一部でも見た。整った衣服は、行き過ぎることなく、着る人に輝きを添えるのである。

> **注：赤い色について**
>
> 一部の学者は、いくつかの伝承にもとづいて、男性が**全体が赤い**衣服を着ることを好ましくないとした。そこで彼らは、彼の赤いフッラは全体が赤いのではなく**赤い縞の布**であったとして、証拠を調和させた。これはイブン・カイイムや多くの学者の見解である。赤を無条件に許す学者もいる。これは枝葉の問題における見解の相違である。
>
> **出典：**
> イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』衣服の章、イブン・ハジャル『ファトフ・ル＝バーリー』衣服の書。

白、緑、そして黒

この章の伝承は、彼の衣服のいくつかの色に触れている。アブー・リムサ رضى الله عنه は言った。「**私は預言者 ﷺ が二枚の緑の布をまとっておられるのを見た**」（『シャマーイル』66）— 伝承経路はサヒーフ。

白については、イブン・アッバース رضى الله عنهما が彼の言葉を伝えている。「**白い衣服を着なさい。それはあなたがたの衣服の中で最も良いものの一つである。そして亡くなった人をそれで包みなさい**」（『シャマーイル』68）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』994 にもある（ハサン）。白は清潔さの象徴である。汚れが目立ちやすいので、着る人は常に清潔を保とうとするようになる。

アーイシャ رضى الله عنها は黒について述べた。「**アッラーの使徒 ﷺ はある朝、黒い毛織りの布をまとって出て行かれた**」（『シャマーイル』70）— ハサン。毛織りの布（ミルト）は質素で厚手の衣服で、寒い季節に適していた。第 16 章で見るように、彼は黒いターバンも身につけておられた。

> **注：色あせたサフラン染めの布（『シャマーイル』67）**
>
> カイラ・ビント・マフラマは、預言者 ﷺ がかつてサフランで染められたが色のあせた二枚の古い布をまとっておられるのを見たと言った。この伝承は長い物語の一部である。
>
> その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかし、彼が古く質素な衣服を着ておられたという意味は、彼の質素さについてのサヒーフな伝承と一致している。
>
> **出典：**
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 67 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:67

この色の多様さは、彼が**一つの色に限っておられなかった**ことを示している。白、緑、黒、そして赤い縞の布を着られた。大切なのは、衣服が清潔で、体を覆い、他の集団に固有の衣服をまねていないことである。

袖の細いビザンツの長衣

ある興味深い伝承は、アラビアの外から来た衣服に対する彼の柔軟さを示している。

> **ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 71 番**

حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ عِيسَى، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا يُونُسُ بْنُ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ الشَّعْبِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الْمُغِيرَةِ بْنِ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، لَبِسَ جُبَّةً رُومِيَّةً، ضَيِّقَةَ الْكُمَّيْنِ.

日本語訳：

ウルワ・イブン・ムギーラ・イブン・シュウバは、父 رضى الله عنه から伝えた。「**預言者 ﷺ は、両袖の細いビザンツ（ルーム）の長衣を着ておられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ユースフ・イブン・イーサー ← ワキーウ ← ユーヌス・イブン・アビー・イスハーク ← アブー・イスハーク・サビーイー（その父） ← シャアビー ← ウルワ・イブン・ムギーラ・イブン・シュウバ ← ムギーラ・イブン・シュウバ（その父） رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 71 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1768 番。似た伝承が『サヒーフ・ブハーリー』第 5798 番にある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。同じ意味の伝承が『サヒーフ・ブハーリー』にある（シャーム産の外衣）。

ソース：sunnah.com/shamail:71

このハディースからの教訓

この長衣はムスリムではないビザンツ（ルーム）の人々が作ったものであったが、彼はそれを着られた。学者たちは、清浄であり、その宗教に固有のしるしとなる衣服でない限り、**ムスリムでない人々が作った衣服を着ることは許される**と結論している。『サヒーフ・ブハーリー』では、ムギーラが、彼が**シャーム産の外衣**を着ておられ、袖が細かったので、ウドゥーのために腕を下から出されたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』5798）。

細い袖は**旅と戦い**に適している。彼は状況の必要に応じて衣服を選ばれた。家ではゆったりした服を、旅では動きやすい服を着られたのである。

アナス رضى الله عنه はまた、彼が病気のとき、ウサーマ・イブン・ザイドにもたれて、**粗い綿の布**を体にまとって出て来られ、人々を率いて礼拝されたと述べている

（『シャマーイル』60）— サヒーフ。病の中にあっても、彼は質素な衣服のままウンマのもとへ出て来られた。

もう一つの教えがある。彼は、外から来たというだけで有益なものを退けることはされなかった。この原則は知識、技術、技能にも当てはまる。シャリーアに反せず、他宗教のしるしとならない限り、ムスリムは他の文明の成果から益を得てよいのである。

第 9 章：そのフッフ

第 9 章は**フッフ**、すなわち寒いときや旅のときに履く、くるぶしまで覆う革の靴下について述べている。サヒーフな伝承は次のとおりである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 73 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ زَكَرِيَّا بْنِ أَبِي زَائِدَةَ، عَنِ الْحَسَنِ بْنِ عَيَّاشٍ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الشَّعْبِيِّ، قَالَ: قَالَ الْمُغِيرَةُ بْنُ شُعْبَةَ: أَهْدَى دِحْيَةُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم خُفَّيْنِ، فَلَبِسَهُمَا وَقَالَ إِسْرَائِيلُ: عَنْ جَابِرٍ، عَنْ عَامِرٍ، وَجُبَّةً فَلَبِسَهُمَا حَتَّى تَخَرَّقَا لا يَدْرِي النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، أَذَكَّى هُمَا أَمْ لا.

日本語訳：

ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه は言った。「**ディフヤが預言者 ﷺ に一足のフッフ（革の靴下）を贈り、彼はそれを履かれた。**」— イスラーイールの伝承では「そして長衣も」とある —「**彼はそれらが擦り切れるまで履かれたが、その革が屠られた動物のものかどうかはご存じなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ヤフヤー・イブン・ザカリーヤー・イブン・アビー・ザーイダ ← ハサン・イブン・アイヤーシュ ← アブー・イスハーク・シャイバーニー ← シャアビー ← ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 73 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1769 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは、この経路のアブー・イスハークはアブー・イスハーク・シャイバーニーであると説明した。

ソース：sunnah.com/shamail:73

このハディースからの教訓

このハディースは、彼が教友ディフヤ・カルビーからの**贈り物を受け取られた**ことを示している。ディフヤは第一部で出会った教友で、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ がときに彼の姿で現れた人である。贈り物を受け取って身につけることは、贈った人の心を喜ばせる彼のやり方であった。

彼はそれを**擦り切れるまで**履かれた。まだ使えるものを捨てなかったのである。そして、その革が屠られた動物のものかどうかを尋ねられなかった。学者たちはここから、**物は本来清浄であると見なされる**こと、反対の証拠がない限りそうであること、そしてなめした革は清浄であることを学んでいる。

このようなフッフから、ウドゥーにおいて**フッフの上をなでる**という規定も生まれた。これは多くの教友が伝えている。特に寒い季節や旅のときに、ウンマにとって物事を容易にする軽減措置（ルフサ）である。

注：ナジャーシーからのフッフ（『シャマーイル』72）

ブライダは、アビシニアの王ナジャーシーが預言者 ﷺ に無地の黒いフッフを一足贈り、彼はそれを履いてウドゥーをし、その上をなでられたと伝えた。

その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。ただしアブー・ダーウードとティルミズィーもこれを伝えており、一部の学者はハサンと判定した。フッフの上をなでる規定そのものは、サヒーフな伝承によって**確立している**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 72 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:72

第 10 章：そのサンダル

第 10 章は彼の**サンダル（ナアル）**、すなわち紐のついた革のサンダルについて述べている。アナス رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ のサンダルがどのようであったかを尋ねられ、こう答えた。**「二本の紐があった」**（『シャマーイル』74）— 伝承経路はサヒーフ。アブー・フライラも同じことを述べている（『シャマーイル』78）— サヒーフ。

イーサー・イブン・タフマーンは、アナスが**毛のない、二本の紐のあるサンダル**を一足持ち出して見せ、サービトがそれは預言者 ﷺ のサンダルだと教えてくれたと言った（『シャマーイル』76）— 伝承経路はサヒーフ。アナスは彼のサンダルを形見として大切にしていた。教友たちが彼の遺したすべてをどれほど愛していたかがわかる。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 77 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ أَبِي سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيُّ، عَنْ عُبَيْدِ بْنِ جُرَيْجٍ، أَنَّهُ قَالَ لابْنِ عُمَرَ: رَأَيْتُكَ تَلْبَسُ النِّعَالَ السِّبْتِيَّةَ، قَالَ: إِنِّي رَأَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم يَلْبَسُ النِّعَالَ الَّتِي لَيْسَ فِيهَا شَعَرٌ، وَيَتَوَضَّأُ فِيهَا، فَأَنَا أُحِبُّ أَنْ أَلْبَسَهَا.

日本語訳：

ウバイド・イブン・ジュライジュはイブン・ウマル رضى الله عنهما に言った。「あなたはスィブティーヤのサンダル（なめした毛のない牛革のサンダル）を履いていますね。」彼は答えた。**「私はアッラーの使徒 ﷺ が毛のないサンダルを履き、それを履いたままウドゥーをされるのを見た。だから私はそれを履くのが好きなのだ。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← サイード・イブン・アビー・サイード・マクブリー ← ウバイド・イブン・ジュライジュ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 77 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 166 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:77

このハディースからの教訓

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、サンダルの種類のような小さなことにまで、アッラーの使徒 ﷺ の行いを**最も熱心にまねた**教友として知られていた。彼の答えは簡潔であった。「彼がそれを履いておられるのを見た。だから私はそれを履くのが好きなのだ。」これこそ**従うことで証明される愛**である。

このハディースはまた、彼がそのサンダルを**履いたままウドゥーをされた**ことを示している。スィブティーヤのサンダルは開いているので、履いたまま足を洗うことができたのである。宗教の容易さがここにも表れている。

履物の作法

アッラーの使徒 ﷺ はサンダルを履かれただけでなく、**その履き方の作法**も教えられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 80 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، عَنْ أَبِي الزِّنَادِ، عَنِ الأَعْرَجِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: لا يَمْشِيَنَّ أَحَدُكُمْ فِي نَعْلٍ وَاحِدَةٍ، لِيُنْعِلْهُمَا جَمِيعًا، أَوْ لِيُحْفِهِمَا جَمِيعًا.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**あなたがたの誰も、片方のサンダルだけで歩いてはならない。両方を履くか、両方を脱ぎなさい。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← アブー・ズィナード ← アアラジュ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 80 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5856 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2097 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:80

このハディースからの教訓

なぜ片方のサンダルだけで歩くことが禁じられたのか。学者たちはいくつかの知恵を挙げている。それは**体の均衡を崩し**、つまずく原因になる。二本の足に対して**公平でない**。そして**身なりの整い**に反し、人目を引くことにもなる。イスラームはこのような小さなことにまで心を配っている。

アブー・フライラ رضى الله عنه はまた彼の言葉を伝えている。**「あなたがたの誰かがサンダルを履くときは右から始め、脱ぐときは左から始めなさい」**（『シャマーイル』83）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5855 にもある。これは第一部で学んだ、右から始めるスンナの続きである。

ジャービル رضى الله عنه は、彼が**左手で食べることと、片方のサンダルで歩くことを禁じられた**と伝えている（『シャマーイル』82）— サヒーフ。この二つの禁止が並べて述べられているのは、どちらも日常における**作法と完全さ**に関わるからである。

注：「最初に一つの結び目を作った人」（『シャマーイル』85）

この伝承は、アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、ウマルのサンダルには二本の紐があり、最初に一つの結び目を作ったのはウスマーンであったと述べている。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**非常に弱い**ので、根拠にすることはできない。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 85 番 — 伝承経路は非常に弱い。 sunnah.com/shamail:85

第 11 章：その指輪

第 11 章はアッラーの使徒 ﷺ の**指輪**について語っている。興味深いことに、この指輪は装飾のためではなく、**イスラームへの呼びかけ（ダアワ）のため**に作られた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 91 番

حَدَّثَنَا نَصْرُ بْنُ عَلِيٍّ الْجَهْضَمِيُّ أَبُو عَمْرٍو، قَالَ: حَدَّثَنَا نُوحُ بْنُ قَيْسٍ، عَنْ خَالِدِ بْنِ قَيْسٍ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَتَبَ إِلَى كِسْرَى وَقَيْصَرَ وَالنَّجَاشِيِّ، فَقِيلَ لَهُ: إِنَّهُمْ لا يَقْبَلُونَ كِتَابًا، إِلا بِخَاتَمٍ، فَصَاغَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، خَاتَمًا حَلْقَتُهُ فِضَّةٌ، وَنُقِشَ فِيهِ: مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللهِ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は伝えた。「**預言者 ﷺ はホスロー、カエサル、ナジャーシーに書簡を送られた。すると『彼らは印の押されていない書簡を受け取りません』と言われた。**そこでアッラーの使徒 ﷺ は、輪が銀でできた指輪を作らせ、**それに『ムハンマド・ラスールッラー（ムハンマドはアッラーの使徒）』と彫られた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ナスル・イブン・アリー・ジャフダミー ← ヌーフ・イブン・カイス ← ハーリド・イブン・カイス ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 91 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5872 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2092 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:91

このハディースからの教訓

フダイビーヤの和約の後、アッラーの使徒 ﷺ は**世界の王たち**、すなわちホスロー（ペルシアの王）、カエサル（ビザンツ皇帝）、ナジャーシー（アビシニアの王）にイスラームへ招く書簡を送られた。彼らは印のない書簡を受け取らなかったので、

彼は印章の指輪を作らせた。これは彼が、ダアワを成功させるために、**相手の慣習や儀礼を考慮された**ことを示している。

アナス رضى الله عنه はその刻印の並びを伝えている。「**『ムハンマド』が一行、『ラスール（使徒）』が一行、『アッラー』が一行**」（『シャマーイル』90）— サヒーフ。学者たちは、それが下から上へと並べられ、敬意のしるしとしてアッラーの御名が**いちばん上**に来るようにされていたと述べている。アナスはまた、「今でも彼の手にあったその指輪の白さが見えるかのようだ」と言った（『シャマーイル』89）— サヒーフ。

その指輪は**石も含めて銀でできていた**（『シャマーイル』88）— サヒーフ。別の伝承では、その石はアビシニア産であったとされる（『シャマーイル』86）— サヒーフ。銀は男性が指輪にすることを許された金属であり、これから見るように、金は禁じられている。

アリースの井戸に落ちた指輪

アッラーの使徒 ﷺ の指輪には、彼の死後の長い物語がある。イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ は銀の指輪を作らせ、それは彼の手にあり、次にアブー・バクルの手に、次にウマルの手に、次にウスマーンの手にあったが、**ついにアリースの井戸に落ちてしまった**。その刻印は「ムハンマド・ラスールッラー」であった（『シャマーイル』93）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5879 にもある。

この指輪は三人のカリフの間、**イスラーム国家の公式の印章**となった。ブハーリーの伝承によれば、ウスマーンがアリースの井戸のそばに座って指輪を外し、手でもてあそんでいると、それが落ちてしまった。人々はウスマーンとともに三日間それを探し、井戸の水をくみ出したが、見つからなかった（『サヒーフ・ブハーリー』5879）。

一部の学者は、この出来事をウスマーンの治世における試練の始まりの**しるし**と見た。その後、多くの混乱が起きたからである。しかし、これは一つの思索にすぎず、典拠ではない。確かな教えはこうである。アッラーの使徒 ﷺ が遺した最も尊いものは物ではなく、今日まで守られている**彼のスンナと教え**なのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

注：トイレで指輪を外すこと（『シャマーイル』92）

アナスは、預言者 ﷺ がトイレに入るとき、指輪を外しておられたと伝えた。アッラーの御名が刻まれていたからである。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。それでも多くの学者は、アッラーの御名を敬う作法として、御名が書かれた物をトイレに持ち込まないよう勧めている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 92 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:92

第 12 章：右手の指輪

第 12 章は、彼が**どちらの手に**指輪をはめておられたかを論じている。多くの教友が、彼は指輪を**右手に**はめておられたと伝えている。アリー・イブン・アビー・ターリブ（『シャマーイル』94）— ハサン、アブドゥッラー・イブン・ジャアファル（『シャマーイル』97）— サヒーフ、ジャービル・イブン・アブドゥッラー（『シャマーイル』98）— サヒーフ、イブン・アッバース（『シャマーイル』99）— ハサンである。

ハンマード・イブン・サラマは、イブン・アビー・ラーフィウが右手に指輪をはめているのを見て、そのことを尋ねた。イブン・アビー・ラーフィウは、アブドゥッラー・イブン・ジャアファルがそうしているのを見たと言い、アブドゥッラー・イブン・ジャアファルは「アッラーの使徒 ﷺ は右手に指輪をはめておられた」と言った（『シャマーイル』96）— サヒーフ。この連鎖は、**スンナが言葉だけでなく実践によって受け継がれた**ことを示している。

イブン・ウマルは、彼が**指輪の石を手のひらの側に**向けておられたこと、そして他の人が同じ刻印を彫ることを禁じられたことを付け加えている（『シャマーイル』100）— サヒーフ。それはこの指輪が公式の印章だったからである。他の人がその刻印をまねれば、彼の名で偽の書簡が作られかねなかった。

注：右か左か

右手についての伝承のほかに、『サヒーフ・ムスリム』には、彼の指輪が**左手の小指**にあったというサヒーフな伝承もある。ハサンとフサインが左手に指輪をはめていたという『シャマーイル』の伝承（第 101 番）は伝承経路が弱い。学者たちは、**どちらも許される**と結論している。彼はある時は右に、ある時は左にはめておられたのかもしれない。イマーム・ティルミズィーがこの章を設けたのは、右手のほうが多く伝えられていることを示すためである。

出典：

『サヒーフ・ムスリム』衣服と装飾の書、『シャマーイル』94〜102。 sunnah.com/shamail:101

どちらの手にはめるにせよ、大切なのは指輪を誇りのしるしとせず、スンナに従う意図で身につけることである。質素な銀の指輪を一つ身につけることは、今日でも男性が実践できる小さなスンナである。

投げ捨てられた金の指輪

この章の最後の伝承は、とても大切な出来事を伝えている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 103 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عُبَيْدِ اللهِ الْمُحَارِبِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ مُوسَى بْنِ عُقْبَةَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، قَالَ: اتَّخَذَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم خَاتَمًا مِنْ ذَهَبٍ، فَكَانَ يَلْبَسُهُ فِي يَمِينِهِ، فَاتَّخَذَ النَّاسُ خَوَاتِيمَ مِنْ ذَهَبٍ فَطَرَحَهُ صلى الله عليه وسلم، وَقَالَ: لا أَلْبَسُهُ أَبَدًا فَطَرَحَ النَّاسُ خَوَاتِيمَهُمْ.

日本語訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ は金の指輪を作らせ、右手にはめておられた。すると人々も金の指輪を作った。**そこで彼 ﷺ はそれを投げ捨てて言われた。「私は決してこれをはめない。」すると人々も自分たちの指輪を投げ捨てた。**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ウバイド・ムハーリビー ← アブドゥルアズィーズ・イブン・アビー・ハーズィム ← ムーサー・イブン・ウクバ ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 103 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5866 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2091 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:103

このハディースからの教訓

禁止される前、彼ははじめ金の指輪をはめておられた。その後、それを**投げ捨て**、二度とはめないと誓われた。この出来事と他のハディースから、学者たちは**男性が金を身につけることは禁じられている**と定めた。アリー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が絹と金の指輪を身につけることを禁じられたと伝えている（『サヒーフ・ムスリム』2078）。

彼の**模範の力**に注目してほしい。彼が指輪を投げ捨てるやいなや、教友たちはさらなる説明を待つことなく、すぐに自分たちの金の指輪を投げ捨てた。これが**教友たちの従順**である。彼らは彼の言葉に従ったのと同じように、彼の行いにも従ったのである。

このハディースは、指導者、親、教師にも教えている。**人は見たものをまねる**。指導者がぜいたくをすれば、人々もぜいたくをする。指導者が質素であれば、人々も質素を学ぶ。模範は千の助言よりも強い。

彼の**決断の強さ**にも注目しよう。彼は金を好ましくないと言っただけではなく、指輪を投げ捨てて、二度とはめないと誓われた。宗教のことが明らかになったとき、彼はきっぱりと行動され、教友たちもすぐにそれに続いたのである。

第 13 章：その剣

第 13 章はアッラーの使徒 ﷺ の**剣**について述べている。アナス رضى الله عنه は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ の剣の柄頭は銀でできていた」**（『シャマーイル』104）— サヒーフ。サイード・イブン・アビー・ル＝ハサン・バスリーも同じことを伝えている（『シャマーイル』105）— サヒーフ。

学者たちはこのハディースから、**武器を少量の銀で飾ることは許される**と学んでいる。剣は宗教とウンマを守るための道具である。それを少し飾ることは、その道具を大切にしていることを示している。

アッラーの使徒 ﷺ は**ウンマを守る覚悟のある**指導者であった。彼は戦いを求めなかったが、攻撃されたときには自ら戦場に出て、最前線に立たれた。教友たちは、戦いが激しくなると、アッラーの使徒 ﷺ の陰に身を寄せたと語っている。

注：剣についての弱い伝承（『シャマーイル』106〜107）

彼がマッカ征服の日、金と銀で飾られた剣を持ってマッカに入られたという伝承（第 106 番）と、イブン・スィーリーンが自分の剣を、アッラーの使徒 ﷺ の剣をまねたというサムラ・イブン・ジュンドゥブの剣に似せて作ったという伝承（第 107 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。確かなのは、その柄頭が銀であったことである。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 106〜107 番 — 伝承経路は弱い。 sunnah.com/shamail:106

第 14 章：その鎧

第 14 章は、ウフドの日、すなわちスィーラの中でも非常に苦しい日に彼が身につけておられた**鎧**について語っている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 109 番

حَدَّثَنَا أَبُو سَعِيدٍ عَبْدُ اللهِ بْنُ سَعِيدٍ الأَشَجُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا يُونُسُ بْنُ بُكَيْرٍ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ إِسْحَاقَ، عَنْ يَحْيَى بْنِ عَبَّادِ بْنِ عَبْدِ اللهِ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ عَبْدِ اللهِ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنِ الزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ، قَالَ: كَانَ عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ أُحُدٍ دِرْعَانِ، فَنَهَضَ إِلَى الصَّخْرَةِ فَلَمْ يَسْتَطِعْ، فَأَقْعَدَ طَلْحَةَ تَحْتَهُ، وَصَعِدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم حَتَّى اسْتَوَى عَلَى الصَّخْرَةِ، قَالَ: سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، يَقُولُ: أَوْجَبَ طَلْحَةُ.

日本語訳：

ズバイル・イブン・アウワーム رضى الله عنه は言った。「**ウフドの日、預言者 ﷺ は二重の鎖帷子を身につけておられた。**彼は大きな岩に登ろうとされたが、できなかった。そこでタルハを下にかがませ、預言者 ﷺ は岩の上にまっすぐ立たれるまで登られた。」彼は言った。私は預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**タルハは（楽園を）自分のものとした。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・サイード・アブドゥッラー・イブン・サイード・アシャッジュ ← ユーヌス・イブン・ブカイル ← ムハンマド・イブン・イスハーク ← ヤフヤー・イブン・アッバード ← アッバード・イブン・アブドゥッラー（その父）← アブドゥッラー・イブン・ズバイル（その祖父）← ズバイル・イブン・アウワーム رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 109 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1692 番にもある。

判定： ハサン — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:109

このハディースからの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの助けを確信しておられたにもかかわらず、**二重の鎖帷子**を身につけておられた。これは**アッラーへの信頼（タワックル）は努力を否定しない**ことを教えている。信仰者は全力を尽くし、その結果をアッラーに委ねるのである。サーイブ・イブン・ヤズィードも、彼がウフドの日に二枚の鎖帷子を着ておられたと伝えている（『シャマーイル』110）— サヒーフ。

アッラーご自身も、鎧を恵みとして述べておられる。「**暴力からあなたがたを守る衣**」（蜜蜂章 16:81）— タフスィール・イブン・カスィール 16:81。

タルハ・イブン・ウバイディッラー رضى الله عنه の物語は深く心を打つ。彼は傷を負い、二重の鎖帷子で重くなっていたので、タルハが身をかがめて自分を踏み台とし、彼が岩に登れるようにした。この献身のゆえに、彼は言われた。「**タルハは（楽園を）自分のものとした。**」ウフドの日、タルハはまた自分の手で彼をかばい、その手は動かなくなってしまった。

第 15 章：その兜

第 15 章は、マッカ征服の日に彼がマッカに入られたときにかぶっておられた**兜（ミグファル）**について述べている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 112 番

حَدَّثَنَا عِيسَى بْنُ أَحْمَدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ وَهْبٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي مَالِكُ بْنُ أَنَسٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، دَخَلَ مَكَّةَ عَامَ الْفَتْحِ، وَعَلَى رَأْسِهِ الْمِغْفَرُ، قَالَ: فَلَمَّا نَزَعَهُ جَاءَهُ رَجُلٌ، فَقَالَ لَهُ: ابْنُ خَطَلٍ مُتَعَلِّقٌ بِأَسْتَارِ الْكَعْبَةِ، فَقَالَ: اقْتُلُوهُ، قَالَ ابْنُ شِهَابٍ: وَبَلَغَنِي أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، لَمْ يَكُنْ يَوْمَئِذٍ مُحْرِمًا.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は伝えた。「**アッラーの使徒 ﷺ はマッカ征服の年に、頭に兜（ミグファル）をかぶってマッカに入られた。**それを脱がれると、ある男が来て言った。『イブン・ハタルがカアバの覆いにしがみついています。』彼は言われた。『彼を殺せ。』」イブン・シハーブは言った。その日、アッラーの使徒 ﷺ はイフラームの状態ではなかったと私は聞いている。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イーサー・イブン・アフマド・アスカラーニー ← アブドゥッラー・イブン・ワフブ ← マーリク・イブン・アナス ← イブン・シハーブ・ズフリー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 112 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1846 番、『サヒーフ・ムスリム』第 1357 番にもある。

判定： サヒーフ、ブハーリーとムスリムの一致（ムッタファク・アライヒ） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:112

このハディースからの教訓

このハディースは、**マッカ征服**のとき、戦いが起こる可能性があったため、アッラーの使徒 ﷺ が兜をかぶり、備えを整えてマッカに入られたことを示している。しか

しアッラーはほとんど流血なしにマッカを開かれ、彼はよく知られた言葉で、その住民を赦された。

イブン・ハタルは、全体の恩赦から除外された**ごく少数**の一人であった。彼はかつてイスラームに入ったが、自分に仕えていたムスリムを殺し、背教して、アッラーの使徒 ﷺ をののしる詩を作った。その罪は単なる不信仰ではなく、すでに刑が定められていた重大な犯罪であった。

その日、彼が**イフラームの状態ではなかった**というイブン・シハーブの言葉は、一つのフィクフ（法学）上の規定を示している。戦いの必要のためにマッカに入る者は、イフラームをする義務がない。この物語は『預言者のスィーラ』シリーズ（マッカ征服）でさらに詳しく扱った。

第 16 章：そのターバン

第 16 章はアッラーの使徒 ﷺ の**ターバン（イマーマ）**について述べている。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 113 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، عَنْ حَمَّادِ بْنِ سَلَمَةَ (ح) حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ حَمَّادِ بْنِ سَلَمَةَ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، قَالَ: دَخَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، مَكَّةَ يَوْمَ الْفَتْحِ، وَعَلَيْهِ عِمَامَةٌ سَوْدَاءُ.

日本語訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ はマッカ征服の日、黒いターバンを巻いてマッカに入られた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー。別の経路では マフムード・イブン・ガイラーン ← ワキーウ ← いずれも ハンマード・イブン・サラマ ← アブー・ズバイル ← ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 113 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 1358 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:113

このハディースからの教訓

彼がマッカに入られた同じ日について、兜と述べる伝承と黒いターバンと述べる伝承がある。学者たちはこう調和させる。彼は**兜をかぶって入られ**、その後それを**脱いで**、人々に語りかけるときに黒いターバンを巻かれたのである。アムル・イブン・フライスは、父が彼を**黒いターバンを巻いて説教される**姿で見たと述べている（『シャマーイル』115）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』1359 にもある。

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。「**預言者 ﷺ はターバンを巻かれると、その端を両肩の間に垂らしておられた**」（『シャマーイル』116）— ハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』1736 にもある。イブン・ウマル自身もそうしており、その弟子たちもそれを受け継いだ。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、彼が**ダスマーゥ**、すなわち髪の油のあとがついたターバンを巻いて説教されたと述べている（『シャマーイル』117）— サヒーフ。これは、そのターバンが手つかずの飾りとしてしまわれていたのではなく、ふだんの生活で使われていたことを示している。

注：ターバンを巻くことの規定

学者たちは、ターバンを巻くことが奨励される**崇拝のスンナ**なのか、それとも**慣習のスンナ**、すなわち彼が身につけていたアラブ人のふだんの衣服なのかについて、見解が分かれている。多くの学者はそれを慣習と見ており、彼への愛からそれを巻くのは良いことだが、巻かない人がとがめられることはない。大切なのは、慎み深く、誇ることなく頭を覆うことである。

出典：

イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』衣服の章。

第 17 章：その腰布

第 17 章は彼の**腰布（イザール）**について述べている。最初の伝承は深く心を打つ。

アブー・ブルダは言った。アーイシャ رضى الله عنها は私たちに**つぎはぎの外衣と粗い腰布**を取り出して見せ、こう言った。「**アッラーの使徒 ﷺ の魂は、この二つの中で召された**」（『シャマーイル』118）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5818 にもある。

想像してほしい。アラビア半島全体に及ぶ国家の指導者であり、戦利品やザカートが集まってきた人が、**つぎはぎの粗い衣服を着て亡くなった**のである。彼は財を他の人々に分け与え、質素に生きることを選ばれた。アーイシャはその衣服を保管し、ウンマが**彼の生活が本当にどのようなものであったか**を知るように、それを見せたのである。

これは、イスラームが粗末な服を着るよう命じているという意味ではない。彼は客を迎えるときやイードの日には良い衣服も着られた。しかし、これは**彼の心がこの世に執着していなかった**ことを教えている。衣服は手段にすぎず、残るのは篤信という衣装である。

裾の位置と高慢の危険

アッラーの使徒 ﷺ は、腰布の**裾がどこにあるべきか**を、ご自身の手で示された。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 121 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو الأَحْوَصِ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ مُسْلِمِ بْنِ نَذِيرٍ، عَنْ حُذَيْفَةَ بْنِ الْيَمَانِ، قَالَ: أَخَذَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، بِعَضَلَةِ سَاقِي أَوْ سَاقِهِ، فَقَالَ: هَذَا مَوْضِعُ الإِزَارِ، فَإِنْ أَبَيْتَ فَأَسْفَلَ، فَإِنْ أَبَيْتَ فَلا حَقَّ لِلإِزَارِ فِي الْكَعْبَيْنِ.

日本語訳：

フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は私のふくらはぎの筋肉 — あるいはご自身のふくらはぎ — をつかんで言われた。「**ここが腰布（イザ**

ール）の位置である。それが嫌なら、もう少し下に。それも嫌なら、腰布にはくるぶしまで届く権利はない。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← アブー・アフワス ← アブー・イスハーク・サビーイー ← ムスリム・イブン・ナズィール ← フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 121 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1783 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは『ジャーミウ』でハサン・サヒーフと判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:121

このハディースからの教訓

このハディースは**三つの位置**を定めている。最も良いのは**ふくらはぎの中ほど**、それが嫌なら**その少し下**、そして禁じられているのは**くるぶしより下**である。彼はふくらはぎをつかんで場所を示すという、とても実際的な方法で教え、迷いが生じないようにされた。

なぜ裾の位置がこれほど大切なのか。当時、**衣服を引きずるほど長くすること**は、高慢な金持ちのしるしだったからである。彼は言われた。**「腰布のうち、くるぶしより下にある部分は火の中にある」**（『サヒーフ・ブハーリー』5787）。また、「アッラーは審判の日、高慢から衣服を引きずる者を見られない」（『サヒーフ・ブハーリー』5784）。

同じハディースの中で、アブー・バクル رضى الله عنه は言った。「私の腰布の片側は、気をつけていないとずり落ちてしまいます。」彼は答えられた。**「あなたは高慢からそうする者ではない」**（『サヒーフ・ブハーリー』5784）。ここから多くの学者は、厳しい警告は**高慢から故意にそうする者**に限られると説明し、他の学者は一般的にも好ましくないとしている。最も安全なのは、彼が示された位置に従うことである。

アッラーは、これらすべての根にある態度についてこう言われる。**「横柄に地上を歩いてはならない」**（ルクマーン章 31:18）— タフスィール・イブン・カスィール 31:18。

注：腰布についての弱い伝承（『シャマーイル』119〜120）

「そのほうがより敬虔で、長持ちする」として後ろから衣服を上げるよう言われ、「あなたには私という模範がないのか」と言われた男の伝承（第 119 番）と、ふくらはぎの中ほどまでの腰布を着けて「私の友（預言者）の腰布はこのようであった」と言ったウスマーンの伝承（第 120 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。その意味は、上に挙げたフザイファのサヒーフなハディースによって支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 119〜120 番 — 伝承経路は弱い。 sunnah.com/shamail:119

第 18 章：その歩き方

第 18 章は**アッラーの使徒 ﷺ の歩き方**を描いている。最も美しい伝承はアブー・フライラ رضى الله عنه によるものである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 122 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا ابْنُ لَهِيعَةَ، عَنْ أَبِي يُونُسَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ: وَلَا رَأَيْتُ شَيْئًا أَحْسَنَ مِنْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم كَأَنَّ الشَّمْسَ تَجْرِي فِي وَجْهِهِ، وَمَا رَأَيْتُ أَحَدًا أَسْرَعَ فِي مِشْيَتِهِ مِنْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم كَأَنَّمَا الأَرْضُ تُطْوَى لَهُ إِنَّا لَنَجْهَدُ أَنْفُسَنَا وَإِنَّهُ لَغَيْرُ مُكْتَرِثٍ.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。「**私はアッラーの使徒 ﷺ より美しいものを見たことがない。まるで太陽がお顔の中を巡っているかのようであった。また、アッラーの使徒 ﷺ より速く歩く人を見たことがない。まるで大地が彼のために畳まれているかのようであった。**私たちは懸命に努めているのに、彼は少しも苦にしておられなかった。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← イブン・ラヒーア ← アブー・ユーヌス（スライム・イブン・ジュバイル） ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 122 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3648 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:122

このハディースからの教訓

アブー・フライラは二つのことを描いている。太陽が巡っているかのように輝く**お顔**と、大地が彼のために畳まれているかのように速い**足取り**である。若い教友たちでさえ、彼について行くには懸命にならなければならなかった。

アリー رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ は歩くとき、坂を下るかのように前かがみになられた**」（『シャマーイル』124）— ハサン。このような足取りは、**活力があり目的のある人**の歩き方である。だらしなく足を引きずるのでもなく、威張って歩くのでもない。

この歩き方は、クルアーンに描かれたアッラーのしもべたちの姿と一致している。「**謙虚に地上を歩く者**」（識別章 25:63）— タフスィール・イブン・カスィール 25:63。

学者たちは、**速いことは慌ただしいことではなく、落ち着いていることは遅いことではない**と説明する。彼は力強く速い足取りで、しかも落ち着きと謙虚さに満ちて歩かれた。ルクマーンも息子にこう助言している。「歩き振を穏やかにし」（ルクマーン章 31:19）。

第 19 章：その頭巾

注：アッラーの使徒 ﷺ の頭巾（『シャマーイル』125）

第 19 章には伝承が一つしかない。アナスは、アッラーの使徒 ﷺ が**よくキナーウ（頭を覆う布）をかぶっておられた**ので、その衣服はまるで油売りの衣服のようであったと言った。

その伝承経路は、伝承者ヤズィード・ラカーシーのため、ズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかし『サヒーフ・ブハーリー』には、ヒジュラの日、彼がふだん来ない時刻に、**頭を覆った姿で**（ムタカンニアン）アブー・バクルの家に来られたというサヒーフな伝承がある。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 125 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:125

キナーウとは、頭と顔の一部を覆う布で、多くは**日差しの暑さ**、ほこり、寒さから身を守るためのものである。ヒジュラの物語では、彼は真昼の暑さの中を出られたので頭を覆われ、また彼を探していた敵に**気づかれないように**もされた（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

イマーム・ティルミズィーは、伝承が弱いにもかかわらずこの章を設けた。当時のハディース学者の方法は、**すべての伝承を伝承経路とともに集め**、読者に判断を委ねることだったからである。私たちは校訂者たちの助けによって、確かなものとそうでないものを区別することができる。これは後の世代にとって大きな恵みである。

この章から、暑さの中や特定の状況で頭を覆うことは**理にかなった行い**であり、彼の衣服は見せるためではなく身を守るために、常に必要に合わせて選ばれていたことがわかる。

第 20 章：その座り方

第 20 章は**アッラーの使徒 ﷺ の座り方と横たわり方**を描いている。サヒーフな伝承は次のとおりである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 127 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْمَخْزُومِيُّ، وَغَيْرُ وَاحِدٍ، قَالُوا: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عَبَّادِ بْنِ تَمِيمٍ، عَنْ عَمِّهِ، أَنَّهُ رَأَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم مُسْتَلْقِيًا فِي الْمَسْجِدِ وَاضِعًا إِحْدَى رِجْلَيْهِ عَلَى الأُخْرَى.

日本語訳：

アッバード・イブン・タミームは、おじ（アブドゥッラー・イブン・ザイド رضى الله عنه）から伝えた。「**彼は、預言者 ﷺ がモスクの中で仰向けに横たわり、片方の足をもう片方の足の上に置いておられるのを見た。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：サイード・イブン・アブドゥッラフマーン・マフズーミー ← スフヤーン・イブン・ウヤイナ ← ズフリー ← アッバード・イブン・タミーム ← アブドゥッラー・イブン・ザイド（そのおじ）رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 127 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 475 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:127

このハディースからの教訓

このハディースは、彼が**モスクの中でくつろいで休まれた**ことを示している。片方の足をもう片方の上に置き、仰向けに横たわっておられたのである。彼の時代、モスクは礼拝の場であるだけでなく、集まり、学び、休む場でもあった。サイード・イブン・ムサイヤブは、ウマルとウスマーンもそうしていたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』475）。

学者たちはこのハディースを、片方の足をもう片方の上に置いて横たわることを禁じた別のハディース（『サヒーフ・ムスリム』2099）と調和させている。禁止されているのは**体が露わになるおそれがある場合**であり、覆われていれば許されるのである。これは、学者たちが**ハディースを全体として理解する**ことの一例である。

注：謙虚に座ること（『シャマーイル』126、128）

カイラ・ビント・マフラマは、アッラーの使徒 ﷺ がモスクで**深い謙虚さのうちにしゃがんで**座っておられるのを見て、畏れのあまり震えたと述べている（第 126 番）。アブー・サイードは、彼がモスクで両手で膝を抱えて座っておられたと述べている（第 128 番）。

ズバイル・アリー・ザイーによれば、第 126 番は**伝承経路が弱く**、第 128 番は**非常に弱い**。膝を抱えて座ること（イフティバーゥ）自体は、他の伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 126、128 番。 sunnah.com/shamail:126

第 21 章：そのクッション

第 21 章は、彼がもたれておられた**クッション**について述べている。ジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنه は言った。「**私はアッラーの使徒 ﷺ が左側のクッションにもたれておられるのを見た**」（『シャマーイル』129）— 伝承経路はサヒーフ。

座ってクッションにもたれることは普通のことであり、許されている。しかしこの章のある伝承は、彼がとても大切なことを述べるときに**姿勢を変えられた**ことを示している。アブー・バクラ رضى الله عنه は、彼がこう尋ねられたと伝えている。「大罪の中で最も大きなものをあなたがたに告げようか。」彼らは言った。「はい、アッラーの使徒よ。」彼は言われた。「アッラーに並ぶものを置くこと、そして両親に背くことである」（『シャマーイル』130）— サヒーフ。

それから、もたれておられた彼は**まっすぐに座り直し**、こう言われた。「**そして偽りの言葉、あるいは偽りの証言である。**」彼がそれを繰り返し続けられたので、教友たちは心の中で「もうおやめになればよいのに」と思うほどであった（『サヒーフ・ブハーリー』2654）。

この姿勢の変化は、熟練した教師の**身体の言葉**である。彼は、嘘と偽証の罪がどれほど重いかを示すためにまっすぐ座られた。それはたやすく犯され、軽く見られがちでありながら、正義と人間関係を壊す罪である。

「私はもたれて食べない」

同じ章に、**食事の作法**についての彼の言葉がある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 131 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شَرِيكٌ، عَنْ عَلِيِّ بْنِ الأَقْمَرِ، عَنْ أَبِي جُحَيْفَةَ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: أَمَّا أَنَا، فَلا آكُلُ مُتَّكِئًا.

日本語訳：

アブー・ジュハイファ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**私はといえば、もたれかかって食べることはしない。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← シャリーク・イブン・アブドゥッラー ← アリー・イブン・アクマル ← アブー・ジュハイファ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 131 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5398 番、『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1830 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:131

このハディースからの教訓

別の伝承では、彼はそれを二度繰り返された。「私はもたれて食べない。私はもたれて食べない」（『シャマーイル』132）。学者たちは、もたれて食べることは、たくさん長々と食べる**ぜいたくな人々や王たちのやり方**であったと説明する。彼はしもべのように座って食べられたのである。

『シャマーイル』以外の伝承で、彼はこう言われた。**「私はしもべが食べるように食べ、しもべが座るように座る」**（アルバーニーが『スィルスィラ・サヒーハ』第 544 番でサヒーフと判定）。意味は同じで、**日常のことにおける謙虚さ**である。この食事のスンナについては、イン・シャー・アッラー、彼の飲食についての章で、第三部でさらに詳しく扱う。

健康の面からも、多くの医療者は、もたれたり横になったりせず**まっすぐ座って食べる**ことを勧めている。消化のためにそのほうが良いからである。もともと作法と謙虚さに関わるこのスンナは、体にとっても良いものなのである。

第 22 章：クッション以外にもたれること

本書の最後の章である第 22 章は、病気のときに彼が**教友にもたれられた**ことを述べている。アナス رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は病気になり、**ウサーマ・イブン・ザイドにもたれて**、粗い綿の布を体にまとって出て来られ、人々を率いて礼拝された（『シャマーイル』134）— サヒーフ。

これは彼の生涯の**最後の日々**の出来事である。病で弱っていても、彼はなおウンマとともにいるためにモスクへ出ようと努められた。ウサーマ・イブン・ザイドは、彼が解放して愛したザイド・イブン・ハーリサの息子であり、彼がもたれたのはその人であった。

注：ファドル・イブン・アッバースと頭の布（『シャマーイル』135）

ファドル・イブン・アッバースは、アッラーの使徒 ﷺ が亡くなる原因となった病のときに彼のもとを訪ねると、その頭には黄色い布が巻かれていたと語った。彼はファドルに頭を縛るよう頼み、それから彼の肩にもたれてモスクに入られた。

この伝承の伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。病のときに彼が頭を布で縛り、家族や教友にもたれられたことは、他のサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 135 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:135

この章から、彼の**謙虚さ**を学ぶ。ウンマの偉大な指導者は、弱ったときに他の人にもたれることを恥とされなかった。また、常に彼の支えとなろうとした**教友たちの誠実さ**も学ぶ。私たちもまた、親や周りの弱い人々の支えとなれますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

衣服における質素さ

本書のすべての伝承を集めると、はっきりとした姿が見えてくる。アッラーの使徒 ﷺ は**清潔に、整えて、質素に**装っておられた。禁欲を見せびらかすためにぼろを着ることもなく、誇るためにぜいたくな服を着ることもなかった。

彼は**名声のための衣服**について警告された。「名声のための衣服（見せびらかすための衣服）を着る者には、アッラーは審判の日に同じような衣服を着せられる」（『スナン・アビー・ダーウード』4029）— ハサン（アルバーニー）。名声のための衣服とは、人々に見られ話題にされるために着る衣服であり、ぜいたくすぎるものも、みすぼらしすぎるものもそれに当たる。

流行が季節ごとに変わり、広告が必要以上に買うよう私たちを促す今日、衣服における彼のスンナはとても身近な意味を持つ。**必要なだけ買い、清潔に保ち、擦り切れるまで着て、一枚一枚に感謝すること**。それこそが祝福をもたらす衣服である。

結局、これらすべてはアッラーの御言葉に帰する。**「本当にアッラーの使徒は，アッラーと終末の日を熱望する者，アッラーを多く唱念する者にとって，立派な模範であった」**（部族連合章 33:21）— タフスィール・イブン・カスィール 33:21。

教訓と結び

『シャマーイル』の第 8〜22 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**衣服、装い、そして暮らし方**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
8. 衣服	カミースとヒバラ、新しい衣服の祈り、白い衣服
9〜10. フッフとサンダル	擦り切れるまで使う、右から始める、片方だけで歩かない
11〜12. 指輪	ダアワのための銀の指輪、男性に金は禁止
13〜15. 剣、鎧、兜	努力をともなうタワックル、タルハの献身
16〜17. ターバンと腰布	裾はふくらはぎの中ほど、高慢を避ける

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

章	主な教訓
18〜19. 歩き方と頭巾	速く、しかも落ち着いて謙虚な足取り
20〜22. 座り方ともたれ方	もたれて食べない、教師の身体の言葉

私たちへのメッセージ

私たちの衣服も、スンナに従い、体を覆い、感謝するという意図で着るなら、崇拝となりうる。しかしアッラーの御言葉を忘れてはならない。**篤信という衣装こそ最も優れたもの**である。アッラーが、この世では篤信という衣装で、来世では楽園の衣服で、私たちを飾ってくださいますように。

話は**第三部**へと続く。その食べ方と飲み方、好まれた食べ物と飲み物、香り、話し方、笑い方、冗談の言い方など、『シャマーイル』の続く章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第二部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（高壁章 7:26、31、蜜蜂章 16:81、識別章 25:63、ルクマーン章 31:18、部族連合章 33:21）。tafsir.app/ibn-katheer/7/26

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 8〜22 章（ハディース第 55〜135 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』預言者 ﷺ の衣服の章。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』166、475、1846、2654、3905、5784、5787、5798、5813、5818、5855、5856、5866、5872、5879。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』91、1357、1358、1359、2078、2091、2092、2095、2097、2099。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』994、1692、1736、1762、1767、1768、1769、1783、1830、3648、『スナン・アビー・ダーウード』4020、4029。sunnah.com

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

第三部

なんと良い副菜

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 23〜31 章

食べ方、パン、副菜、食事の言葉、杯、果物、飲み物、飲み方

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なんと良い副菜

これまでの二部では、アッラーの使徒 ﷺ のお姿と衣服を知った。この第三部は、私たちを**彼の食卓**へと導く。彼が何を食べ、何を飲み、どのように食べ、食事の前後に何を言われたかである。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』第 23 章から第 31 章に従う。

これらの章には **78 の伝承**が含まれている。彼の副菜についての第 25 章だけで 34 の伝承があり、これまでのどの章よりも多い。これまでと同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

そこに浮かび上がる姿は、胸を打つものである。ウンマの指導者でありながら**しばしば空腹のまま夜を過ごし**、一度も食卓で食べられたことがなく、それでも大麦のパン一切れと酢であれ、ナツメヤシの実一粒であれ、一口一口に**感謝**しておられた方である。

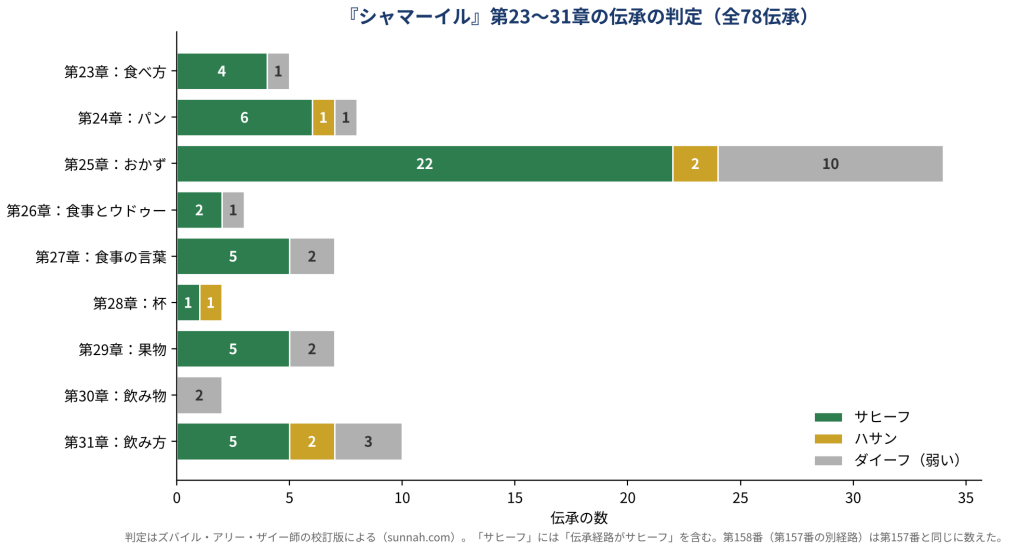


図 3：『シャマーイル』第 23〜31 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。これらの章の 78 の伝承のうち、およそ 4 分の 3 がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

イスラームにおける飲食

食べることと飲むことは、すべての人間に必要なことである。しかしイスラームでは、正しい意図と正しい作法をもって行えば、それは**崇拝**にもなりうる。アッラーはこう言われる。

雌牛章 2:172

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ كُلُواْ مِن طَيِّبَٰتِ مَا رَزَقۡنَٰكُمۡ وَٱشۡكُرُواْ لِلَّهِ إِن كُنتُمۡ إِيَّاهُ تَعۡبُدُونَ ١٧٢

信仰する者よ，われがあなたがたに与えた良いものを食べなさい。そしてアッラーに感謝しなさい。もしあなたがたが本当に，かれに仕えるのであるならば。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:172

この節には**二つの命令**がある。良いものを食べること、そしてアッラーに感謝することである。イブン・カスィールは、合法で良い食べ物は人が崇拝するのを助け、感謝はその崇拝が本当にアッラーのためであることのしるしであると説明している（タフスィール・イブン・カスィール 2:172）。

アッラーはまた、私たちの食べ物について考えるよう促しておられる。「**自分の食物に就いて考えさせてみるがよい**」（眉をひそめて章 80:24）— タフスィール・イブン・カスィール 80:24。

アッラーの使徒 ﷺ は食事における**節度**を教えられた。「アーダムの子は、自分の腹よりも悪い器を満たすことはない。アーダムの子には、背骨をまっすぐに保つ数口で十分である。どうしてもというなら、三分の一を食べ物に、三分の一を飲み物に、三分の一を息のために」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2380）— サヒーフ。

本書の各章は、アッラーの使徒 ﷺ が日々の生活の中で**これらの原則をどのように生きられたか**を示していく。少なく食べること、あるものを食べること、食べ物をけなさないこと、アッラーの御名で始め、かれへの称賛で終えることである。

これらの章を読むとき、私たちは単に昔の食習慣を学ぶのではない。どのような状況にあっても、アッラーに感謝し、満足し、分かち合う心を学ぶのである。食卓は、家族の中で信仰を育てる最も身近な場所の一つである。

現代の私たちは、急いで食事を済ませたり、画面を見ながら食べたりすることが多い。しかしアッラーの使徒 ﷺ の食事には、いつも**落ち着きと感謝**があった。アッラーの御名で始め、ゆっくりと少しずつ食べ、食べ終えるとかれを称える。この単純な流れが、ふだんの食事を崇拝へと変えるのである。

また、彼の食事は**一人で食べるものではなかった**。家族や教友、客とともに食べ、少ない食べ物を分け合われた。本書の多くの伝承は、教友たちが彼とともに食卓を囲んだ経験から生まれている。食事をともにすることは、心を近づける大切な機会なのである。

第 23 章：その食べ方

『シャマーイル』の第 23 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の食べ方について伝えられたこと**」と題されている。五つの伝承があり、サヒーフが四つ、弱いものが一つである（図 3）。

カアブ・イブン・マーリク رضي الله عنه は伝えている。「**アッラーの使徒 ﷺ は三本の指で食べ、その後それをなめておられた**」（『シャマーイル』140）— サヒーフ。三本の指、すなわち親指、人差し指、中指で食べることは、**がつがつしない**ことのしるしである。一口は小さくなり、食べ方はゆっくりになり、食べ物を落ち着いて味わうことができる。

この章はまた、彼の言葉を繰り返している。「私について言えば、私はもたれて食べない」（『シャマーイル』138）— サヒーフ。このハディースは第二部（クッションの章）で取り上げた。イマーム・ティルミズィーがここで繰り返したのは、それが**食事の作法**に直接関わるからである。

注：指を三回なめること（『シャマーイル』136）

この伝承は、彼が指を**三回**なめられたと述べている。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。確立しているのは、ほかのサヒーフな伝承にあるように、彼が**三本の指**をなめられたことである。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 136 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:136

三本の指をなめる

小さなことに見えるかもしれないが、アッラーの使徒 ﷺ が大切に守られたスンナがある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 137 番

حَدَّثَنَا الْحَسَنُ بْنُ عَلِيٍّ الْخَلَالُ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَفَّانُ، قَالَ: حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِذَا أَكَلَ طَعَامًا لَعِقَ أَصَابِعَهُ الثَّلاثَ.

日本語訳：

アナス رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ は食事をされると、三本の指をなめておられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハサン・イブン・アリー・ハッラール ← アッファーン・イブン・ムスリム ← ハンマード・イブン・サラマ ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 137 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2034 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:137

このハディースからの教訓

なぜ指をなめるのか。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がその知恵を説明された。「**あなたがたは、食べ物のどの部分に祝福があるのかを知らない**」（『サヒーフ・ムスリム』2033）。祝福は、指や皿に残ったものの中にあるのかもしれない。だからムスリムはそれを無駄にしないのである。

『サヒーフ・ムスリム』の同じ伝承で、彼はこうも言われた。一口の食べ物が落ちたら、**汚れを取り除いてそれを食べなさい**、悪魔のために残してはならない（『サヒーフ・ムスリム』2034）。これは、たとえ一口であっても無駄にせず、**授かりものを大切にする**ことを教えている。

毎日多くの食べ物が捨てられている時代に、このスンナはとても身近な意味を持つ。必要な分だけ取り、皿の上のものを食べきり、米の一粒一粒を大切にすることが、**このスンナを生かす**方法である。

また、指をなめることは**謙虚さ**のしるしでもある。高慢な人は、指をなめることを品のないことと考えるかもしれない。しかしアッラーの使徒 ﷺ は、人々の目よりも授かりものの祝福を大切にされた。食事のあとに皿をきれいにすることも、同じ精神に基づく作法である。

空腹のあまりしゃがんで食べる

この章の最後の伝承は、彼の**本当の暮らし**に私たちの目を開かせてくれる。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 141 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا الْفَضْلُ بْنُ دُكَيْنٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُصْعَبُ بْنُ سَلِيمٍ، قَالَ: سَمِعْتُ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ، يَقُولُ: أُتِيَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم بِتَمْرٍ فَرَأَيْتُهُ يَأْكُلُ وَهُوَ مُقْعٍ مِنَ الْجُوعِ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ のもとにナツメヤシの実が運ばれてきた。私は、彼が空腹のあまりしゃがみこんで食べておられるのを見た。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← ファドル・イブン・ドゥカイン ← ムスアブ・イブン・スライム ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 141 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2044 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:141

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

このハディースからの教訓

ウンマの指導者であり、アッラーの使徒である方が、**空腹のあまりしゃがみこんで**、運ばれてきたナツメヤシの実を食べておられた。ここでのしゃがんだ座り方（イクアーゥ）は楽な姿勢ではなく、ごちそうを楽しむためではなく、必要に迫られて急いで食べておられたことのしるしである。

ムスリムの別の伝承で、アナスは彼がそのナツメヤシの実を**しゃがんだまま**食べておられたと述べている（『サヒーフ・ムスリム』2044）。この空腹は、財が入ってこなかったからではなく、彼が財を**人々に分け与え**、質素な暮らしを選ばれたからである。

このハディースは貧しい人々の心を慰める。アッラーの使徒 ﷺ もまた空腹を知っておられたのである。そして豊かな人々に思い出させる。**感謝することと分かち合うことを忘れてはならない**。人々の中で最も尊い方が、かつて空腹のあまりしゃがんで食べておられたのだから。

アッラーの使徒 ﷺ が望まれれば、豊かな暮らしを送ることもできた。しかし彼はこう祈られた。「アッラーよ、ムハンマドの家族の糧を、ちょうど足りるだけのものにしてください」（『サヒーフ・ムスリム』1055）。彼の空腹は、自ら選ばれた質素さだったのである。

第 24 章：そのパン

第 24 章は、彼が食べておられた**パン**について語っている。パンは主食であり、この章の伝承は彼の暮らしがどれほど質素であったかを示している。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 148 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو دَاوُدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، قَالَ: سَمِعْتُ عَبْدَ الرَّحْمَنِ بْنَ يَزِيدَ يُحَدِّثُ، عَنِ الأَسْوَدِ بْنِ يَزِيدَ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: مَا شَبِعَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ خُبْزِ الشَّعِيرِ يَوْمَيْنِ مُتَتَابِعَيْنِ حَتَّى قُبِضَ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、亡くなられるまで、大麦のパンで二日続けて満腹になられたことはなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ダーウード・タヤーリスィー ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アブー・イスハーク・サビーイー ← アブドゥッラフマーン・イブン・ヤズィード ← アスワド・イブン・ヤズィード ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 148 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2357 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:148

このハディースからの教訓

アーイシャ رضى الله عنها はまたこうも言った。「ムハンマド ﷺ の家族は、アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられるまで、大麦のパンで二日続けて満腹になったことはなかった」（『シャマーイル』142）— 伝承経路はサヒーフ。アブー・ウマーマは言った。「アッラーの使徒 ﷺ の家で、大麦のパンが余ったことはなかった」（『シャマーイル』143）— 伝承経路はサヒーフ。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は付け加えた。「**アッラーの使徒 ﷺ は幾晩も続けて空腹のまま過ごされた。彼も家族も夕食を得られず、彼らのパンの多くは大麦のパンであった**」（『シャマーイル』144）— 伝承経路はサヒーフ。アーイシャはまたウルワにこう言った。「私たちは新月を見て、また新月を見て、また新月を見た。二か月のあいだに三つの新月である。そのあいだ、アッラーの使徒 ﷺ の家々では火がともされなかった。」何で暮らしていたのかと尋ねられると、彼女は答えた。「二つの黒いもの、ナツメヤシの実と水です」（『サヒーフ・ブハーリー』6459）。

二か月ものあいだ火をともさず、ナツメヤシの実と水だけで暮らす。それでも彼の家から不平の声が聞こえることはなかった。今日、冷蔵庫に食べ物があり、毎日温かい食事ができる私たちは、そのことにどれほど感謝しているだろうか。この章は、私たちが当たり前と思っている恵みを数えるよう促している。

食卓もなく、薄いパンもなく

質素だったのは食べ物だけではない。彼の**食べ方**もまた質素であった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 146 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاذُ بْنُ هِشَامٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي أَبِي، عَنْ يُونُسَ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: مَا أَكَلَ نَبِيُّ اللهِ عَلَى خِوَانٍ، وَلا فِي سُكُرُّجَةٍ، وَلا خُبِزَ لَهُ مُرَقَّقٌ قَالَ: فَقُلْتُ لِقَتَادَةَ: فَعَلامَ كَانُوا يَأْكُلُونَ؟ قَالَ: عَلَى هَذِهِ السُّفَرِ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの預言者 ﷺ は、食卓（ヒワーン）で食べられたことも、小皿（スクッルジャ）で食べられたこともなく、彼のために薄いパンが焼かれたこともなかった。**」（ユーヌスは言った。）私はカターダに尋ねた。「では、彼らは何の上で食べていたのですか。」彼は言った。「こうした革の敷物（スフラ）の上である。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ムアーズ・イブン・ヒシャーム ← ヒシャーム・ダストゥワーイー（その父） ← ユーヌス・イスカーフ ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 146 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5386 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:146

このハディースからの教訓

ヒワーンとは高さのある食卓で、裕福な人々やペルシアの王たちの習慣であった。**スクッルジャ**とは、さまざまな副菜や前菜のための小皿である。アッラーの使徒 ﷺ はそのどちらも使われなかった。彼は**スフラ**、すなわち床に広げた革の敷物の上で食べられたのである。

サフル・イブン・サアド رضى الله عنه は尋ねられた。「アッラーの使徒 ﷺ は細かい小麦粉（白いパン）を食べられましたか。」彼は答えた。「**アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーにまみえるまで細かい小麦粉を見たことがなかった**」（『シャマーイル』145）— 伝承経路はハサン。『サヒーフ・ブハーリー』5413 にもある。彼らは大麦の粉に息を吹きかけ、飛ぶものは飛ばし、残りをこねたのである。

注：アーイシャの涙（『シャマーイル』147）

マスルークは、アーイシャが彼に食事を出してこう言ったと語った。「私はどんな食べ物でも満腹になると、泣きたくなって泣いてしまうのです。」彼女はアッラーの使徒 ﷺ がこの世を去られたときの様子を思い出していたのである。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかしその意味、すなわち彼の質素な暮らしを思うアーイシャの悲しみは、この章のサヒーフな伝承と一致している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 147 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:147

第 25 章：パンとともに食べたもの

第 25 章は本書で最も長い章である。「**アッラーの使徒 ﷺ の副菜（イダーム）について伝えられたこと**」と題され、**34 の伝承**を含む。そこにはパンとともに食べられたもの、すなわち酢、オリーブ油、ひょうたん、肉、鶏肉、蜂蜜、甘いもの、ナツメヤシの実などが挙げられている。

アラビア語の**イダーム**（副菜）とは、パンを飲み込みやすく、おいしくするためにパンとともに食べるもののすべてを指す。酢、油、汁、肉、ナツメヤシの実などである。当時はパンが主な食べ物であり、副菜はわずかな添えものにすぎなかった。

この一覧から、私たちは一つの大切な原則を学ぶ。アッラーの使徒 ﷺ は**あるものを食べられた**のである。合法な食べ物を拒まず、ないものを無理に探し求めることもなかった。アブー・フライラは言った。「アッラーの使徒 ﷺ は**食べ物をけなされたことが一度もなかった**。気に入れば食べ、気に入らなければ残された」（『サヒーフ・ブハーリー』5409）。

「酢はなんと良い副菜か」

本書の題名はこの章から取られている。アッラーの使徒 ﷺ は、最も質素な食べ物をほめられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 150 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ سَهْلِ بْنِ عَسْكَرٍ، وَعَبْدُ اللهِ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَا: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ حَسَّانَ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ بِلَالٍ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: نِعْمَ الإِدَامُ الْخَلُّ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**酢は、なんとよい副菜（イダーム）であろうか。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・サフル・イブン・アスカル と アブドゥッラー・イブン・アブドゥッラフマーン・ダーリミー ← ヤフヤー・イブン・ハッサーン ← スライマーン・イブン・ビラール ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父） ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 150 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2051 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:150

このハディースからの教訓

酢はぜいたくな食べ物ではなく、貧しい人々の副菜である。それでも彼はそれを**ほめられた**。ジャービル رضى الله عنه も同じ言葉を伝えている（『シャマーイル』152）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』でジャービルは、彼が家族に副菜を尋ねると、「酢しかありません」と言われたので、それを持って来させ、それで食べながら「酢はなんと良い副菜か」と言われたと語っている。

学者たちはここから二つの教えを引き出している。**第一に**、あるものがどれほど質素であっても、感謝のしるしとして、また家族の心を喜ばせるために、それをほめ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ること。**第二に**、アッラーが与えてくださったもので満足すること（カナーア）である。少ないものに感謝する人を、アッラーは祝福してくださる。

ヌウマーン・イブン・バシール رضى الله عنه は人々に言った。「あなたがたは今、好きなものを何でも食べたり飲んだりしているではないか。私はあなたがたの預言者 ﷺ を見たが、**彼は腹を満たすための質の悪いナツメヤシの実（ダカル）さえ手に入らなかった**」（『シャマーイル』151）— サヒーフ。

注：「酢のある家」（『シャマーイル』172）

ウンム・ハーニィは、彼が何か食べ物はあるかと尋ねられたので、乾いたパンと酢しかないと答えたと伝えた。彼は言われた。「持って来なさい。酢のある家は貧しくない。」その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**であるが、酢をほめられたことは上のサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 172 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:172

オリーブ油：祝福された木

彼がほめられたもう一つの食べ物は**オリーブ油**である。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 157 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ مُوسَى، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْمَرٌ، عَنْ زَيْدِ بْنِ أَسْلَمَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عُمَرَ بْنِ الْخَطَّابِ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: كُلُوا الزَّيْتَ وَادَّهِنُوا بِهِ، فَإِنَّهُ مِنْ شَجَرَةٍ مُبَارَكَةٍ.

日本語訳：

ウマル・イブン・ハッターブ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**オリーブ油を食べ、それを体に塗りなさい。それは祝福された木から採れるものだからである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ヤフヤー・イブン・ムーサー ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・イブン・ラーシド ← ザイド・イブン・アスラム ← アスラム（その父）← ウマル・イブン・ハッターブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 157 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1851 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。シャイフ・アルバーニーはサヒーフと判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:157

このハディースからの教訓

オリーブの木は、クルアーンの中で祝福された木として述べられている。「**祝福されたオリーブの木に灯されている**」（御光章 24:35）— タフスィール・イブン・カスィール 24:35。

アブー・ウサイド رضى الله عنه も同じ言葉を伝えている（『シャマーイル』156）— サヒーフ。彼は二つのことを命じられた。**それを食べること**と、**それを塗ること**（体や髪に塗ること）である。当時、オリーブ油は食べ物であり、薬であり、肌と髪の手入れのためのものであった。

現代の栄養学の研究でも、オリーブ油は**一価不飽和脂肪酸**や抗酸化物質に富み、心臓の健康と結びつけられる地中海式の食事の基礎であるとされている。これは彼の勧めと一致している。ただし私たちがそれを食べるのは、何よりもスンナに従い、アッラーの恵みに感謝するためである。

オリーブの木は何百年も生き続け、乾いた土地でも実を結ぶ。その実から搾られる油は、灯火をともし、料理を味わい深くし、体をいやす。アッラーがこの木を祝福されたと述べておられるのは、このような多くの恵みのゆえでもある。

好まれたひょうたん

アッラーの使徒 ﷺ がとても好まれ、教友たちがそれを覚えていた食べ物がある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 159 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، وَعَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَا: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُعْجِبُهُ الدُّبَّاءُ فَأُتِيَ بِطَعَامٍ، أَوْ دُعِيَ لَهُ فَجَعَلْتُ أَتَتَبَّعُهُ، فَأَضَعُهُ بَيْنَ يَدَيْهِ لِمَا أَعْلَمُ أَنَّهُ يُحِبُّهُ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ はひょうたん（ドゥッバーゥ）がお好きであった。だから食事が運ばれたり、食事に招かれたりすると、私はそれを探して彼の前に置いた。彼がそれを好まれることを知っていたからである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ムハンマド・イブン・ジャアファル と アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 159 番に収録。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:159

このハディースからの教訓

彼に対する**アナスの愛情**に注目してほしい。アナスは彼がひょうたんを好まれることを知っていたので、料理の中からそれを探して彼の前に置いた。これは主人を愛する奉仕者の作法である。相手が好むものに気づき、頼まれる前にそれを用意するのである。

このハディースはまた、アッラーの使徒 ﷺ が人間として**好きな食べ物を持っておられた**ことを示している。ある食べ物を好むことは、禁欲（ズフド）と矛盾しない。大切なのは、度を越さないこと、そして好まない食べ物をけなさないことである。

注：食事を増やすためのひょうたん（『シャマーイル』160）

ハキーム・イブン・ジャービルは父から、彼のそばでひょうたんが切られているのを見て「これは何ですか」と尋ねると、彼は「これで私たちは食事を増やすのだ」と言われたと伝えている。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 160 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:160

仕立屋の招待

アッラーの使徒 ﷺ は、ふつうの人々の招待を受けられた。一人の仕立屋の招待もそうであった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 161 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَنَسٍ، عَنْ إِسْحَاقَ بْنِ عَبْدِ اللهِ بْنِ أَبِي طَلْحَةَ، أَنَّهُ سَمِعَ أَنَسَ بْنَ مَالِكٍ، يَقُولُ: إِنَّ خَيَّاطًا دَعَا رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، لِطَعَامٍ صَنَعَهُ، قَالَ أَنَسٌ: فَذَهَبْتُ مَعَ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، إِلَى ذَلِكَ الطَّعَامِ، فَقَرَّبَ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم خُبْزًا مِنْ شَعِيرٍ، وَمَرَقًا فِيهِ دُبَّاءٌ وَقَدِيدٌ، قَالَ أَنَسٌ: فَرَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يَتَتَبَّعُ الدُّبَّاءَ حَوَالَيِ الْقَصْعَةِ فَلَمْ أَزَلْ أُحِبُّ الدُّبَّاءَ مِنْ يَوْمِئِذٍ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه によると、ある仕立屋がアッラーの使徒 ﷺ を、自分が作った食事に招いた。アナスは言った。私はアッラーの使徒 ﷺ とともにその食事に行った。仕立屋はアッラーの使徒 ﷺ に、大麦のパンと、ひょうたんと干し肉の入ったスープを出した。アナスは言った。**「私は、預言者 ﷺ が鉢のまわりからひょうたんを探しておられるのを見た。それ以来、私はずっとひょうたんが好きである。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← マーリク・イブン・アナス ← イスハーク・イブン・アブドゥッラー・イブン・アビー・タルハ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 161 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5379 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:161

このハディースからの教訓

このハディースは彼の**謙虚さ**を示している。ウンマの指導者が一人の仕立屋の招待に応じ、出されたもの、すなわち大麦のパンとひょうたんの汁を食べられた。彼は貧しい人の招待を断らず、質素な食事を見下すこともなかった。

アナスの言葉にも注目してほしい。**「それ以来、私はずっとひょうたんが好きである。」**アッラーの使徒 ﷺ への愛が、アナスに彼の好むものを好ませたのである。これこそ本当の愛のしるしである。**心は、愛する人が好むものを好むようになる。**

ブハーリーの伝承では、その仕立屋は料理を出すと**自分の仕事に戻った**（『サヒーフ・ブハーリー』5420）。彼は気を悪くされることなく、喜んで食べられた。これは、彼が特別なもてなしを求めず、むしろ働く人を尊重しておられたことを示している。

甘いものと蜂蜜

アーイシャ رضى الله عنها は、彼が好まれた二種類の食べ物を挙げている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 162 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ الدَّوْرَقِيُّ، وَسَلَمَةُ بْنُ شَبِيبٍ، وَمَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالُوا: حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُحِبُّ الْحَلْوَاءَ وَالْعَسَلَ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。**「預言者 ﷺ は甘いものと蜂蜜を好まれた。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・イブラーヒーム・ダウラキー と サラマ・イブン・シャビーブ と マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父）← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 162 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5431 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正）— ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:162

このハディースからの教訓

蜂蜜はクルアーンの中で癒しとして述べられている。**「それには人間を癒すものがある」**（蜜蜂章 16:69）— タフスィール・イブン・カスィール 16:69。

ここでの**ハルワーゥ**（甘いもの）とは、乳や粉を混ぜたナツメヤシの実など、甘い食べ物全般を指す。学者たちは、甘いものを好むことは人間の**本性（フィトラ）**であり、彼はそれを否定されなかったと述べている。禁じられているのは、自分を害するほどの行き過ぎである。

砂糖のとりすぎがさまざまな病気の原因となっている今日、彼のスンナは**バランス**を教えている。甘いものを、特に蜂蜜やナツメヤシの実のような自然のものから、度を越さずに適度に楽しむことである。

蜂蜜は、ミツバチが多くの花から集めた蜜からアッラーが作り出される恵みである。一さじの蜂蜜の背後には、無数の花と、休みなく働くミツバチの営みがある。甘いものを口にするとき、その恵みの大きさを思い、アッラーに感謝したい。

学者たちは、甘いものを好まれたというこのハディースから、**良いものを楽しむことはスンナに反しない**と述べている。アッラーは合法な良いものを私たちのために創られた。それを感謝とともに味わい、度を越さないことが、信仰者の姿勢である。

ナツメヤシの実と蜂蜜は、今日でも多くのムスリムの家庭で大切にされている。ラマダーンにはナツメヤシの実で断食を解き、病気のときには蜂蜜を口にする。こうした習慣の中にも、アッラーの使徒 ﷺ の好まれたものを愛する心が生きているのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

焼いた肉

肉は彼の毎日の食べ物ではなかったが、手に入ったときには喜んで食べられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 165 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مِسْعَرٌ، عَنْ أَبِي صَخْرَةَ جَامِعِ بْنِ شَدَّادٍ، عَنِ الْمُغِيرَةِ بْنِ عَبْدِ اللهِ، عَنِ الْمُغِيرَةِ بْنِ شُعْبَةَ، قَالَ: ضِفْتُ مَعَ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم ذَاتَ لَيْلَةٍ، فَأُتِيَ بِجَنْبٍ مَشْوِيٍّ، ثُمَّ أَخَذَ الشَّفْرَةَ فَجَعَلَ يَحُزُّ، فَحَزَّ لِي بِهَا مِنْهُ، قَالَ: فَجَاءَ بِلاَلٌ يُؤْذِنُهُ بِالصَّلاَةِ فَأَلْقَى الشَّفْرَةَ، فَقَالَ: مَا لَهُ تَرِبَتْ يَدَاهُ؟، قَالَ: وَكَانَ شَارِبُهُ قَدْ وَفَى، فَقَالَ لَهُ: أَقُصُّهُ لَكَ عَلَى سِوَاكٍ أَوْ قُصَّهُ عَلَى سِوَاكٍ.

日本語訳：

ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه は言った。ある夜、私はアッラーの使徒 ﷺ とともに客となった。焼いたあばら肉が運ばれてくると、彼はナイフを取って切り分け始め、私のためにも切ってくださった。**するとビラールが礼拝の時を告げに来たので、彼はナイフを置かれ、**「彼はどうしたのか。その手が土にまみれますように」と言われた。また、ビラールの口ひげが伸びていたので、彼は「私がミスワークに当てて切ってあげよう」、あるいは「ミスワークに当てて切りなさい」と言われた。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← ワキーウ ← ミスアル・イブン・キダーム ← アブー・サフラ・ジャーミウ・イブン・シャッダード ← ムギーラ・イブン・アブドゥッラー ← ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 165 番に収録。『スナン・アビー・ダーウード』第 188 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。シャイフ・アルバーニーは『スナン・アビー・ダーウード』でサヒーフと判定した。

ソース：sunnah.com/shamail:165

このハディースからの教訓

このハディースにはいくつもの教えがある。**第一に**、彼は自分で肉を切り、ムギーラのためにも切り分けて**客をもてなされた**。**第二に**、礼拝の呼びかけがあると、彼はすぐにナイフを置いて礼拝の支度をされた。ブハーリーの伝承では、彼はその後ウドゥーをし直さずに礼拝されている（『サヒーフ・ブハーリー』5408）。

第三に、彼はビラールの身なりに目を留め、口ひげを切るよう言われた。教友たちの**清潔さと身だしなみ**を気にかけておられたしるしである。「その手が土にまみれますように（タリバト・ヤダーフ）」というのはアラブ人のよく使う言い回しであり、本当に悪いことを願う言葉ではない。

アブー・フライラ رضى الله عنه は、彼のもとに肉が運ばれ、**前脚（ズィラーゥ）**の部分が差し出されると、彼はそれを好まれ、かじって食べられたと述べている（『シャマーイル』166）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』3340 にもある。アブドゥッラー・イブン・ジャアファルは、彼の言葉を伝えている。「最も良い肉は背中の肉である」（『シャマーイル』170）— 伝承経路はハサン。

> **注：前脚についての伝承（『シャマーイル』167〜169）**
>
> 彼が前脚を通して毒を盛られたというイブン・マスウードの伝承（第 167 番）と、前脚は彼の最も好きな肉ではなかったが、肉を得ることがまれであったので、早く煮える前脚を急いで食べられたというアーイシャの伝承（第 169 番）は、どちらも**伝承経路が弱い**。アブー・ウバイドの伝承（第 168 番）は伝承経路は弱いが、ほかの経路によってハディースは**ハサン**である。ハイバルで彼が毒を盛られた出来事そのものは、サヒーフな伝承で確立している。
>
> **出典：**
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 167〜169 番。 sunnah.com/shamail:167

鶏肉と鳥

ザフダム・ジャルミーは、彼らが**アブー・ムーサー・アシュアリー** رضى الله عنه のもとにいたとき、鶏肉が出されたと語っている。ある男は、鶏が汚物を食べるのを見たことがあったので食べるのを断り、それを食べないと誓っていた。アブー・ムーサ

ーは言った。**「近くに来なさい。私はアッラーの使徒 ﷺ が鶏肉を食べておられるのを見たのだから」**（『シャマーイル』153）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5517 にもある。

この話は、感情だけを理由に**アッラーが許されたものを禁じてはならない**ことを教えている。鶏肉は合法である。鶏が汚物を食べたことがある場合について、学者たちは**ジャッラーラ**（食べ物の大部分が汚物である動物）の規定を論じているが、ふつうの鶏は食べてよい。別の伝承では、その男はバヌー・タイミッラーの出身であり、アブー・ムーサーはそれでも彼を近くに呼んで食べるよう勧めたと述べられている（『シャマーイル』155）— 伝承経路はサヒーフ。

注：ノガンの肉（『シャマーイル』154）

アッラーの使徒 ﷺ の奉仕者であったサフィーナは、彼とともにノガン（フバーラ）の肉を食べたと伝えた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。それでも、良い鳥は一般に食べてよいとされている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 154 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:154

サリードとアーイシャの優れよう

サリードとは、ちぎったパンを肉の汁に浸したもので、腹を満たし、柔らかく、栄養があるため、アラブ人に最も重んじられた食べ物であった。アッラーの使徒 ﷺ はそれをたとえに用いられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 173 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، قَالَ: حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ مُرَّةَ، عَنْ مُرَّةَ الْهَمْدَانِيِّ، عَنْ أَبِي مُوسَى الأَشْعَرِيِّ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: فَضْلُ عَائِشَةَ عَلَى النِّسَاءِ كَفَضْلِ الثَّرِيدِ عَلَى سَائِرِ الطَّعَامِ.

日本語訳：

アブー・ムーサー・アシュアリー رضى الله عنه によると、預言者 ﷺ は言われた。「**女性たちに対するアーイシャの優れようは、他のあらゆる食べ物に対するサリードの優れようのようである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ムサンナー ← ムハンマド・イブン・ジャアファル ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アムル・イブン・ムッラ ← ムッラ・ハムダーニー ← アブー・ムーサー・アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 173 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3411 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:173

このハディースからの教訓

このたとえはとても美しい。サリードが**パンと肉の良さ**をあわせ持つように、アーイシャも多くの美点、すなわち知識、理解力、聡明さ、そして最も愛された妻という立場をあわせ持っていた。彼女は二千以上のハディースを伝え、宗教の知識において教友たちが頼りにする人であった。

アナス رضى الله عنه も同じ言葉を伝えている（『シャマーイル』174）— 伝承経路はサヒーフ。ブハーリーの伝承では、この言葉の前に次の言葉がある。「多くの男性が完全さに達したが、女性で完全さに達したのは、ファラオの妻アースィヤと、イムラーンの娘マルヤムだけである」（『サヒーフ・ブハーリー』3411）。

このハディースはまた、アッラーの使徒 ﷺ が聞き手の暮らしに身近な**たとえを用いて教えられた**ことを示している。アラブ人が最も重んじた食べ物を取り上げて、一人の女性の優れた点を説明された。わかりやすく、覚えやすい方法である。

食事と婚礼の宴

この章のいくつかの伝承は、彼の**食事と婚礼の宴（ワリーマ）**について語っている。アナス رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、サフィーヤのためにナツメヤ**

シの実とサウィーク（煎った大麦の粉）で婚礼の宴を開かれた」（『シャマーイル』176）— サヒーフ。一国の指導者の婚礼の宴は、ごく質素な食事だったのである。

ジャービル رضى الله عنه は、彼がアンサールの一人の女性を訪ねると、彼女は彼のために羊を一頭屠ったと語っている。彼はそれを食べ、それから新鮮なナツメヤシの実の皿が出され、それも食べられた。それからズフルの礼拝のためにウドゥーをして礼拝し、その後また羊の残りを食べ、**ウドゥーをし直さずに**アスルの礼拝をされた（『シャマーイル』179）— サヒーフ。

アナス رضى الله عنه はまた、彼が**器の底に残ったもの**を好まれたと述べている（『シャマーイル』183）— サヒーフ。これは無駄にしないというスンナと一致している。彼は器に食べ残しを置いたままにせず、食べきられたのである。アブー・フライラは、彼が乾燥チーズ（アキト）を食べた後にウドゥーをされ、その後羊の肩肉を食べ、ウドゥーをせずに礼拝されるのを見た（『シャマーイル』175）— 伝承経路はサヒーフ。学者たちは、火で調理したものを食べた後にウドゥーをする義務は廃止されたと説明している。

注：食事についての弱い伝承（『シャマーイル』177〜178）

彼が好まれた料理についてのサルマーの伝承（第 177 番）と、彼が「まるで彼らは私たちが肉を好むことを知っていたかのようだ」と言われたというジャービルの伝承（第 178 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 177〜178 番。 sunnah.com/shamail:177

「では私は断食しよう」

ある美しい伝承は、**食べ物のない家**に彼がどう向き合われたかを示している。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 181 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلَانَ، قَالَ: حَدَّثَنَا بِشْرُ بْنُ السَّرِيِّ، عَنْ سُفْيَانَ، عَنْ طَلْحَةَ بْنِ يَحْيَى، عَنْ عَائِشَةَ بِنْتِ طَلْحَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، أُمِّ الْمُؤْمِنِينَ، قَالَتْ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم

يَأْتِينِي فَيَقُولُ: أَعِنْدَكِ غَدَاءٌ؟ فَأَقُولُ: لا قَالَتْ: فَيَقُولُ: إِنِّي صَائِمٌ قَالَتْ: فَأَتَانِي يَوْمًا، فَقُلْتُ: يَا رَسُولَ اللهِ، إِنَّهُ أُهْدِيَتْ لَنَا هَدِيَّةٌ، قَالَ: وَمَا هِيَ؟ قُلْتُ: حَيْسٌ، قَالَ: أَمَا إِنِّي أَصْبَحْتُ صَائِمًا، قَالَتْ: ثُمَّ أَكَلَ.

日本語訳：

信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها は言った。預言者 ﷺ は私のところに来て、「昼の食べ物はあるか」と尋ねられた。私が「ありません」と言うと、彼は「**では私は断食しよう**」と言われた。ある日、彼が来られたとき、私は言った。「アッラーの使徒よ、贈り物をいただきました。」彼は「それは何か」と尋ねられた。私は「ハイス（ナツメヤシの実、ギー、乾燥チーズを混ぜたもの）です」と答えた。彼は「私は今朝、断食を始めていたのだが」と言われ、それから召し上がった。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← ビシュル・イブン・サリー ← スフヤーン・サウリー ← タルハ・イブン・ヤフヤー ← アーイシャ・ビント・タルハ ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 181 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 1154 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:181

このハディースからの教訓

食べ物がないとき、彼は**怒ることも不平を言うこともなかった**。それを崇拝の機会とし、任意の断食を意図されたのである。これこそ信仰者の態度である。どのような状況も、アッラーに近づく道となる。

このハディースは**法学上の根拠**でもある。夜明けから何も食べていなければ、朝のうちに任意の断食を意図することができ、また任意の断食をしている人は、贈り物を受けるなど、必要や良い理由があれば断食を解いてよい。これが任意の崇拝における容易さである。

また、彼が**妻に**「何か食べ物はあるか」と穏やかに**尋ねられた**習慣にも注目してほしい。要求することも責めることもなかった。彼は妻に負担をかけず、家の状態を満足して受け入れられた。これは家庭における夫にとって大きな教えである。

第 26 章：ウドゥーと食事

第 26 章は**食事のときのウドゥー**について述べている。イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がトイレから出て来られると、食事が出されたと語った。彼らは「ウドゥーの水をお持ちしましょうか」と尋ねた。彼は言われた。**「私がウドゥーを命じられているのは、礼拝に立とうとするときだけである」**（『シャマーイル』184）— 伝承経路はサヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』1847 と『サヒーフ・ムスリム』374 にもある。

別の伝承で彼は言われた。「私は礼拝しようとしているのか。ウドゥーをしなければならないほどに」（『シャマーイル』185）— 伝承経路はサヒーフ。このハディースは、食事の前のウドゥーは**義務ではない**ことを示している。しかし、食事の前後に手を洗うことは、清潔のための良い作法であることに変わりはない。

注：律法の書にある食事の祝福（『シャマーイル』186）

サルマーンは、律法の書（タウラート）で、食事の祝福はその後に（手を）洗うことだと読んだと言った。すると彼は言われた。「食事の祝福は、その前に洗うことと、その後に洗うことである。」その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。ここでのウドゥーとは手を洗うことであり、礼拝のためのウドゥーではない。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 186 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:186

第 27 章：食事の前のビスミッラー

第 27 章は**食事の前後の彼の言葉**を集めている。最もよく知られた伝承は、一人の子どもへの彼の助言である。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 189 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ الصَّبَّاحِ الْهَاشِمِيُّ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الأَعْلَى، عَنْ مَعْمَرٍ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عُمَرَ بْنِ أَبِي سَلَمَةَ، أَنَّهُ دَخَلَ عَلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، وَعِنْدَهُ طَعَامٌ، فَقَالَ: ادْنُ يَا بُنَيَّ، فَسَمِّ اللَّهَ تَعَالَى، وَكُلْ بِيَمِينِكَ، وَكُلْ مِمَّا يَلِيكَ.

日本語訳：

ウマル・イブン・アビー・サラマ رضى الله عنه は、食事を前にしておられるアッラーの使徒 ﷺ のもとに入った。すると彼は言われた。「**近くに来なさい、わが子よ。至高なるアッラーの御名を唱え、右手で食べ、自分の前にあるものから食べなさい。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブドゥッラー・イブン・サッバーフ・ハーシミー ← アブドゥルアアラー ← マアマル・イブン・ラーシド ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父） ← ウマル・イブン・アビー・サラマ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 189 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5376 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:189

このハディースからの教訓

ウマル・イブン・アビー・サラマは彼の継子で、ウンム・サラマの息子である。ブハーリーの伝承で彼はこう言っている。「私はアッラーの使徒 ﷺ のもとで育てられている少年で、**私の手は皿の中をあちこち動き回っていた**」（『サヒーフ・ブハーリー』5376）。彼は「わが子よ」と優しく注意し、**三つの作法**を教えられた。アッラーの御名を唱えること、右手で食べること、そして自分の近くのものを食べることである。

食事の初めにアッラーの御名を唱えるのを忘れたときについて、彼はこう教えられた。「**ビスミッラーヒ・アウワラフー・ワ・アーヒラフー**（その初めにも終わりに

もアッラーの御名において）と言いなさい」（『シャマーイル』188）— 伝承経路はサヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』1858 にもある。

アーイシャ رضى الله عنها は、彼が六人の教友と食事をしておられたとき、一人のベドウィンが来て、その食事を二口で食べてしまったと語っている。彼は言われた。「**もし彼がアッラーの御名を唱えていたなら、それはあなたがた全員に足りたであろう**」（『シャマーイル』192）— 伝承経路はサヒーフ。**ビスミッラー**は、少ない食べ物を多くの人に足りるものにする祝福をもたらすのである。

食後の祈り

食事を終えると、アッラーの使徒 ﷺ は**アッラーを称えられた**。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 191 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا ثَوْرُ بْنُ يَزِيدَ، عَنْ خَالِدِ بْنِ مَعْدَانَ، عَنْ أَبِي أُمَامَةَ، قَالَ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم إِذَا رُفِعَتِ الْمَائِدَةُ مِنْ بَيْنِ يَدَيْهِ، يَقُولُ: الْحَمْدُ لِلَّهِ حَمْدًا كَثِيرًا طَيِّبًا مُبَارَكًا فِيهِ، غَيْرَ مُوَدَّعٍ، وَلَا مُسْتَغْنًى عَنْهُ رَبَّنَا.

日本語訳：

アブー・ウマーマ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は、目の前から食事が下げられると、こう言われた。「**アル＝ハムドゥ・リッラーヒ・ハムダン・カスィーラン・タイイバン・ムバーラカン・フィーヒ、ガイラ・ムワッダイン・ワラー・ムスタグナン・アンフ・ラッバナー。**」（アッラーにすべての称賛あれ。多く、良く、祝福に満ちた称賛を。それは別れを告げられることのない称賛であり、私たちが決して不要とすることのない称賛です、われらの主よ。）

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ヤフヤー・イブン・サイード・カッターン ← サウル・イブン・ヤズィード ← ハーリド・イブン・マアダーン ← アブー・ウマーマ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 191 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5458 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:191

このハディースからの教訓

この祈りには深い意味がある。その称賛は「**別れを告げられることのない**」ものである。私たちはアッラーの恵みに別れを告げない。これからもそれを必要とし続けるからである。そして「**決して不要とすることのない**」もの。私たちは次の糧についても、常にアッラーに頼っているのである。

この祈りは**しもべとしての自覚**を教えている。食べ終えるたびに、信仰者はその食べ物がアッラーから来たこと、そしてこれからもかれを必要とし続けることを認める。それは心を高慢と自己満足から守ってくれる。

注：「私たちに食べさせ、飲ませてくださった方」（『シャマーイル』190）

アブー・サイード・フドリーは次の祈りを伝えた。「私たちに食べさせ、飲ませ、私たちをムスリムとしてくださったアッラーに称賛あれ。」その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかしその意味は良く、食後にアッラーを称えることはサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 190 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:190

アッラーは称賛を喜ばれる

この章は、大きな希望を与えてくれる一つのハディースで締めくくられている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 193 番

حَدَّثَنَا هَنَّادٌ، وَمَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالاَ: حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ زَكَرِيَّا بْنِ أَبِي زَائِدَةَ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: إِنَّ اللَّهَ لَيَرْضَى عَنِ الْعَبْدِ أَنْ يَأْكُلَ الأَكْلَةَ، أَوْ يَشْرَبَ الشَّرْبَةَ فَيَحْمَدَهُ عَلَيْهَا.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**アッラーは、一口食べてそのことで彼を称え、一口飲んでそのことで彼を称えるしもべを、まことに喜ばれる。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハンナード・イブン・サリー と マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ウサーマ ← ザカリーヤー・イブン・アビー・ザーイダ ← サイード・イブン・アビー・ブルダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 193 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2734 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:193

このハディースからの教訓

考えてみてほしい。すべての信仰者が最も求めるもの、すなわち**アッラーのご満悦**が、ごく簡単な行いによって得られるのである。一口食べ、あるいは一口飲み、そして「**アル＝ハムドゥ・リッラー**」と言うこと。多くの財も、労力も、時間もいらない。

このハディースは**食べ物の見方**を変えてくれる。食べ物は腹を満たすだけのものではなく、感謝する機会である。朝食も、昼食も、夕食も、一口の水でさえも、アッラーが私たちに満足してくださる理由になりうる。

子どもたちに、食事の前には「**ビスミッラー**」、後には「**アル＝ハムドゥ・リッラー**」と言うよう教えよう。幼いころから身につけたこの二つの軽い言葉は、一生を通じてアッラーのご満悦をもたらす習慣となる。

学者たちは、称賛の言葉には**さまざまな形**があると述べている。短く「アル＝ハムドゥ・リッラー」と言うこともでき、上で見た食後の祈りのように長く称えることもできる。大切なのは、言葉だけでなく、心から感謝することである。

第 28 章：その杯

第 28 章は彼の**杯**について述べている。サービトは、アナスが彼らに**鉄で継ぎ当てをした厚い木の杯**を取り出して見せ、「サービトよ、これがアッラーの使徒 ﷺ の杯だ」と言ったと語っている（『シャマーイル』194）— 伝承経路はハサン。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 195 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ: أَنْبَأَنَا عَمْرُو بْنُ عَاصِمٍ، قَالَ: أَنْبَأَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، قَالَ: أَنْبَأَنَا حُمَيْدٌ، وَثَابِتٌ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ: لَقَدْ سَقَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، بِهَذَا الْقَدَحِ الشَّرَابَ كُلَّهُ، الْمَاءَ، وَالنَّبِيذَ، وَالْعَسَلَ، وَاللَّبَنَ.

日本語訳：

アナス رضى الله عنه は言った。「**私はこの杯（カダフ）で、アッラーの使徒 ﷺ にあらゆる飲み物を差し上げた。水、ナビーズ（ナツメヤシの実を浸した飲み物）、蜂蜜、そして乳である。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブドゥッラー・イブン・アブドゥッラフマーン・ダーリミー ← アムル・イブン・アースィム ← ハンマード・イブン・サラマ ← フマイド・タウィール と サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 195 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2008 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:195

このハディースからの教訓

彼の杯は**木でできていた**。金や銀ではない。アッラーの使徒 ﷺ は金や銀の器で飲むことを禁じられた。それはこの世では不信仰者のためのものであり、来世では信仰者のためのものだからである。この質素な杯が、水、ナビーズ、蜂蜜、乳と、あらゆる飲み物に使われたのである。

ナビーズとは、ナツメヤシの実や干しぶどうを水に浸して甘みをつけたもので、酸っぱくなったり酔わせるものになったりする前に飲まれた。栄養があり、さわやかな飲み物である。アナスはその杯を、彼の形見として心をこめて大切にしていた。

今日、私たちの家には、さまざまな形や素材のコップや器がある。しかし大切なのは器の値段ではなく、何を飲み、どのように飲み、そのあとにアッラーを称えるかどうかである。アッラーの使徒 ﷺ の木の杯は、そのことを静かに教えてくれる。

第 29 章：果物

第 29 章は彼が食べられた**果物**について述べている。アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**預言者 ﷺ はスイカを新鮮なナツメヤシの実と一緒に食べておられた**」（『シャマーイル』197）— サヒーフ。アブー・ダーウードの伝承では、彼はこう説明しておられる。「こちらの熱をあちらの冷たさで和らげ、あちらの冷たさをこちらの熱で和らげるのである」（『スナン・アビー・ダーウード』3836）— ハサン。

アブドゥッラー・イブン・ジャアファル رضى الله عنهما は言った。「**預言者 ﷺ はキュウリを新鮮なナツメヤシの実と一緒に食べておられた**」（『シャマーイル』196）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5440 にもある。こうした組み合わせは、食べ物のバランスをとる**彼の知恵**を示している。甘く「熱い」ナツメヤシの実を、体を冷やしみずみずしいキュウリやスイカで釣り合わせたのである。

> **注：バハレーンからのキュウリと装身具（『シャマーイル』201〜202）**
>
> ルバイイウ・ビント・ムアウウィズは、新鮮なナツメヤシの実とキュウリを盛った盆を彼のもとに持って行くと、彼はバハレーンから届いた装身具をひとつかみ彼女に与えられたと語った。ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらの伝承も**伝承経路が弱い**。

彼がキュウリをナツメヤシの実と一緒に食べられたことは、上のアブドゥッラー・イブン・ジャアファルの伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 201〜202 番。 sunnah.com/shamail:201

現代の栄養学も、食事に果物や野菜の**多様さ**を取り入れることを勧めている。ナツメヤシの実はエネルギーと食物繊維に富み、キュウリやスイカは水分に富む。彼が選ばれた組み合わせは、アラビアの暑い気候に合ったものであった。

初物の祈り

その季節の最初の果物が運ばれてくると、彼はすぐにはそれを食べられなかった。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 200 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ مَالِكِ بْنِ أَنَسٍ (ح) وَحَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، عَنْ سُهَيْلِ بْنِ أَبِي صَالِحٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ: كَانَ النَّاسُ إِذَا رَأَوْا أَوَّلَ الثَّمَرِ جَاءُوا بِهِ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، فَإِذَا أَخَذَهُ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: اللَّهُمَّ بَارِكْ لَنَا فِي ثِمَارِنَا، وَبَارِكْ لَنَا فِي مَدِينَتِنَا، وَبَارِكْ لَنَا فِي صَاعِنَا وَفِي مُدِّنَا، اللَّهُمَّ إِنَّ إِبْرَاهِيمَ عَبْدُكَ وَخَلِيلُكَ وَنَبِيُّكَ، وَإِنِّي عَبْدُكَ وَنَبِيُّكَ، وَإِنَّهُ دَعَاكَ لِمَكَّةَ، وَإِنِّي أَدْعُوكَ لِلْمَدِينَةِ، بِمِثْلِ مَا دَعَاكَ بِهِ لِمَكَّةَ وَمِثْلِهِ مَعَهُ، قَالَ: ثُمَّ يَدْعُو أَصْغَرَ وَلِيدٍ يَرَاهُ، فَيُعْطِيهِ ذَلِكَ الثَّمَرَ.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。人々は（その季節の）最初の果実を見ると、それをアッラーの使徒 ﷺ のもとに持って来た。彼はそれを受け取ると、こう祈られた。**「アッラーよ、私たちの果実に祝福を与えてください。私たちの町に祝福を与えてください。私たちのサーウとムッドに祝福を与えてください。**アッラーよ、イブラーヒームはあなたのしもべであり、あなたの親友であり、あなたの預言者です。そして私はあなたのしもべであり、あなたの預言者です。彼はマッカのためにあなたに祈りました。私

はマディーナのために、彼がマッカのために祈ったのと同じもの、そしてそれと同じだけをさらに祈ります。」**それから彼は、目に入った最も幼い子どもを呼び、その果実を与えられた。**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード。別の経路では イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← いずれも マーリク・イブン・アナス ← スハイル・イブン・アビー・サーリフ ← アブー・サーリフ（その父） ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 200 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 1373 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:200

このハディースからの教訓

このハディースには**二つの美しさ**がある。第一に、彼はマディーナのために、その果実、その町、その升目に**祝福を祈られた**。イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がマッカのために祈ったようにである。今日に至るまで、マディーナのナツメヤシの実はその祝福で知られている。

第二に、彼は**その初物を最も幼い子どもに与えられた**。初物は最も待ち望まれるものであるのに、それを自分のためにとっておかれなかった。これは**子どもたちへの彼の愛情**と、他の人を優先する姿勢を示している。

親はこのスンナを生かすことができる。新しい果物を買ったら、**小さな子どもたちに先に与え**、祝福を祈ることを教えよう。愛情をもって優先される子どもは、寛大な心をもつ人に育つ。

第 30 章：その飲み物

第 30 章は彼が好まれた**飲み物**について述べている。この章には伝承が二つしかなく、どちらも**伝承経路が弱い**。

注：好まれた飲み物（『シャマーイル』203〜204）

アーイシャは言った。「アッラーの使徒 ﷺ が最も好まれた飲み物は、**甘く冷たい水**であった」（第 203 番）。イブン・アッバースは、彼とハーリド・イブン・ワリードがアッラーの使徒 ﷺ とともにマイムーナのもとに入ると、乳が出されたと語った。彼は飲み、それから右側にいたイブン・アッバースに、自分の番をハーリドに譲るかどうか尋ねられた。イブン・アッバースは言った。「あなたの飲み残しについては、誰も優先させません。」それから彼は乳を飲むときの祈りを教えられた（第 204 番）。

ズバイル・アリー・ザイーは、どちらの伝承経路も**ダイーフ**と判定した。しかし、飲み物を出すときに**右側の人から先にする**作法は『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』で確立しており、乳を飲むときの祈りはアブー・ダーウードとティルミズィーが伝え、一部の学者がハサンと判定している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 203〜204 番 — 伝承経路は弱い。 sunnah.com/shamail:203

この章の伝承は弱いが、その意味は人間の本性に近い。冷たく甘い水は、特に暑い土地では大きな恵みである。アッラーの使徒 ﷺ はまた、審判の日に人が最初に問われる恵みはこれであると言われた。「われはあなたの体を健やかにし、冷たい水を飲ませたではないか」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3358）— サヒーフ。

第 31 章：その飲み方

本書の最後の章である第 31 章は、**アッラーの使徒 ﷺ の飲み方**を描いている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 209 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، وَيُوسُفُ بْنُ حَمَّادٍ، قَالَا: حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ بْنُ سَعِيدٍ، عَنْ أَبِي عِصَامٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم: كَانَ يَتَنَفَّسُ فِي الْإِنَاءِ ثَلَاثًا إِذَا شَرِبَ، وَيَقُولُ: هُوَ أَمْرَأُ، وَأَرْوَى.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は伝えた。「**預言者 ﷺ は飲むとき、器の（外で）三回息をつかれ、こう言われた。『そのほうが体によく、渇きをよく癒やす。』」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード と ユースフ・イブン・ハンマード ← アブドゥルワーリス・イブン・サイード ← アブー・イサーム ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 209 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2028 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:209

このハディースからの教訓

彼は**三口に分けて**飲まれ、そのあいだごとに器の外で息をされた。ブハーリーの伝承では、彼は**器の中に息を吹き込むこと**を禁じておられる（『サヒーフ・ブハーリー』5630）。したがって「器の中で三度息をした」とは、三回に分けて飲み、息をするときには器を口から離したという意味である。

彼ご自身がその知恵を述べておられる。**「そのほうが体に良く、渇きをよくいやす。」**ゆっくり飲むことは、体が水を吸収する時間を与え、むせるのを防ぎ、一度に飲みすぎることを防ぐ。アナス自身もそれを実践し、預言者がそうしておられたと述べている（『シャマーイル』212）— 伝承経路はサヒーフ。

彼はまた、**右手で飲む**こと（『サヒーフ・ムスリム』2020）と、アッラーの御名で始めることを教えられた。こうした小さな作法を重ねることで、ふだんの飲むという行為が、報いを受ける崇拝となるのである。

注：二度の息継ぎ（『シャマーイル』210）

イブン・アッバースは、彼が飲むときに二度息をされたと伝えた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。確立しているのは、上のサヒーフな伝承にあるとおり三度である。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 210 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:210

立って飲むこと

同じ章には、彼が**立って飲まれた**といういくつかの伝承がある。イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。**「預言者 ﷺ はザムザムの水を立って飲まれた」**（『シャマーイル』205）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』1637 にもある。アムル・イブン・シュアイブは父から、父はその祖父から伝えている。「私はアッラーの使徒 ﷺ が立って飲まれるのも、座って飲まれるのも見た」（『シャマーイル』206）— 伝承経路はハサン。

アリー رضى الله عنه はラハバで簡単なウドゥーをすると、立って飲み、「私はアッラーの使徒 ﷺ がこのようにされるのを見た」と言った（『シャマーイル』208）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5615 にもある。カブシャもまた、彼が吊るされた水袋（キルバ）の口から立って飲まれたので、彼女はその口を切り取って大切に保管したと語っている（『シャマーイル』211）— 伝承経路はハサン。

注：立って飲むことの禁止と許可

『サヒーフ・ムスリム』には、**立って飲むことを禁じる**ハディースがある（『サヒーフ・ムスリム』2026）。学者たちはこれらの証拠を次のように調和させている。その禁止は**マクルーフ・タンズィーフ**（避けるほうが良いもの）であり、彼が立って飲まれたのは**それが許されていることを示すため**、あるいはザムザムのような混雑した場所や吊るされた水袋のような必要があったためである。したがって**座って飲むほうがより良く**、立って飲んでも罪にはならない。

出典：

ナワウィー『シャルフ・サヒーフ・ムスリム』飲み物の書。

教訓と結び

『シャマーイル』の第 23〜31 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**食事と食卓の作法**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
23. 食べ方	三本の指、指をなめる、もたれない
24. パン	大麦のパン、しばしば空腹、食卓はなかった
25. 副菜	酢をほめる、オリーブ油、ひょうたん、食べ物をけなさない
26. ウドゥーと食事	ウドゥーは礼拝のためであり、食事のためではない
27. 食事の言葉	ビスミッラー、右手で食べる、アル＝ハムドゥ・リッラー
28〜30. 杯、果物、飲み物	木の杯、初物は子どもに
31. 飲み方	三口に分ける、座るほうがより良い

私たちへのメッセージ

私たちは食べ物のあふれる時代に生きているが、アッラーの使徒 ﷺ はしばしば空腹のまま夜を過ごされた。私たちが**感謝すること**を忘れず、**無駄にせず**、必要とする人々と常に**分かち合う**ことができますように。すべての食事をビスミッラーで始め、アル＝ハムドゥ・リッラーで終えよう。

話は**第四部**へと続く。その香り、話し方、笑い方、冗談の言い方、詩、夜の語らい、眠り、そして崇拝など、『シャマーイル』の続く章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

付録：食事の作法チェックリスト

本書で取り上げたアッラーの使徒 ﷺ の飲食の作法を、出典とともにまとめた。台所や食事の場所に貼って、家族みんなの心がけとすることができる。

作法	出典
食べる前にビスミッラーと唱える	『サヒーフ・ブハーリー』5376
忘れたときは「ビスミッラーヒ・アウワラフー・ワ・アーヒラフー」	『ジャーミウ・ティルミズィー』1858
右手で食べ、右手で飲む	『サヒーフ・ムスリム』2020
自分の近くのものを食べる	『サヒーフ・ブハーリー』5376
もたれて食べない	『シャマーイル』138
三本の指で食べ、食後に指をなめる	『シャマーイル』140
落ちた一口は汚れを取って食べる	『サヒーフ・ムスリム』2034
食べ物をけなさない	『サヒーフ・ブハーリー』5409
腹を満たしすぎない（三分の一ずつ）	『ジャーミウ・ティルミズィー』2380
食べたあと、飲んだあとにアッラーを称える	『シャマーイル』193
三口に分けて飲み、器の中に息をしない	『サヒーフ・ブハーリー』5630
座って飲む（より良い）	『サヒーフ・ムスリム』2026
初物は子どもに与える	『シャマーイル』200

まず二つか三つの作法から始め、習慣になるまで続け、それから次のものを加えていこう。小さくても続けられるスンナは、大きくても途絶えてしまう行いよりも、アッラーに愛される。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第三部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（雌牛章 2:172、蜜蜂章 16:69、御光章 24:35、眉をひそめて章 80:24）。tafsir.app/ibn-katheer/2/172

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 23〜31 章（ハディース第 136〜214 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

ナワウィー『シャルフ・サヒーフ・ムスリム』飲み物の書。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1637、3340、3411、5376、5408、5409、5413、5420、5440、5517、5615、5630、6459。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』374、1055、2020、2026、2033、2034、2044。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』1847、1858、2380、3358、『スナン・アビー・ダーウード』3836。sunnah.com

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

Wikipedia, “Tharid”. en.wikipedia.org/wiki/Tharid

Wikipedia, “Nabidh”. en.wikipedia.org/wiki/Nabidh

第四部

その笑いはほほえみ

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 32〜40 章

香り、話し方、笑い、冗談、詩、夜の語らい、ウンム・ザルウのハディース、眠り、崇拝

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

その笑いはほほえみ

これまでの三部では、アッラーの使徒 ﷺ のお姿、衣服、そして食卓を知った。この第四部は、私たちをさらに**彼の人柄**へと近づける。その香り、話し方、笑い方と冗談、詩への態度、夜に語られた話、眠り、そして崇拝である。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』第 32 章から第 40 章に従う。

これらの章には **66 の伝承**が含まれている。彼の崇拝についての第 40 章だけで 25 の伝承がある。第 38 章にはハディースが一つしかないが、それはこの書物の中でも最も長いものの一つで、夫について語り合った**十一人の女性**の物語である。これまでと同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

そこに浮かび上がる姿は、とても美しい。**その笑いはほほえみ**であり、冗談を言っても決して偽らず、幼い子どもに小鳥のことを尋ね、両足がはれるまで夜の礼拝に立ち、そしてこう言われた預言者である。「**私は感謝するしもべであってはならないのか。**」

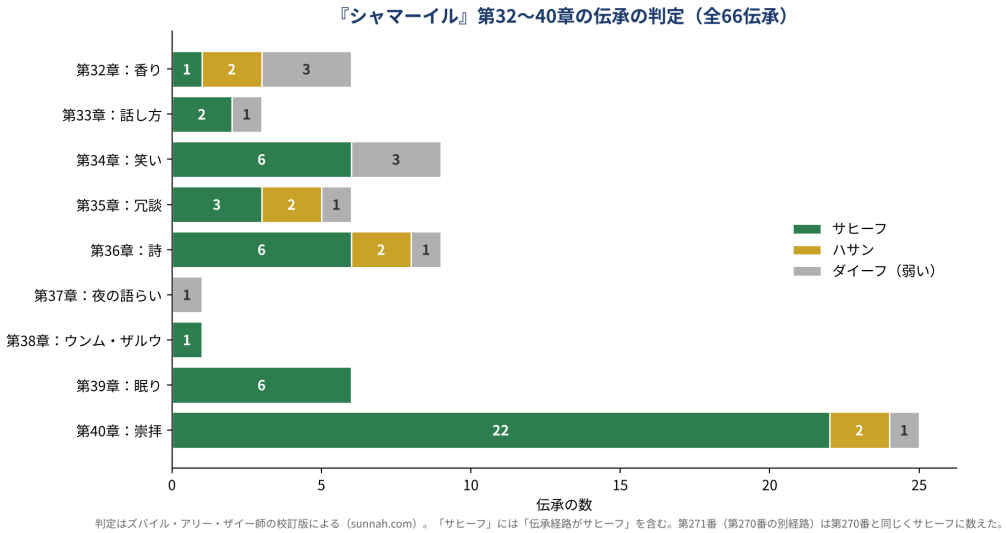


図 4：『シャマーイル』第 32〜40 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。これらの章の 66 の伝承のうち、五分の四以上がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

本書を読み進めるときは、どうか一つ一つの伝承を、遠い昔の物語としてではなく、今日の私たちの暮らしへの招きとして受け取ってほしい。香りをまとうこと、ほほ

えむこと、正直な冗談、家族との語らい、眠る前の祈り、そして夜の二ラクア。どれも今夜から始められるスンナである。

崇高な徳性

彼のほほえみ、言葉、そして崇拝を知る前に、アッラーご自身がご自分の使徒をどのようにほめておられるかを聞いてみよう。

筆章 68:4

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾

本当にあなたは，崇高な徳性を備えている。

日本語訳：三田了一 — quran.com/68:4

このほめ言葉は人間からではなく、アッラーから来ている。イブン・カスィールは、アーイシャがアッラーの使徒 ﷺ の人柄について尋ねられたとき、「**彼の人柄はクルアーンでした**」と答えたことを伝えている。彼はその命令を実践し、その禁止を避け、クルアーンが彼の中に生きているかのようであった（タフスィール・イブン・カスィール 68:4）。

本書の各章は、その人柄を日々の小さなことの中に示してくれる。彼は**香料の贈り物を断らず**、ゆっくりはっきりと話し、教友たちをほほえみで迎え、子どもや貧しい人と冗談を交わし、良い詩を評価し、妻の話を注意深く聞き、そしてアッラーを念じながら眠り、目覚められた。

この崇高な人柄は、**崇拝**に根ざしている。昼の彼のほほえみは、夜の彼のサジダ（平伏）と切り離されたものではなかった。だからこそ、本書の最後の章である崇拝の章は、それまでの章を理解する鍵なのである。アッラーに近い心は、人々に優しさを放つ。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 32 章：その香り

『シャマーイル』の第 32 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の香りについて伝えられたこと**」と題されている。六つの伝承があり、サヒーフが一つ、ハサンが二つ、弱いものが三つである（図 4）。アナス رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ はスッカ（香料の入れ物）を持っておられ、それで香りをまとわれた**」（『シャマーイル』215）— 伝承経路はハサン。『スナン・アビー・ダーウード』4162 にもある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 216 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَزْرَةُ بْنُ ثَابِتٍ، عَنْ ثُمَامَةَ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ، قَالَ: كَانَ أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ، لا يَرُدُّ الطِّيبَ، وَقَالَ أَنَسٌ: إِنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَانَ لا يَرُدُّ الطِّيبَ.

日本語訳：

スマーマ・イブン・アブドゥッラーは言った。アナス・イブン・マーリクは香料を決して断らなかった。そしてアナスは言った。「**預言者 ﷺ は香料を決して断られなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← アズラ・イブン・サービト ← スマーマ・イブン・アブドゥッラー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 216 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 2582 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:216

このハディースからの教訓

香料は、**持ち運びは軽いが意味の大きい贈り物**である。それを断れば贈った人の心を傷つけかねないが、受け取っても誰の負担にもならない。だから彼は決してそれを断らず、十年にわたって彼に仕えたアナスも、このスンナを自分の生活の中で受け継いだのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

彼はまたこう言われた。**「あなたがたの世界から、女性と香りが私に好ましいものとされ、私の目の安らぎは礼拝の中に置かれた」**（『スナン・ナサーイー』3939）— ハサン。その順序に注目してほしい。香りは彼の好まれたこの世のものとして挙げられているが、彼の**本当の喜び**は礼拝だったのである。

学者たちは、特にモスクへ行くときや人と会うときに香りをまとうことは、ムスリムの**清潔さと身だしなみ**の一部であると述べている。良い香りは天使と人々を喜ばせ、不快なにおいは隣で礼拝する人を困らせかねない。

「断ってはならない三つのもの」

イブン・ウマル رضى الله عنهما は彼の言葉を伝えている。**「三つのものは断ってはならない。クッション、油（香油）、そして乳である」**（『シャマーイル』217）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』2790 にもある。この三つはいずれも、敬意のしるしとして客によく差し出された贈り物であり、それを断ると感謝していないように受け取られかねなかった。

このハディースは**もてなしを受ける作法**を教えている。主人がもたれるためのクッションや、一杯の乳や、香りを差し出したら、喜んで受け取ろう。それは主人を喜ばせ、兄弟愛を深める。今日、このスンナは、ちょっとしたもてなしや小さな贈り物を明るい顔で受け取ることで生かすことができる。

注：香りについての弱い伝承（『シャマーイル』218〜221）

男性の香りは香りがはっきりして色が目立たないもの、女性の香りは色がはっきりして香りが目立たないものだというアブー・フライラの伝承（第 218〜219 番）、天国から来たものだから断ってはならないというバジル（ライハーン）についてのアブー・ウスマーン・ナフディーの伝承（第 220 番）、そしてウマルの前でのジャリールの伝承（第 221 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、いずれも**伝承経路が弱く**、第 221 番は非常に弱い。

しかし第 218 番の意味は、ほかの証拠にもとづいて多くの学者が実践している。女性は、親族でない男性のそばを通って外出するときに強い香りをつけることを禁じられ、男性は良い香りをつけることが勧められている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 218〜221 番。 sunnah.com/shamail:218

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第 33 章：その話し方

第 33 章は**アッラーの使徒 ﷺ の話し方**を描いている。伝承は三つだけの短い章だが、教えに満ちている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 222 番

حَدَّثَنَا حُمَيْدُ بْنُ مَسْعَدَةَ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا حُمَيْدُ بْنُ الأَسْوَدِ، عَنِ أُسَامَةَ بْنِ زَيْدٍ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: مَا كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم يَسْرُدُ سَرْدَكُمْ هَذَا، وَلَكِنَّهُ كَانَ يَتَكَلَّمُ بِكَلامٍ بَيِّنٍ فَصْلٍ، يَحْفَظُهُ مَنْ جَلَسَ إِلَيْهِ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、あなたがたのように言葉を次々とまくし立てて話されることはなかった。そうではなく、はっきりと区切られた言葉で話され、そばに座った人はそれを覚えることができた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：フマイド・イブン・マスアダ・バスリー ← フマイド・イブン・アスワド ← ウサーマ・イブン・ザイド・ライスィー ← ズフリー ← ウルワ・イブン・ズバイル ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 222 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3639 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:222

このハディースからの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は教師であり、良い教師は賢く見せるためではなく、**理解してもらうため**に話す。ブハーリーの伝承でアーイシャは、彼の話し方はとても明瞭で、**数えようと思えばその言葉を数えることができるほどだった**と述べている（『サヒーフ・ブハーリー』3568）。

アナス رضى الله عنه は付け加えた。**「アッラーの使徒 ﷺ は、理解されるように言葉を三度繰り返された」**（『シャマーイル』223）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』95 にもある。この繰り返しは聞き手が遅いからではなく、大切なことは**確実に伝わる**必要があるからである。教師、親、そして宣教する人々は、この方法に倣うことができる。

注：ヒンド・イブン・アビー・ハーラの描写（『シャマーイル』224）

ハサン・イブン・アリーは、母方のおじであるヒンド・イブン・アビー・ハーラに、彼の話し方を描いてほしいと頼んだ。ヒンドは、彼がいつも思いにふけり、長く沈黙し、必要なく話さず、短くても意味の豊かな言葉（ジャワーミウ・ル＝カリム）で話し、小さな恵みでも大切にし、食べ物をけなされなかったと述べた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかしその意味の多くは、ほかのサヒーフな伝承によって支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 224 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:224

第 34 章：その笑い

第 34 章は**アッラーの使徒 ﷺ の笑い**を描いている。本書の題名はこの章から取られている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 227 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ خَالِدٍ الْخَلَالُ، قَالَ: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ إِسْحَاقَ السَّيْلَحَانِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا لَيْثُ بْنُ سَعْدٍ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ أَبِي حَبِيبٍ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ الْحَارِثِ، قَالَ: مَا كَانَ ضَحِكُ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم إِلا تَبَسُّمًا.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・ハーリス رضى الله عنه は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ の笑いは、ほほえみにほかならなかった。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・ハーリド・ハッラール ← ヤフヤー・イブン・イスハーク・サイラハーニー ← ライス・イブン・サアド ← ヤズィード・イブン・アビー・ハビーブ ← アブドゥッラー・イブン・ハーリス・イブン・ジャズウ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 227 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3642 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:227

このハディースからの教訓

彼の笑いは**ほほえみ**であり、大声で笑い転げるものではなかった。それは彼が陰気だったという意味ではない。むしろ彼はいつも明るかったが、その明るさは**落ち着きと威厳**に彩られていた。彼はまたこう言われた。「笑いすぎてはならない。笑いすぎは心を死なせる」（『スナン・イブン・マージャ』4193）— ハサン。

ほほえみはまた**施し**でもある。彼は言われた。「あなたの兄弟の顔に向けるあなたのほほえみは施しである」（『ジャーミウ・ティルミズィー』1956）。それは最も簡単な施しである。財もいらず、疲れることもないが、それを見た人の心を晴れやかにする。

注：ほほえみについての弱い伝承（『シャマーイル』225〜226）

彼のすねは細く、その笑いはほほえみにすぎず、彼を見ると「コホルを塗っていないのに塗っているように見えた」というジャービル・イブン・サムラの伝承（第 225 番）と、「アッラーの使徒 ﷺ ほどよくほほえむ人を私は見たことがない」というアブドゥッラー・イブン・ハーリスの伝承（第 226 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。彼のほほえみの意味は、上のサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 225〜226 番。 sunnah.com/shamail:225

「私を見るといつもほほえまれた」

イエメン出身の教友ジャリール・イブン・アブドゥッラー・バジャリーは、アッラーの使徒 ﷺ に会うたびに決して変わらなかった一つのことを覚えていた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 229 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، قَالَ: حَدَّثَنَا زَائِدَةُ، عَنْ بَيَانٍ، عَنْ قَيْسِ بْنِ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ جَرِيرِ بْنِ عَبْدِ اللهِ، قَالَ: مَا حَجَبَنِي رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم مُنْذُ أَسْلَمْتُ، وَلا رَآنِي إِلا ضَحِكَ.

日本語訳：

ジャリール・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنه は言った。「**私がイスラームに入って以来、アッラーの使徒 ﷺ は私に会うことを拒まれたことがなく、私を見るといつもほほえまれた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← ムアーウィヤ・イブン・アムル ← ザーイダ・イブン・クダーマ ← バヤーン・イブン・ビシュル ← カイス・イブン・アビー・ハーズィム ← ジャリール・イブン・アブドゥッラー・バジャリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 229 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3035 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:229

このハディースからの教訓

ジャリールは、彼の生涯の最後の数年にイスラームに入った部族の長であった。それでも彼は一度も入室を拒まれず、**彼を見るたびにほほえまれた**。ジャリールの気持ちを想像してほしい。会うたびに、喜びにあふれた顔で迎えられたのである。これこそ彼が人々の**心をつかまれた**方法であった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ブハーリーの伝承でジャリールは、馬の上にしっかり座れないと訴えると、彼がその胸を打って「アッラーよ、彼をしっかりさせ、正しく導かれた導き手としてください」と祈られたと付け加えている（『サヒーフ・ブハーリー』3035）。彼のほほえみには、**思いやりと祈り**がともなっていたのである。

イマーム・ティルミズィーは同じ伝承を別の経路でも繰り返している（『シャマーイル』230）— サヒーフ。教えははっきりしている。家族、友人、客をほほえみで迎えよう。心からのほほえみは、良い人間関係と実りある宣教の始まりとなりうる。

奥歯が見えるほどの笑い

彼の笑いはふだんはほほえみであったが、**奥歯が見えるほど**笑われたこともあった。興味深いことに、そうした伝承の多くは**アッラーの広大な慈悲**に関わっている。アブー・ザッル رضى الله عنه は、審判の日に連れ出される一人の男についての彼の言葉を伝えている。その男には小さな罪が示され、大きな罪は隠される。彼は恐れながらそのすべてを認めると、こう言われる。「彼の悪い行い一つ一つを善い行いに替えよ。」

すると男は言う。「**私には、ここに見えない罪がまだあります。**」アブー・ザッルは言った。「私はアッラーの使徒 ﷺ が奥歯が見えるほど笑われるのを見た」（『シャマーイル』228）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』190 にもある。さっきまで恐れていた男が、今度は大きな罪まで見せてほしいと願う。それが善い行いに変えられるからである。

イブン・マスウード رضى الله عنه は、**最後に地獄から出る人**の話を伝えている。彼は天国に入るよう言われるが、もういっぱいだと思う。すると「望みを言いなさい」と言われ、望んだものに加えて**この世の十倍**を与えられる。彼は言う。「王であるあなたが、私をからかっておられるのですか。」イブン・マスウードは言った。「私はアッラーの使徒 ﷺ が奥歯が見えるほど笑われるのを見た」（『シャマーイル』231）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』6571 にもある。

注：塹壕の戦いでの笑い（『シャマーイル』233）

盾の陰に隠れていた敵をサアドが射たとき、彼が塹壕の戦いで笑われたというサアド・イブン・アビー・ワッカースの伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 233 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:233

赦しを求めるしもべを喜ばれるアッラー

アリー・イブン・ラビーアは、アリー・イブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه が乗り物に乗るのを見たと語っている。あぶみに足をかけると**ビスミッラー**と唱え、背に落ち着くと**アル＝ハムドゥ・リッラー**と唱え、それから乗り物に乗るときの祈りを唱え、三度アッラーを称え、三度アッラーの偉大さを唱え、そしてこう祈った。「あなたに栄光あれ。私は自分自身に不正を行いました。どうか私をお赦しください。あなた以外に罪を赦す者はいないのですから。」

乗り物に乗るときのこの祈りは、クルアーンから取られている。「**かれを讃えます。これらのものをわたしたちに服従させる御方**」（金の装飾章 43:13）— タフスィール・イブン・カスィール 43:13。

それからアリーは笑った。理由を尋ねられると、アッラーの使徒 ﷺ が同じようにされてから笑われたのを見たと言い、彼はこう言われたと伝えた。「**あなたがたの主は、しもべが『私の罪をお赦しください』と言うのを喜ばれる。かれ以外に罪を赦す者はいないと知っているからである**」（『シャマーイル』232）— サヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』3446 にもある。

ここでの彼の笑いは、アッラーの慈悲を**喜ぶ笑い**である。自分の罪を認め、アッラーだけが赦されると知っているしもべは、本当に主を知っているのである。このハディースはまた**旅の祈り**も教えてくれる。車、バイク、飛行機に乗るたびに唱えよう。

第 35 章：その冗談

第 35 章は**アッラーの使徒 ﷺ の冗談**を描いている。彼は冗談を言われたが、その冗談には決して破られることのない一つの条件があった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 236 番

حَدَّثَنَا عَبَّاسُ بْنُ مُحَمَّدٍ الدُّورِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ الْحَسَنِ بْنِ شَقِيقٍ، قَالَ: أَنبأَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ الْمُبَارِكِ، عَنِ أُسَامَةَ بْنِ زَيْدٍ، عَنْ سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيِّ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ: قَالُوا: يَا رَسُولَ اللهِ، إِنَّكَ تُدَاعِبُنَا، قَالَ: إِنِّي لا أَقُولُ إِلا حَقًّا.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。彼ら（教友たち）は言った。「アッラーの使徒よ、あなたは私たちに冗談をおっしゃいます。」彼は言われた。**「確かに。しかし私は真実しか言わない。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アッバース・イブン・ムハンマド・ドゥーリー ← アリー・イブン・ハサン・イブン・シャキーク ← アブドゥッラー・イブン・ムバーラク ← ウサーマ・イブン・ザイド・ライスィー ← サイード・イブン・アビー・サイード・マクブリー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 236 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1990 番にもある。

判定： 伝承経路はハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:236

このハディースからの教訓

教友たちは少し驚いた。預言者が冗談を言われるのか、と。彼は、自分の冗談には**決して偽りが含まれない**と説明された。これが許される冗談と禁じられた冗談の境目である。彼は言われた。「人を笑わせるために話をして嘘をつく者は災いである」（『ジャーミウ・ティルミズィー』2315）。

アナス رضى الله عنه は、彼がかつて自分を「**二つの耳を持つ者よ**」と呼ばれたと伝えている（『シャマーイル』234）— ハサン。それは本当の冗談である。誰にでも耳は二つあるのだから。しかしそれは、彼に仕える少年への親しみをこめた言葉であった。一部の学者は、それは**よく聞く**アナスへのほめ言葉でもあったと述べている。

真実の冗談には**大きな益**がある。雰囲気を明るくし、関係を深め、指導者に対する人々の恐れを取り除く。しかしそれは、人の心を傷つけたり、侮辱したり、見下したりするものであってはならない。

アブー・ウマイルと小鳥

彼の冗談の中で最も心を打つものの一つは、**幼い子ども**との冗談である。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 235 番

حَدَّثَنَا هَنَّادُ بْنُ السَّرِيِّ، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِي التَّيَّاحِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: إِنْ كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، لَيُخَالِطُنَا حَتَّى يَقُولَ لأَخٍ لِي صَغِيرٍ: يَا أَبَا عُمَيْرٍ، مَا فَعَلَ النُّغَيْرُ؟

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は私たちととても親しく交わられ、私の幼い弟にこう言われるほどであった。『アブー・ウマイルよ、ヌガイル（小鳥）はどうしたかい。』」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハンナード・イブン・サリー ← ワキーウ ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アブー・タイヤーフ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 235 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6129 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:235

このハディースからの教訓

アブー・ウマイルはアナスの弟で、小さな鳥（ヌガイル）を飼っている幼い子どもであった。その鳥が死んで彼が悲しんでいると、アッラーの使徒 ﷺ は**韻を踏んだ**言葉――「ヤー・アバー・ウマイル、マー・ファアラン・ヌガイル」――で話しかけ、彼の心を慰められた。ウンマの指導者が、一人の子どもの悲しみのために時間を割かれたのである。

学者たちはこの短いハディースについて特別な書物を著し、そこから**何十もの教え**を引き出した。子どもをクンヤ（「アブー・何々」）で呼んでよいこと、子どもと冗談を交わしてよいこと、子どもが鳥と遊んでよいこと、そして指導者は民と交わるべきことなどである。

親や祖父母はこのスンナに倣うことができる。**子どもの世界を大切に**しよう。おもちゃ、ペット、そして小さな喜び。大切にされていると感じる子どもは、自信と思いやりのある人に育つ。

アナスの家族にとって、この出来事は忘れられない思い出となった。アッラーの使徒 ﷺ がわが家の幼い子の名を覚え、その小鳥のことまで気にかけてくださったのである。人の心は、大きな贈り物よりも、こうした小さな心づかいによって動かされることが多い。

雌ラクダの子とザーヒル

アナス رضى الله عنه は、ある男が彼に乗り物を求めたと語っている。彼は言われた。「あなたを**雌ラクダの子**に乗せてあげよう。」男は戸惑った。「アッラーの使徒よ、雌ラクダの子をどうしろとおっしゃるのですか。」彼は言われた。**「ラクダを産むのは雌ラクダ以外にあるだろうか。」**（『シャマーイル』237）— 伝承経路はサヒーフ。この冗談はまったくの真実である。大人のラクダも、その母にとっては「子」なのだから。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 238 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْمَرٌ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَجُلًا مِنْ أَهْلِ الْبَادِيَةِ كَانَ اسْمُهُ زَاهِرًا، وَكَانَ يُهْدِي إِلَى النَّبِيِّ صلى

اللهُ عليه وسلم، هَدِيَّةً مِنَ الْبَادِيَةِ، فَيُجَهِّزُهُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، إِذَا أَرَادَ أَنْ يَخْرُجَ، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم: إِنَّ زَاهِرًا بَادِيَتُنَا وَنَحْنُ حَاضِرُوهُ وَكَانَ صلى الله عليه وسلم يُحِبُّهُ وَكَانَ رَجُلا دَمِيمًا، فَأَتَاهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، يَوْمًا وَهُوَ يَبِيعُ مَتَاعَهُ وَاحْتَضَنَهُ مِنْ خَلْفِهِ وَهُوَ لا يُبْصِرُهُ، فَقَالَ: مَنْ هَذَا؟ أَرْسِلْنِي فَالْتَفَتَ فَعَرَفَ النَّبِيُّ صلى اللهُ عليه وسلم فَجَعَلَ لا يَأْلُو مَا أَلْصَقَ ظَهْرَهُ بِصَدْرِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم حِينَ عَرَفَهُ، فَجَعَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، يَقُولُ: مَنْ يَشْتَرِي هَذَا الْعَبْدَ، فَقَالَ: يَا رَسُولَ اللهِ، إِذًا وَاللَّهِ تَجِدُنِي كَاسِدًا، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم: لَكِنْ عِنْدَ اللهِ لَسْتَ بِكَاسِدٍ أَوْ قَالَ: أَنتَ عِنْدَ اللهِ غَالٍ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه によると、砂漠の民にザーヒルという名の男がいて、砂漠から預言者 ﷺ に贈り物を持って来ていた。預言者 ﷺ も、彼が帰ろうとするときには支度を整えてやられた。預言者 ﷺ は言われた。「ザーヒルは私たちの砂漠であり、私たちは彼の町である。」預言者 ﷺ は彼を愛しておられたが、彼は見た目のよくない男であった。ある日、彼が品物を売っていると、預言者 ﷺ がやって来て、彼に見えないように後ろから抱きしめられた。彼は言った。「放してくれ。誰だ。」それから振り返って預言者 ﷺ だとわかると、彼は自分の背中を預言者の胸にぴったりと押しつけ続けた。預言者 ﷺ は言われた。「この奴隷を買う者はいないか。」彼は言った。「アッラーの使徒よ、それではアッラーにかけて、私は売れ残りの品でしょう。」預言者 ﷺ は言われた。「**しかしアッラーのもとでは、あなたは売れ残りではない。**」あるいはこう言われた。「**アッラーのもとで、あなたはとても価値がある。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・マンスール ← アブドゥッラッザーク ← マアマル・イブン・ラーシド ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 238 番に収録。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:238

このハディースからの教訓

ザーヒルは**見た目のよくない**、貧しいベドウィンであった。しかしアッラーの使徒 ﷺ は彼を愛し、市場の真ん中で冗談を言い、後ろから抱きしめられた。ザーヒルが「私は売れ残りの品です」と自分を卑下すると、彼はその心を引き上げられた。**「アッラーのもとで、あなたはとても価値がある。」**

このハディースは、**人の価値は見た目や財産にはない**ことを教えている。彼は社会から見下されていた人を尊び、冗談を彼らの心を喜ばせる手段とされた。ザーヒルは砂漠の産物を贈り物として持って来て、彼は帰りの支度でそれに報いられた。互いに与え合う関係である。

私たちの周りにも、ザーヒルのように、見た目や貧しさのために見過ごされている人がいるかもしれない。市場で働く人、清掃をする人、遠くから訪ねて来る親戚。彼らに名前で呼びかけ、ほほえみ、ときには明るい冗談を交わすことは、アッラーの使徒 ﷺ の人柄に倣うことなのである。

注：老女と天国（『シャマーイル』239）

ハサン・バスリーは、ある老女が彼に天国に入れるよう祈ってほしいと頼んだと伝えている。彼は言われた。「老女は天国に入らない。」彼女が泣きながら去ると、彼は、彼女は老女のままで天国に入るのではない、アッラーは天国の住人を若返らせられるのだから、と説明された（出来事章 56:35〜37）。この伝承はズバイル・アリー・ザイーによれば**ムルサルで、伝承経路が弱い**が、その意味はこれらの節と一致している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 239 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:239

第 36 章：詩

第 36 章は**詩についての彼の言葉**を集めている。アッラーは、アッラーの使徒 ﷺ が詩人であることを否定しておられる。**「われはかれ（ムハンマド）に詩を教えなかっ**

た。それはかれに相応しくない」（ヤー・スィーン章 36:69）— タフスィール・イブン・カスィール 36:69。

しかしそれは、彼がすべての詩を嫌われたという意味ではない。詩は言葉にすぎず、**良いものはほめられ、悪いものはとがめられる**。彼は真実で知恵のある詩をほめられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 241 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ الثَّوْرِيُّ، عَنْ عَبْدِ الْمَلِكِ بْنِ عُمَيْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو سَلَمَةَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: إِنَّ أَصْدَقَ كَلِمَةٍ قَالَهَا الشَّاعِرُ، كَلِمَةُ لَبِيدٍ: أَلَا كُلُّ شَيْءٍ مَا خَلَا اللَّهَ بَاطِلُ، وَكَادَ أُمَيَّةُ بْنُ أَبِي الصَّلْتِ أَنْ يُسْلِمَ.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**詩人が語った最も真実な言葉は、ラビードの言葉である。『まことに、アッラー以外のすべてのものは、はかなく消え去る。』**」そして、ウマイヤ・イブン・アビー・サルトはもう少しでイスラームに入るところであった。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← スフヤーン・サウリー ← アブドゥルマリク・イブン・ウマイル ← アブー・サラマ・イブン・アブドゥッラフマーン ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 241 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3841 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:241

このハディースからの教訓

ラビード・イブン・ラビーアは、ジャーヒリーヤ（イスラーム以前）の時代の有名なアラブの詩人で、のちにイスラームに入った。その詩句「**まことに、アッラー以**

外のすべてのものは、はかなく消え去る」は、タウヒード（唯一神信仰）の真理を言い表している。アッラーだけが永遠であり、ほかのすべては滅びる。別の伝承で彼は、これをアラブ人が語った**最も詩的な言葉**と呼ばれた（『シャマーイル』247）— サヒーフ。

ウマイヤ・イブン・アビー・サルトは、タウヒードと知恵に満ちた詩を詠んだ詩人であったが、**イスラームに入らなかった**。シャリード رضى الله عنه は、預言者の後ろに乗ってウマイヤの詩を百句朗唱したところ、一句ごとに彼は「続けなさい」と言われ、そして「彼はもう少しでイスラームに入るところであった」と言われたと語っている（『シャマーイル』248）— サヒーフ。知識や美しい言葉も、**信仰**がなければ十分ではない。

注：イブン・ラワーハの詩句（『シャマーイル』240）

アーイシャは、彼が詩を引用されたことがあるかと尋ねられ、彼はときにイブン・ラワーハの詩句「あなたが支度をしてやらなかった者が、あなたに知らせを運んで来るだろう」を引用されたと答えた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 240 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:240

戦場の詩句

彼は、詩を作るつもりはなくても、詩のような調子の言葉を口にされることがあった。ジュンドゥブ・イブン・スフヤーン رضى الله عنه は、彼の指が石に当たって血が出たとき、彼がこう言われたと伝えている。「**おまえは血を流した一本の指にすぎないではないか。おまえが受けた傷は、アッラーの道においてである**」（『シャマーイル』242）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』2802 にもある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 244 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ الثَّوْرِيُّ، قَالَ: أَنْبَأَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ بْنِ عَازِبٍ، قَالَ: قَالَ لَهُ رَجُلٌ: أَفَرَرْتُمْ عَنْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم يَا أَبَا عُمَارَةَ؟ فَقَالَ: لا وَاللَّهِ مَا وَلَّى رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، وَلَكِنْ وَلَّى سَرَعَانُ النَّاسِ، تَلَقَّتْهُمْ هَوَازِنُ بِالنَّبْلِ، وَرَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، عَلَى بَغْلَتِهِ، وَأَبُو سُفْيَانَ بْنُ الْحَارِثِ بْنِ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ آخِذٌ بِلِجَامِهَا، وَرَسُولُ اللهِ يَقُولُ: أَنَا النَّبِيُّ لا كَذِبْ أَنَا ابْنُ عَبْدِ الْمُطَّلِبْ.

日本語訳：

バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما に、ある男が尋ねた。「アブー・ウマーラよ、あなたがたは（フナインの戦いで）アッラーの使徒 ﷺ から逃げたのですか。」彼は言った。「いいえ、アッラーにかけて。アッラーの使徒 ﷺ は背を向けられなかった。ただ、急ぎすぎた人々が、ハワーズィン族の矢を浴びて退いたのである。アッラーの使徒 ﷺ は白い雌ラバに乗っておられ、アブー・スフヤーン・イブン・ハーリス・イブン・アブドゥルムッタリブがその手綱を取っていた。アッラーの使徒 ﷺ はこう言っておられた。**『私は預言者である、偽りではない。私はアブドゥルムッタリブの子である。』**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ヤフヤー・イブン・サイード・カッターン ← スフヤーン・サウリー ← アブー・イスハーク・サビーイー ← バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 244 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 2864 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:244

このハディースからの教訓

フナインの戦いはマッカ征服の後に起こった。ムスリムの軍はとても大きく、中には**数の多さを誇る**者もいた。ハワーズィン族の矢による待ち伏せを受けると、多く

が退いた。しかしアッラーの使徒 ﷺ はラバの上で揺るがず、「私は預言者である、偽りではない」と叫びながら、**敵に向かって進まれた**のである。

彼の言葉は調子が整っていたが、それは作られた詩ではなく、とっさに出たものであった。それは彼の並はずれた**勇気**を示している。彼は、敵に自分だとわかるように、恐れることなく自分の名と家系をはっきりと告げられた。この勇気は、アッラーの約束を確信する**完全なタワックル（アッラーへの信頼）**から生まれたものである。

ハッサーン・イブン・サービトとイブン・ラワーハ

詩はまた**イスラームを守る**ためにも用いられた。ウムラ・ル＝カダーゥのとき、アブドゥッラー・イブン・ラワーハは彼の前を歩きながら多神教徒に向けて詩を詠んだ。ウマルは、アッラーの使徒 ﷺ の前で、しかも聖域で詩を詠むのかと彼をとがめたが、彼は言われた。**「ウマルよ、彼を放っておきなさい。それは彼らに矢の雨よりも早く届くのだから」**（『シャマーイル』245）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』2847 にもある。

アーイシャ رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ が**モスクにハッサーン・イブン・サービトのための説教壇**を置かれ、彼はその上に立って詩でアッラーの使徒 ﷺ をたたえ、守ったと言った。彼は言われた。**「ハッサーンがアッラーの使徒 ﷺ を守っている限り、アッラーは聖霊によって彼を支えられる」**（『シャマーイル』249）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』2846 にもある。

ジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنه は言った。「私は百回以上、預言者 ﷺ と同席した。教友たちは互いに詩を詠み合い、ジャーヒリーヤの時代のことを語り合ったが、彼は黙っておられ、**ときには彼らとともにほほえまれた**」（『シャマーイル』246）— サヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』2850 にもある。彼の集まりは堅苦しいものではなく、温かく、しかも節度を保っていた。

教えはこうである。芸術や美しい言葉は、**宣教と真理を守るための道具**となりうる。今日、詩、ナシード、文章、メディアも同じ役割を果たすことができる。その内容が真実であり、アッラーから心をそらすものでない限り。

第 37 章：夜の語らい

第 37 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の夜の語らいについて伝えられたこと**」と題されている。一般に彼は、夜の礼拝やファジュルの礼拝に遅れないよう、**イシャーの礼拝の後に話し込むことを好まれなかった**（『サヒーフ・ブハーリー』568）。しかし、特に家族との良い有益な語らいは許されていた。

> **注：フラーファの話（『シャマーイル』251）**
>
> アーイシャは、彼がある夜、妻たちに一つの話をされると、そのうちの一人が「まるでフラーファの話のようです」と言ったと伝えている。彼は、フラーファとはウズラ族の男で、ジンにさらわれ、戻ってから見てきた不思議を語った人だと説明された。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。「フラーファの話」という言い回しは、のちに驚くべき話のたとえとなった。
>
> **出典：**
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 251 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:251

この伝承は弱いが、この章は次の章のサヒーフでとても美しいハディースへの扉を開いてくれる。アーイシャがアッラーの使徒 ﷺ に語った物語であり、彼はそれを最後まで**注意深く聞かれた**のである。

第 38 章：ウンム・ザルウのハディース

第 38 章にはハディースが一つしかない。**ウンム・ザルウのハディース**である。アーイシャ رضى الله عنها は、**十一人の女性**が集まり、それぞれの夫について何も隠さないと約束したと語っている（『シャマーイル』252）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5189 にもある。女性たちはそれぞれ、韻を踏んだ、たとえに満ちたアラビア語で自分の夫を描いた。

ある夫は、**山の頂にあるやせたラクダの肉**のように描かれた。登るのは難しく、取りに行く価値もない。ある夫は背が高すぎて性格が悪く、妻が話せば離婚され、黙っていれば宙ぶらりんにされる。一方でほめられた夫もいる。**ティハーマの夜のように**、暑くも寒くもなく、恐ろしくも退屈でもない、と。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

十一人目の女性**ウンム・ザルウ**は、夫アブー・ザルウを最も長いほめ言葉で描いた。彼は装身具と食べ物で彼女を大切にし、彼女の家族を敬い、その家は豊かさに満ちていた。しかしある日、アブー・ザルウは彼女を離婚し、別の女性と結婚した。ウンム・ザルウはのちに気前のよい男と結婚したが、こう言った。**その人がくれたものすべてを集めても、アブー・ザルウの最も小さな器にも及ばない**、と。

「私はあなたにとってアブー・ザルウのよう」

アーイシャが話し終えると、アッラーの使徒 ﷺ は彼女に言われた。「**私はあなたにとって、ウンム・ザルウにとってのアブー・ザルウのようである。**」（『シャマーイル』252）。これがこの物語の頂点である。彼は物語の中で最も愛された夫を選び、それによって妻への愛を最も美しい形で表されたのである。

学者たちは、彼がご自身をアブー・ザルウにたとえられたのは**愛情と寛大さ**においてであって、離婚においてではないと述べている。彼は一度もアーイシャを離婚されず、アーイシャは、彼が彼女の腕の中で亡くなられるまで、その妻であり続けた。

このハディースには**夫婦生活の教え**が満ちている。第一に、彼は妻の長い話を飽きることなく**最後まで聞かれた**。第二に、愛をはっきりとした言葉で表された。第三に、この物語は、妻が覚えているのは財産だけではなく、夫の人柄——寛大さ、優しさ、敬意——であることを思い起こさせる。

多くの夫婦が一緒に座っていてもそれぞれの携帯電話に夢中になっている今日、このスンナはとても身近な意味を持つ。配偶者と**話し、耳を傾ける**時間を作り、愛を表すことをためらわないようにしよう。アッラーの使徒 ﷺ ご自身がそうされたのだから。

第 39 章：その眠り

第 39 章は**アッラーの使徒 ﷺ の眠り**を描いている。眠りはアッラーの大きな恵みである。「**また休息のため，あなたがたの睡眠を定め**」（消息章 78:9）— タフスィール・イブン・カスィール 78:9。

> **ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 253 番**

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ يَزِيدَ، عَنِ الْبَرَاءِ بْنِ عَازِبٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، كَانَ إِذَا أَخَذَ مَضْجَعَهُ وَضَعَ كَفَّهُ الْيُمْنَى تَحْتَ خَدِّهِ الأَيْمَنِ، وَقَالَ: رَبِّ قِنِي عَذَابَكَ يَوْمَ تَبْعَثُ عِبَادَكَ.

日本語訳：

バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما によると、「**預言者 ﷺ は寝床に横になられると、右の手のひらを右の頬の下に置き、こう言われた。『ラッビ・キニー・アザーバカ・ヤウマ・タブアスゥ・イバーダク（主よ、あなたがしもべたちをよみがえらせる日に、あなたの罰から私をお守りください）。』」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ムサンナー ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← イスラーイール・イブン・ユーヌス ← アブー・イスハーク・サビーイー ← アブドゥッラー・イブン・ヤズィード・ハトミー ← バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 253 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3399 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:253

このハディースからの教訓

彼は**右側を下にして**、右の手のひらを右の頬の下に置いて眠られた。別の伝承では「ヤウマ・タジュマウ・イバーダク（あなたがしもべたちを集める日に）」と言われている（『シャマーイル』254）— サヒーフ。この祈りは、**眠りは死に似ており**、目覚めは復活に似ていることを思い出させる。

医師たちもまた、右側を下にして眠ることは多くの人にとって**心臓の負担を軽くし**、消化を助けると述べている。しかし私たちがそれを実践するのは、何よりもそれがスンナだからであり、正しい意図で実践されるスンナの一つ一つが、私たちの眠りを**崇拝の価値あるもの**にするのである。

眠る前と目覚めたときの祈り

眠る前と目覚めた後、アッラーの使徒 ﷺ は短いがとても意味の深い祈りを唱えられた。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 255 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَبْدِ الْمَلِكِ بْنِ عُمَيْرٍ، عَنْ رِبْعِيِّ بْنِ حِرَاشٍ، عَنْ حُذَيْفَةَ، قَالَ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِذَا أَوَى إِلَى فِرَاشِهِ، قَالَ: اللَّهُمَّ بِاسْمِكَ أَمُوتُ وَأَحْيَا، وَإِذَا اسْتَيْقَظَ، قَالَ: الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي أَحْيَانَا بَعْدَمَا أَمَاتَنَا وَإِلَيْهِ النُّشُورُ.

日本語訳：

フザイファ رضى الله عنه は言った。預言者 ﷺ は寝床に就かれると、こう言われた。「**アッラーフンマ・ビスミカ・アムートゥ・ワ・アフヤー（アッラーよ、あなたの御名において私は死に、そして生きます）。**」そして目を覚まされると、こう言われた。「**アル＝ハムドゥ・リッラーヒッラズィー・アフヤーナー・バアダ・マー・アマータナー・ワ・イライヒン＝ヌシュール（私たちを死なせた後に生かしてくださったアッラーに称賛あれ。復活はかれのもとにある）。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← アブドゥッラッザーク ← スフヤーン・サウリー ← アブドゥルマリク・イブン・ウマイル ← リブイー・イブン・ヒラーシュ ← フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 255 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6312 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:255

このハディースからの教訓

この祈りには**死と復活への自覚**が込められている。毎晩、私たちはしばらくのあいだ「死に」、毎朝、アッラーが私たちを再び生かしてくださる。だから新しい一日は、悔い改め、善行を積み、感謝するための**新しい機会**なのである。

彼はまた、眠る前に**基本的な恵み**についてアッラーを称えられた。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 258 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَفَّانُ، قَالَ: حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، كَانَ إِذَا أَوَى إِلَى فِرَاشِهِ، قَالَ: الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي أَطْعَمَنَا وَسَقَانَا وَكَفَانَا وَآوَانَا، فَكَمْ مِمَّنْ لا كَافِيَ لَهُ وَلا مُؤْوِيَ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضي الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は寝床に就かれると、こう言われた。「**私たちに食べさせ、飲ませ、満たし、住まいを与えてくださったアッラーに称賛あれ。満たしてくれる者も、住まいを与えてくれる者もいない人が、どれほど多いことか。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・マンスール ← アッファーン・イブン・ムスリム ← ハンマード・イブン・サラマ ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 258 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 2715 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:258

このハディースからの教訓

この祈りは恵みを数えることを教えている。**食べ物、飲み物、満たされること、そして住まい**である。それから彼は、それらを持たない多くの人々を思われた。この祈りは、毎晩目を閉じる前に、私たちの中に**感謝と共感**を育ててくれる。

眠る前の三つの「クル」

アーイシャ رضى الله عنها は、毎晩眠る前の彼の習慣を描いている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 256 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا الْمُفَضَّلُ بْنُ فَضَالَةَ، عَنْ عُقَيْلٍ، أُرَاهُ عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، إِذَا أَوَى إِلَى فِرَاشِهِ كُلَّ لَيْلَةٍ جَمَعَ كَفَّيْهِ فَنَفَثَ فِيهِمَا، وَقَرَأَ فِيهِمَا: قُلْ هُوَ اللَّهُ أَحَدٌ وَ قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ الْفَلَقِ وَ قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ النَّاسِ، ثُمَّ مَسَحَ بِهِمَا مَا اسْتَطَاعَ مِنْ جَسَدِهِ، يَبْدَأُ بِهِمَا رَأْسَهُ وَوَجْهَهُ وَمَا أَقْبَلَ مِنْ جَسَدِهِ، يَصْنَعُ ذَلِكَ ثَلَاثَ مَرَّاتٍ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は毎晩寝床に就かれると、両手のひらを合わせてそこに息を吹きかけ、『クル・フワッラーフ・アハド』『クル・アウーズ・ビラッビル・ファラク』『クル・アウーズ・ビラッビン・ナース』を唱えられた。それから、その両手で体のなでられるところをなでられた。頭と顔と体の前面から始め、それを三回された。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ムファッダル・イブン・ファダーラ ← ウカイル・イブン・ハーリド ← ズフリー ← ウルワ・イブン・ズバイル ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 256 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5017 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:256

このハディースからの教訓

この三つの章——**純正章、黎明章、人間章**——は、ムアウウィザート（守りの章）として知られている。純正章はタウヒードを確認し、黎明章は被造物の悪や魔術から

の守りを求め、人間章は悪魔のささやきからの守りを求める。彼はこれらを眠る前の**とりで**とされた。

その方法にも注目したい。**両手のひらを合わせ、息を吹きかけ、唱え、それから体をなでる**。頭と顔から始め、それを三回行う。二分もかからない簡単な実践であり、幼いころから子どもたちに教えることができる。

彼は眠る前のほかの作法も教えられた。何がのっているかわからないので、まず**寝床を払う**こと（『サヒーフ・ブハーリー』6320）、そして朝までアッラーに守られるという玉座の節（アーヤ・ル＝クルスィー）を唱えることである（『サヒーフ・ブハーリー』2311）。

その横になり方

アブー・カターダ رضى الله عنه は、預言者 ﷺ が旅の途中で夜に休まれるときには**右側を下にして横になられた**が、夜明けの直前に休まれるときには、**腕を立てて手のひらの上に頭をのせられた**と語っている（『シャマーイル』259）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』683 にもある。

学者たちはその知恵を説明している。手のひらに頭をのせて横になると、眠りが**深くなりすぎず**、ファジュルの礼拝を逃さずにすむ。これは、彼が礼拝を守るために**眠りを計画された**ことを示している。よく寝過ごしてしまう私たちにとって、大切な教えである。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、彼がいびきが聞こえるほど眠られ、ビラールが礼拝に呼びに来ると、起き上がって**ウドゥーをし直さずに**礼拝されたと伝えている（『シャマーイル』257）— サヒーフ。これは預言者たちに特有のことである。彼が言われたように、**その目は眠っても、その心は眠らない**からである（『シャマーイル』269）。私たちの場合、深い眠りはウドゥーを無効にする。

第 40 章：その崇拝

本書の最後の章である第 40 章は、**アッラーの使徒 ﷺ の崇拝**を描いている。それはとても有名なハディースで始まる。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 260 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، وَبِشْرُ بْنُ مُعَاذٍ، قَالَا: حَدَّثَنَا أَبُو عَوَانَةَ، عَنْ زِيَادِ بْنِ عِلَاقَةَ، عَنِ الْمُغِيرَةِ بْنِ شُعْبَةَ، قَالَ: صَلَّى رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم، حَتَّى انْتَفَخَتْ قَدَمَاهُ، فَقِيلَ لَهُ: أَتَتَكَلَّفُ هَذَا، وَقَدْ غَفَرَ اللَّهُ لَكَ مَا تَقَدَّمَ مِنْ ذَنْبِكَ وَمَا تَأَخَّرَ؟ قَالَ: أَفَلَا أَكُونُ عَبْدًا شَكُورًا.

日本語訳：

ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は両足がはれるまで礼拝された。彼はこう言われた。「アッラーはあなたの過去と未来の罪を赦されたのに、なぜこれほど自分に負担をかけられるのですか。」彼は言われた。**「私は感謝するしもべであってはならないのか。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード と ビシュル・イブン・ムアーズ ← アブー・アワーナ ← ズィヤード・イブン・イラーカ ← ムギーラ・イブン・シュウバ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 260 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1130 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:260

このハディースからの教訓

教友たちは、崇拝とは**赦しを得るための道**であり、すでに赦された人はそれほど苦労する必要はないと考えた。しかし彼はより高い意味を教えられた。崇拝は**感謝の表現**でもある。アッラーが与えてくださる恵みが多いほど、感謝する務めも大きくなる。

アブー・フライラ رضى الله عنه も同じ出来事を伝えている（『シャマーイル』261）— 伝承経路はハサン。そして（『シャマーイル』262）— サヒーフ。ブハーリーの伝承では、尋ねたのはアーイシャ自身であり、彼は「私は感謝するしもべであることを好まないでいられようか」と答えられた（『サヒーフ・ブハーリー』4837）。

このハディースは、なぜ私たちが崇拝するのかに答えている。地獄を恐れ、天国を望むからだけではなく、すべてを与えてくださったアッラーへの**愛と感謝**のゆえでもある。感謝から生まれる崇拝は、足がはれるほどであっても軽く感じられるのである。

夜の礼拝

夜の礼拝（キヤーム・ッ＝ライル）は、アッラーがご自身の使徒に特に命じられた崇拝である。「**また夜の或る時間を起きて礼拝を務めれば，あなたのために余分の賜物があろう**」（夜の旅章 17:79）— タフスィール・イブン・カスィール 17:79。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 263 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الأَسْوَدِ بْنِ يَزِيدَ، قَالَ: سَأَلْتُ عَائِشَةَ، عَنْ صَلاَةِ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم بِاللَّيْلِ؟ فَقَالَتْ: كَانَ يَنَامُ أَوَّلَ اللَّيْلِ ثُمَّ يَقُومُ، فَإِذَا كَانَ مِنَ السَّحَرِ أَوْتَرَ، ثُمَّ أَتَى فِرَاشَهُ، فَإِذَا كَانَ لَهُ حَاجَةٌ أَلَمَّ بِأَهْلِهِ، فَإِذَا سَمِعَ الأَذَانَ وَثَبَ، فَإِنْ كَانَ جُنُبًا أَفَاضَ عَلَيْهِ مِنَ الْمَاءِ، وَإِلا تَوَضَّأَ وَخَرَجَ إِلَى الصَّلاَةِ.

日本語訳：

アスワド・イブン・ヤズィードは言った。私はアーイシャ رضى الله عنها に、アッラーの使徒 ﷺ の夜の礼拝について尋ねた。彼女は言った。「**彼は夜の初めに眠り、それから起きて（礼拝され）、夜明け前の時刻になるとウィトルを礼拝された。**それから寝床に戻られ、（妻に）用があれば妻のもとへ行かれた。礼拝の呼びかけを聞くと、すぐに起き上がられた。大汚れの状態であれば水を浴び、そうでなければウドゥーをして礼拝に出て行かれた。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ムハンマド・イブン・ジャアファル ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アブー・イスハーク・サビーイー ← アスワド・イブン・ヤズィード ← 信仰者たちの母アーイシャ。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 263 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1146 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:263

このハディースからの教訓

このハディースは彼の**夜の日課**を描いている。早く眠り、夜中に起きて礼拝し、夜明け前にウィトルを礼拝し、少し休み、礼拝の呼びかけを聞くとすぐに起き上がる。この日課は、**体の権利、家族の権利、そしてアッラーの権利**のバランスがとれている。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、あるとき母方のおばマイムーナの家に泊まった。彼は、預言者が夜中に起き上がり、**顔から眠気をぬぐい、イムラーン家章の最後の十節**を唱え、吊るされた水袋の水でウドゥーをして礼拝されるのを見た（『シャマーイル』264）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』183 にもある。それらの節は、天と地の創造についての思索から始まる。**「本当に天と地の創造，また夜と昼の交替の中には，思慮ある者への印がある」**（イムラーン家章 3:190）— タフスィール・イブン・カスィール 3:190。

彼はまた、**夜の礼拝を軽い二ラクアで始める**よう教えられた（『シャマーイル』267）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』768 にもある。彼の夜の礼拝を見守ったザイド・イブン・ハーリド・ジュハニーは、軽い二ラクア、それからとても長い二ラクア、それから次第に短くなるラクアを経て、**十三ラクア**になったと述べている（『シャマーイル』268）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』765 にもある。

美しく長い十一ラクア

彼の夜の礼拝は何ラクアだったのだろうか。家での彼の様子を最もよく知るアーイシャ رضى الله عنها は、こう答えた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 269 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ أَبِي سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيِّ، عَنْ أَبِي سَلَمَةَ بْنِ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، أَنَّهُ أَخْبَرَهُ أَنَّهُ سَأَلَ عَائِشَةَ، كَيْفَ كَانَتْ صَلاةُ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم فِي رَمَضَانَ؟ فَقَالَتْ: مَا كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم لِيَزِيدَ فِي رَمَضَانَ وَلا فِي غَيْرِهِ عَلَى إِحْدَى عَشْرَةَ رَكْعَةً، يُصَلِّي أَرْبَعًا، لا تَسْأَلْ عَنْ حُسْنِهِنَّ، وَطُولِهِنَّ، ثُمَّ يُصَلِّي أَرْبَعًا لا تَسْأَلْ عَنْ حُسْنِهِنَّ وَطُولِهِنَّ، ثُمَّ يُصَلِّي ثَلاثًا، قَالَتْ عَائِشَةُ: قُلْتُ: يَا رَسُولَ اللهِ، أَتَنَامُ قَبْلَ أَنْ تُوتِرَ؟ فَقَالَ: يَا عَائِشَةُ، إِنَّ عَيْنَيَّ تَنَامَانِ، وَلا يَنَامُ قَلْبِي.

日本語訳：

アブー・サラマ・イブン・アブドゥッラフマーンはアーイシャ رضى الله عنها に尋ねた。「ラマダーンのアッラーの使徒 ﷺ の礼拝はどのようでしたか。」彼女は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、ラマダーンでもそれ以外でも、十一ラクア以上を礼拝されることはなかった。四ラクアを礼拝され——その美しさと長さは尋ねないでほしい——それからまた四ラクアを礼拝され——その美しさと長さは尋ねないでほしい——それから三ラクアを礼拝された。**」アーイシャは言った。私は尋ねた。「アッラーの使徒よ、ウィトルの前にお休みになるのですか。」彼は言われた。「**アーイシャよ、私の両目は眠るが、私の心は眠らないのだ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← サイード・イブン・アビー・サイード・マクブリー ← アブー・サラマ・イブン・アブドゥッラフマーン ← 信仰者たちの母アーイシャ。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 269 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1147 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:269

このハディースからの教訓

アーイシャが強調したのは**数**ではなく**質**である。「その美しさと長さは尋ねないでほしい。」彼の十一ラクアは急いだ礼拝ではなかった。どのラクアも長い朗唱、長いルクーウとサジダ、そして深い謙虚さに満ちていた。

ほかの伝承は異なる数を挙げている。一ラクアのウィトルを含む**十一ラクア**で、その後右側を下にして横になられた（『シャマーイル』270）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』736 にもある。**九ラクア**（『シャマーイル』272）— サヒーフ。そして**十三ラクア**（『シャマーイル』265）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』1138 にもある。学者たちは、数は状況によって異なり、十三には始めの軽い二ラクアかファジュルのスンナが含まれると説明している。

眠り込んだり病気だったりして夜の礼拝を逃されたときには、**昼間に十二ラクアを礼拝して補われた**（『シャマーイル』266）— サヒーフ。これは、彼が続けている行いをどれほど大切にされたかを示している。彼はまた、アッラーに最も愛される行いは、**少なくても続けられるもの**であると言われた。

長い起立と一晩じゅう一つの節

フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه は、あるとき彼とともに夜の礼拝をした。彼はアッラーの偉大さをたたえるタクビールで始め、**雌牛章**を唱えられた。そのルクーウは起立とほぼ同じ長さで、サジダはルクーウとほぼ同じ長さであった（『シャマーイル』274）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』772 にもある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 276 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي وَائِلٍ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ مَسْعُودٍ، قَالَ: صَلَّيْتُ لَيْلَةً مَعَ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم فَلَمْ يَزَلْ قَائِمًا حَتَّى هَمَمْتُ بِأَمْرِ سُوءٍ قِيلَ لَهُ: وَمَا هَمَمْتَ بِهِ؟ قَالَ: هَمَمْتُ أَنْ أَقْعُدَ وَأَدَعَ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه は言った。ある夜、私はアッラーの使徒 ﷺ とともに礼拝した。**彼が立ち続けておられたので、私はもう少しで悪いことをしそうになった。**「何をしそうになったのですか」と尋ねられると、彼は答えた。**「座り込んで、預言者 ﷺ を置いて行ってしまいそうになったのです。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← スライマーン・イブン・ハルブ ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アアマシュ ← アブー・ワーイル ← アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 276 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1135 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:276

このハディースからの教訓

イブン・マスウードは力強く学識ある教友であったが、それでも彼の長い起立に**ほとんどついていけなかった。**座ろうと思ったことを「悪いこと」と呼んだのは、礼拝中にイマームを置いていくことは無作法だからである。これは彼の並はずれた**霊的な力**を示している。

アーイシャ رضى الله عنها は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ は、ある夜、クルアーンの一つの節で（礼拝に）立ち続けられた」**（『シャマーイル』275）— 伝承経路はサヒーフ。アブー・ザッルの伝承によると、その節は預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈りの最後の節であった（『スナン・ナサーイー』1010）。**「またあなたがかれらを御赦しなされても，本当にあなたこそは，偉力ならびなく英明であられます」**（食卓章 5:118）— タフスィール・イブン・カスィール 5:118。

彼が一晩じゅう一つの節を繰り返されたのは、**その意味を深く思い**、ウンマを愛しておられたからである。これこそ本当のクルアーンの読み方である。ページを読み終えることではなく、一つ一つの節を**味わう**ことである。

座っての礼拝

年を重ねられると、彼はときに**座って任意の礼拝**をされた。アーイシャ رضى الله عنها は、彼が座って朗唱され、残りがおよそ三十節か四十節になると立ち上がって立ったまま朗唱し、それからルクーウとサジダをされたと語っている（『シャマーイル』278）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』1118 にもある。

アブドゥッラー・イブン・シャキークは、アーイシャに彼の任意の礼拝について尋ねた。彼女は、彼が**長い夜を立って、また長い夜を座って**礼拝されたと答えた。立って朗唱されたときは立った姿勢からルクーウとサジダをされ、座って朗唱されたときは座った姿勢からルクーウとサジダをされた（『シャマーイル』279）— 伝承経路はサヒーフ。

ハフサ رضى الله عنها は、彼が座って任意の礼拝をされ、**章をゆっくりと区切って（タルティールで）唱えられた**ので、実際にはより長い章よりも長く感じられたと付け加えている（『シャマーイル』280）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』733 にもある。アーイシャは言った。「彼は、（任意の）礼拝の多くを座って行われるようになってから亡くなられた」（『シャマーイル』281）— 伝承経路はサヒーフ。

この教えは、お年寄りや体の弱い人々にとって大きな慰めである。**崇拝はその人の能力に合わせられる**。任意の礼拝は座って行ってもよく、大切なのは謙虚な心でそれを続けることである。アッラーは、誰にもその能力以上の負担を課されない。

ラワーティブの任意の礼拝

夜の礼拝のほかに、彼は**ラワーティブの任意の礼拝**、すなわち義務の礼拝に伴う任意の礼拝を欠かされなかった。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 282 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، قَالَ: صَلَّيْتُ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، رَكْعَتَيْنِ قَبْلَ الظُّهْرِ، وَرَكْعَتَيْنِ بَعْدَهَا، وَرَكْعَتَيْنِ بَعْدَ الْمَغْرِبِ فِي بَيْتِهِ، وَرَكْعَتَيْنِ بَعْدَ الْعِشَاءِ فِي بَيْتِهِ.

日本語訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。「**私は預言者 ﷺ とともに、ズフルの前に二ラクア、その後に二ラクア、マグリブの後に彼の家で二ラクア、イシャーの後に彼の家で二ラクアを礼拝した。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← イスマーイール・イブン・イブラーヒーム（イブン・ウライヤ） ← アイユーブ・サフティヤーニー ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 282 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1172 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:282

このハディースからの教訓

ハフサ رضى الله عنها は、彼が**夜明けが訪れ**、礼拝の呼びかけが行われているときに**軽い二ラクア**を礼拝されたと付け加えている（『シャマーイル』283）— 伝承経路はサヒーフ。アーイシャ رضى الله عنها も、ズフルの前に二ラクアと後に二ラクア、マグリブの後に二ラクア、イシャーの後に二ラクア、ファジュルの前に二ラクアを挙げている（『シャマーイル』285）— 伝承経路はサヒーフ。合わせて**一日十から十二ラクア**である。

「**彼の家で**」という言葉にも注目してほしい。彼は家を崇拝で満たし、子どもたちが手本を見られるように、任意の礼拝の一部を家で行われた。彼は言われた。「あなたがたの礼拝の一部を家で行いなさい。家を墓場にしてはならない」（『サヒーフ・ブハーリー』432）。

アースィム・イブン・ダムラは、昼間の彼の任意の礼拝についてアリー رضى الله عنه に尋ねた。アリーは「あなたがたにはとてもできないだろう」と言い、それから説明した。太陽が東の空でアスルの時刻と同じ高さになると二ラクア、ズフルの時刻と同じ高さになると四ラクア、ズフルの前に四ラクアと後に二ラクア、そしてアスルの前に四ラクアを礼拝された、と（『シャマーイル』286）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』599 にもある。

注：イブン・ウマルが覚えていた八ラクア（『シャマーイル』284）

イブン・ウマルは彼の任意の礼拝を八ラクア覚えており、自分では見ていないファジュル前の二ラクアについてはハフサが教えてくれたという伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。その意味は、上のサヒーフな第 282〜283 番の伝承で支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 284 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:284

教訓と結び

『シャマーイル』の第 32〜40 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**日々の人柄と崇拝**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
32. 香り	香料を断らない、断ってはならない三つの贈り物
33. 話し方	はっきり、ゆっくり、大切なことは三度
34. 笑い	笑いはほほえみ、アッラーの慈悲を喜ぶ
35. 冗談	偽りのない冗談、弱い立場の人を大切に
36. 詩	真実の詩はほめられる、真理のための芸術
37〜38. 夜の語らい	妻の話を聞く、愛を言葉にする
39. 眠り	右側を下に、祈りと三つの「クル」
40. 崇拝	感謝からの夜の礼拝、家でのラワーティブ

私たちへのメッセージ

昼の彼の優しい人柄は、夜の**アッラーとの深い結びつき**から生まれていた。ほほえみを忘れず、忍耐強く、寛大な人になりたいなら、崇拝を整えることから始めよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

眠る前の二ラクアからでもよい。アッラーが、ご自身の預言者の人柄で私たちを飾ってくださいますように。

話は**第五部**へと続く。その朝（ドゥハー）の礼拝、家での任意の礼拝、断食、クルアーンの朗唱、涙、寝床、謙虚さ、そして人柄など、『シャマーイル』の続く章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

付録：毎日のスンナ・チェックリスト

本書で取り上げたアッラーの使徒 ﷺ の毎日のスンナを、出典とともにまとめた。寝室や家族の部屋に貼って、心がけとすることができる。

スンナ	出典
香料の贈り物を受け取り、香りをまとう	『サヒーフ・ブハーリー』2582
はっきり話し、大切なことは繰り返す	『サヒーフ・ブハーリー』95
ほほえみで人を迎える	『ジャーミウ・ティルミズィー』1956
偽りのない冗談を言う	『シャマーイル』236
乗り物に乗るときの祈りを唱える	『ジャーミウ・ティルミズィー』3446
配偶者の話を聞き、語り合う	『サヒーフ・ブハーリー』5189
横になる前に寝床を払う	『サヒーフ・ブハーリー』6320
純正章・黎明章・人間章を唱えて体をなでる	『サヒーフ・ブハーリー』5017
祈りを唱えて右側を下にして眠る	『シャマーイル』253
目覚めたときの祈り	『サヒーフ・ブハーリー』6312
夜の礼拝を軽い二ラクアで始める	『サヒーフ・ムスリム』768
ラワーティブを守り、その一部を家で行う	『サヒーフ・ブハーリー』1172

まず眠る前のスンナ、つまり三つの「クル」と眠りの祈りから始めよう。毎晩行うもので、簡単だからである。それが習慣になったら、眠る前か夜明け前に二ラクアの夜の礼拝を加えよう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第四部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（イムラーン家章 3:190、食卓章 5:118、夜の旅章 17:79、ヤー・スィーン章 36:69、金の装飾章 43:13、筆章 68:4、消息章 78:9）。tafsir.app/ibn-katheer/68/4

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 32〜40 章（ハディース第 215〜286 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

カーディー・イヤード『ブグヤト・ッ＝ラーイド――ウンム・ザルウのハディースの益について』。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』95、183、432、568、1118、1130、1135、1138、1146、1147、1172、2311、2582、2802、2864、3035、3568、3841、4837、5017、5189、6129、6312、6320、6571。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』190、683、733、736、765、768、772、2715。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』599、1956、1990、2315、2790、2846、2847、2850、3399、3446、3639、3642、『スナン・アビー・ダーウード』4162、『スナン・ナサーイー』1010、3939、『スナン・イブン・マージャ』4193。sunnah.com

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

Wikipedia, “Hassan ibn Thabit”. en.wikipedia.org/wiki/Hassan_ibn_Thabit

Wikipedia, “Labid”. en.wikipedia.org/wiki/Labid

Wikipedia, “Tahajjud”. en.wikipedia.org/wiki/Tahajjud

第五部

「いいえ」と言わない方

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 41〜49 章

ドゥハーの礼拝、家での任意の礼拝、断食、クルアーンの朗唱、涙、寝床、謙虚さ、人柄、恥じらい

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「いいえ」と言わない方

これまでの四部では、アッラーの使徒 ﷺ のお姿、衣服、食卓、ほほえみ、そして眠りを知った。この第五部は、私たちを彼の**日々の崇拝と人柄**へと導く。ドゥハーの礼拝、家での任意の礼拝、断食、クルアーンの朗唱、涙、寝床、謙虚さ、崇高な人柄、そして恥じらいである。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』第 41 章から第 49 章に従う。

これらの章には **71 の伝承**が含まれている。これまでと同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

そこに浮かび上がる姿は、胸を打つものである。**ヤシの繊維を詰めた革の寝床で眠り**、クルアーンを聞いて涙を流し、自分で羊の乳を搾り、十年間一度も仕える者に「ちぇっ」と言わず、そして求める人に**決して「いいえ」と言わなかった**預言者である。

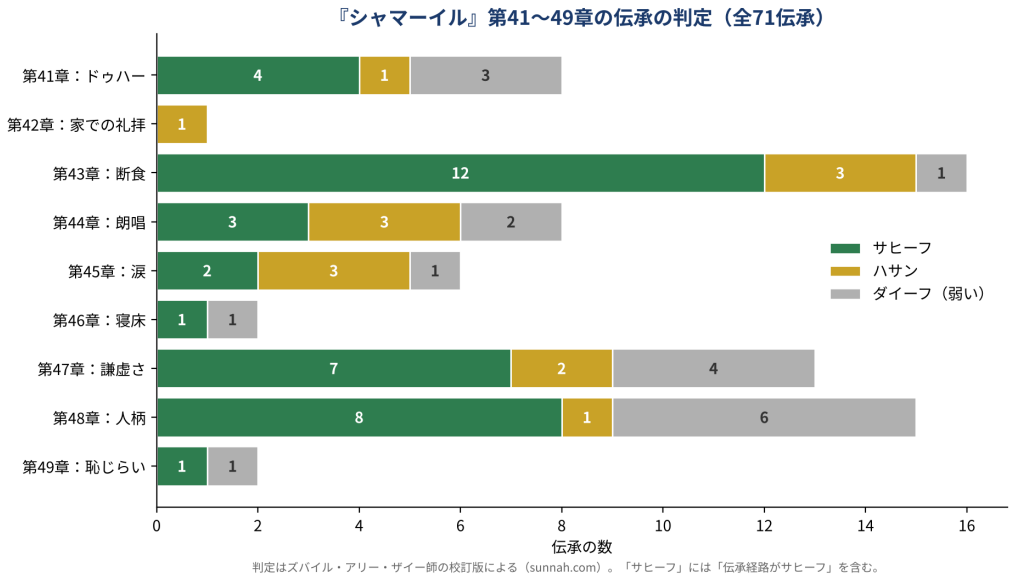


図 5：『シャマーイル』第 41〜49 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。これらの章の 71 の伝承のうち、およそ 4 分の 3 がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

優しく情け深い使徒

アッラーは、本書のテーマとなる性質によってご自身の使徒を描いておられる。

悔悟章 9:128

لَقَدْ جَآءَكُمْ رَسُولٌ مِّنْ أَنفُسِكُمْ عَزِيزٌ عَلَيْهِ مَا عَنِتُّمْ حَرِيصٌ عَلَيْكُم بِٱلْمُؤْمِنِينَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ ﴿١٢٨﴾

今，使徒があなたがたにあなたがたの間から，やって来た。かれは，あなたがたの悩みごと に心を痛め，あなたがたのため，とても心配している。信者に対し優しく，また情深い。

日本語訳：三田了一 — quran.com/9:128

この節は**四つの性質**を挙げている。彼は私たちの中から来られたこと、私たちの苦しみに心を痛められること、私たちの幸いを強く願われること、そして信仰者に優しく情け深いことである。イブン・カスィールは、彼がウンマが導かれ、罰から救われることを心から願っておられたと説明している（タフスィール・イブン・カスィール 9:128）。

これらの性質は本書の各章にはっきりと表れている。彼の**慈悲**は、孫が亡くなったときの涙に見られる。**私たちの幸いを願う心**は、ウンマが負担を負わないように、容易で続けられる行いを選ばれたことに見られる。そして彼の**優しさ**は、仕える者、妻、子ども、貧しい人々への接し方に見られる。

本書はまた、彼の暮らしの**バランス**を示している。多くの崇拝をされたが、負担になるほどではなかった。この世に執着されなかったが、贈り物や招待は受けられた。威厳がありながら、深く**謙虚で恥じらい深かった**。

この節にはまた、彼に与えられたアッラーの二つの御名が含まれている。**ラウーフ**（優しい方）と**ラヒーム**（情け深い方）である。一部の学者は、一つの節の中でアッラーの二つの御名を合わせて形容された預言者はほかにいないと述べている。

第 41 章：ドゥハーの礼拝

『シャマーイル』の第 41 章は「**ドゥハーの礼拝**」と題されている。八つの伝承があり、サヒーフが四つ、ハサンが一つ、弱いものが三つである（図 5）。ドゥハーとは、日が昇ってから南中の少し前までに行う任意の礼拝である。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 287 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو دَاوُدَ الطَّيَالِسِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ يَزِيدَ الرِّشْكِ، قَالَ: سَمِعْتُ مُعَاذَةَ، قَالَتْ: قُلْتُ لِعَائِشَةَ: أَكَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُصَلِّي الضُّحَى؟ قَالَتْ: نَعَمْ، أَرْبَعَ رَكَعَاتٍ، وَيَزِيدُ مَا شَاءَ اللَّهُ عَزَّ وَجَلَّ.

日本語訳：

ムアーザは言った。私はアーイシャ رضى الله عنها に尋ねた。「預言者 ﷺ はドゥハー（朝）の礼拝をされましたか。」彼女は答えた。「**はい、四ラクアです。そしてアッラーがお望みになっただけ増やされました。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ダーウード・タヤーリスィー ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← ヤズィード・リシュク ← ムアーザ・アダウィーヤ ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 287 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 719 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:287

このハディースからの教訓

このハディースは、彼のドゥハーの礼拝が**四ラクア**であり、アッラーのお望みに応じて増やされたことを示している。これは私たちに広がりを与えてくれる。ドゥハーは、能力に応じて二、四、六、八ラクアで行うことができる。

アーイシャ رضى الله عنها は、アブドゥッラー・イブン・シャキークに、彼がいつもドゥハーを礼拝されていたかと尋ねられ、こう答えた。「**いいえ、旅から帰られたとき**

以外は」（『シャマーイル』290）— 伝承経路はサヒーフ。学者たちはこれらの伝承を調和させている。彼はときにそれを行い、ときにやめられた。ウンマに**義務だと思われないように**であり、教友たちはそれぞれ自分が見たことを伝えたのである。

注：六ラクアのドゥハー（『シャマーイル』288）

預言者 ﷺ がドゥハーを六ラクア礼拝されたというアナスの伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。しかし四ラクアを超えるドゥハーは、ほかのサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 288 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:288

ドゥハーの時間は、人々が商売や仕事や学びといったこの世の用事に忙しい時でもある。そのときに二ラクアか四ラクアのために数分を割くことは、忙しさの中でも**アッラーを忘れない心のしるし**である。それはまた、祝福とともに一日を始める簡単な方法でもある。

ウンム・ハーニゥの家での八ラクア

彼のドゥハーの礼拝について最もよく知られた伝承は、彼のいとこウンム・ハーニゥ・ビント・アビー・ターリブから伝えられている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 289 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، قَالَ: حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ جَعْفَرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَمْرِو بْنِ مُرَّةَ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ أَبِي لَيْلَى، قَالَ: مَا أَخْبَرَنِي أَحَدٌ، أَنَّهُ رَأَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يُصَلِّي الضُّحَى إِلا أُمَّ هَانِئٍ، فَإِنَّهَا حَدَّثَتْ أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، دَخَلَ بَيْتَهَا يَوْمَ فَتْحِ مَكَّةَ فَاغْتَسَلَ فَسَبَّحَ ثَمَانِيَ رَكَعَاتٍ مَا رَأَيْتُهُ صلى الله عليه وسلم، صَلَّى صَلاةً قَطُّ أَخَفَّ مِنْهَا، غَيْرَ أَنَّهُ كَانَ يُتِمُّ الرُّكُوعَ وَالسُّجُودَ.

日本語訳：

アブドゥッラフマーン・イブン・アビー・ライラーは言った。預言者 ﷺ がドゥハーの礼拝をされるのを見たと私に告げた人は、ウンム・ハーニゥ رضى الله عنها のほかにいない。彼女は、マッカ征服の日にアッラーの使徒 ﷺ が彼女の家に入り、**体を洗って八ラクアを礼拝された**と語った。私は、彼がそれより軽い礼拝をされるのを見たことがないが、それでもルクーウとサジダは完全に行われた、と。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ムサンナー ← ムハンマド・イブン・ジャアファル ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← アムル・イブン・ムッラ ← アブドゥッラフマーン・イブン・アビー・ライラー ← ウンム・ハーニゥ・ビント・アビー・ターリブ。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 289 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1176 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:289

このハディースからの教訓

これは**マッカ征服の日**、イスラームの歴史で最大の勝利の日の出来事である。しかし彼はそれを祝宴で祝われたのではなく、**体を洗って八ラクアを礼拝された**。一部の学者は、これを勝利に対する感謝の礼拝と呼んでいる。

その礼拝が**軽くても完全**であったことにも注目したい。ルクーウとサジダは完全に行われた。これは、軽い礼拝とは、落ち着き（トゥマアニーナ）を失うほど急ぐことではないことを教えている。一つ一つの柱の質は保たれるのである。

注：ドゥハーについての弱い伝承（『シャマーイル』291〜293）

彼がときに、もうやめられないと思うほどドゥハーを礼拝し、ときに、もうされないと思うほどやめられたというアブー・サイードの伝承（第 291 番）と、南中を過ぎたときの四ラクアについてのアブー・アイユーブの伝承（第 292〜293 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。南中後の四ラクアの意味は、次のサヒーフな第 294 番の伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 291〜293 番。 sunnah.com/shamail:291

この話はまた、信頼できる伝承者としての**ウンム・ハーニゥ**の立場を示している。家での彼の実践についての知識の多くは、彼の家族の女性たちを通して私たちに届いた。これは、**スンナを守り伝える**うえで女性が果たした大きな役割を示している。

天の門が開かれる時

ドゥハーのほかに、彼は特別な時刻、すなわち**太陽が南中を過ぎた直後**、ズフルの礼拝の前にも四ラクアを礼拝された。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 294 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو دَاوُدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مُسْلِمِ بْنِ أَبِي الْوَضَّاحِ، عَنْ عَبْدِ الْكَرِيمِ الْجَزَرِيِّ، عَنْ مُجَاهِدٍ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ السَّائِبِ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يُصَلِّي أَرْبَعًا بَعْدَ أَنْ تَزُولَ الشَّمْسُ قَبْلَ الظُّهْرِ وَقَالَ: إِنَّهَا سَاعَةٌ تُفْتَحُ فِيهَا أَبْوَابُ السَّمَاءِ، فَأُحِبُّ أَنْ يَصْعَدَ لِي فِيهَا عَمَلٌ صَالِحٌ.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・サーイブ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒ﷺは太陽が南中を過ぎた後、ズフルの前に四ラクアを礼拝され、こう言われた。「**それは天の門が開かれる時刻である。私はその時に、自分の善い行いが昇っていくことを好むのだ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ムサンナー ← アブー・ダーウード・タヤーリスィー ← ムハンマド・イブン・ムスリム・イブン・アビー・ワッダーフ ← アブドゥルカリーム・ジャザリー ← ムジャーヒド ← アブドゥッラー・イブン・サーイブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 294 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 478 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:294

このハディースからの教訓

彼は善い行いのために**尊い時刻**、天の門が開かれる時を選ばれた。これは私たちに、夜の最後の三分の一、アザーンとイカーマのあいだ、金曜日といった祝福された時を意識し、それを崇拝で満たすよう教えている。

アリー رضى الله عنه もまた、彼が太陽が南中を過ぎたときにズフルの前に四ラクアを礼拝し、**それを長くされた**と述べている（『シャマーイル』295）— ハサン。このズフル前の四ラクアは、前の部のラワーティブの章で見たように、彼が欠かさなかった任意の礼拝の一つである。

南中を過ぎた時刻は暑く忙しく、多くの人が休んだり用事を済ませたりする時である。その時を礼拝に選ばれたことは、彼が自分の楽よりも**アッラーを先にされた**ことを示している。私たちも、職場にいてもズフル前の四ラクアを守ることで、彼に倣うことができる。

第 42 章：家での任意の礼拝

第 42 章には伝承が一つしかないが、その意味はとてもはっきりしている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 296 番

حَدَّثَنَا عَبَّاسٌ الْعَنْبَرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، عَنْ مُعَاوِيَةَ بْنِ صَالِحٍ، عَنِ الْعَلاءِ بْنِ الْحَارِثِ، عَنْ حَرَامِ بْنِ مُعَاوِيَةَ، عَنْ عَمِّهِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ سَعْدٍ، قَالَ: سَأَلْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم عَنِ الصَّلاةِ فِي بَيْتِي وَالصَّلاةِ فِي الْمَسْجِدِ، قَالَ: قَدْ تَرَى مَا أَقْرَبَ بَيْتِي مِنَ الْمَسْجِدِ، فَلأَنْ أُصَلِّيَ فِي بَيْتِي أَحَبُّ إِلَيَّ مِنْ أَنْ أُصَلِّيَ فِي الْمَسْجِدِ، إِلا أَنْ تَكُونَ صَلاةً مَكْتُوبَةً.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・サアド رضى الله عنه は言った。私は家での礼拝とモスクでの礼拝について、アッラーの使徒 ﷺ に尋ねた。彼は言われた。「**私の家がモスクにどれほど近いかを見なさい。それでも、義務の礼拝を除けば、私には家で礼拝するほうがモスクで礼拝するよりも好ましいのだ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アッバース・アンバリー ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← ムアーウィヤ・イブン・サーリフ ← アラーゥ・イブン・ハーリス ← ハラーム・イブン・ムアーウィヤ ← アブドゥッラー・イブン・サアド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 296 番に収録。『スナン・イブン・マージャ』第 1378 番にもある。

判定： ハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:296

このハディースからの教訓

彼の家は預言者のモスク——そこでの礼拝は千倍の価値がある——のすぐ隣にあった。それでも彼は**任意の礼拝を家で行うほうを好まれた**。これは、家を礼拝で生かすことの徳がどれほど大きいかを示している。

彼は言われた。「あなたがたの礼拝の一部を家で行いなさい。家を墓場にしてはならない」（『サヒーフ・ブハーリー』432）。一度も礼拝が行われない家は、アッラーを念じる声のない墓にたとえられている。家での任意の礼拝はまた、**見せびらかしから遠く**、子どもたちにとって生きた手本となる。

しかし例外ははっきりしている。**義務の礼拝**は、男性はモスクで集団で行うべきである。したがってスンナは、義務の礼拝はモスクで、任意の礼拝の多くは家で、ということになる。

女性については、家での礼拝のほうがより良いと彼は説明された。だからムスリムの家には、礼拝用の敷物を置いた小さな片隅であっても、家族が任意の礼拝をし、クルアーンを読み、アッラーを念じる**礼拝の場所**があるべきである。

第 43 章：その断食

第 43 章は**アッラーの使徒 ﷺ の断食**を描いている。アッラーはラマダーンの断食を義務とされた。**「アッラーはあなたがたに易きを求め，困難を求めない」**（雌牛章 2:185）— タフスィール・イブン・カスィール 2:185。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 297 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ شَقِيقٍ، قَالَ: سَأَلْتُ عَائِشَةَ، عَنْ صِيَامِ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَتْ: كَانَ يَصُومُ حَتَّى نَقُولَ قَدْ صَامَ، وَيُفْطِرُ حَتَّى نَقُولَ قَدْ أَفْطَرَ قَالَتْ: وَمَا صَامَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، شَهْرًا كَامِلا مُنْذُ قَدِمَ الْمَدِينَةَ إِلا رَمَضَانَ.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・シャキークは言った。私はアーイシャ رضى الله عنها に、アッラーの使徒 ﷺ の断食について尋ねた。彼女は言った。**「彼は、私たちが『ずっと断食を続けられるのだ』と言うほど断食され、『ずっと断食をされないのだ』と言うほど断食をされなかった。」**彼女はまた言った。「アッラーの使徒 ﷺ は、マディーナに来られてから、ラマダーン以外にまる一か月断食されたことはなかった。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ハンマード・イブン・ザイド ← アイユーブ・サフティヤーニー ← アブドゥッラー・イブン・シャキーク ← 信仰者たちの母アーイシャ。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 297 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 768 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:297

このハディースからの教訓

彼の任意の断食は**決まった予定に従っていなかった**。ときには、教友たちがもうやめられないと思うほど続けて断食され、ときには、もう断食されないと思うほど断食をされなかった。これは、宣教、旅、遠征といった状況に応じた**バランス**と調整を示している。

アナス رضى الله عنه は美しい描写を付け加えている。**「夜に礼拝しておられる彼を見たいと思えば必ず見ることができ、眠っておられる彼を見たいと思えば必ず見ることができた」**（『シャマーイル』298）— サヒーフ。イブン・アッバース رضى الله عنهما も、

彼がラマダーン以外にまる一か月断食されたことはなかったと述べている（『シャマーイル』299）— サヒーフ。

任意の断食はまた、**忍耐と自制を鍛える**。任意の断食に慣れた人は、舌や視線や感情を守ることがより容易になる。だから彼は、断食を人を罪から守る盾と呼ばれたのである。

シャアバーンの月

ラマダーン以外のすべての月の中で、彼が最も多く断食されたのは**シャアバーン**であった。アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**私は、アッラーの使徒 ﷺ がシャアバーンよりも多く断食される月を見たことがない。わずかな日を除いて断食され、いや、そのすべてを断食された**」（『シャマーイル』301）— 伝承経路はハサン。『サヒーフ・ブハーリー』1969 にもある。

ウンム・サラマ رضى الله عنها も言った。「預言者 ﷺ が二か月続けて断食されるのを見たのは、シャアバーンとラマダーンだけである」（『シャマーイル』300）— サヒーフ。アーイシャも同じ意味を繰り返している（『シャマーイル』305）— サヒーフ。学者たちは、「そのすべて」とはその大部分という意味であると説明している。彼はラマダーン以外にまる一か月断食されたことはなかったからである。

シャアバーンの断食は、義務の礼拝の前の任意の礼拝のように、ラマダーンへの**準備**である。それは体と心を鍛え、ラマダーンが来たときに心から崇拝できるよう整えてくれる。

別の伝承で彼は、シャアバーンはラジャブとラマダーンのあいだにあって**多くの人がおろそかにする月**であり、その月に行いがアッラーのもとへ上げられると説明された。人々がおろそかにしているときに崇拝することには、特別な価値がある。

月曜日、木曜日、そして毎月三日

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**預言者 ﷺ は月曜日と木曜日の断食を心がけておられた**」（『シャマーイル』304）— 伝承経路はサヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』745 にもある。彼はその理由をこう説明された。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 306 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ يَحْيَى، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو عَاصِمٍ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ رِفَاعَةَ، عَنْ سُهَيْلِ بْنِ أَبِي صَالِحٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: تُعْرَضُ الأَعْمَالُ يَوْمَ الاثْنَيْنِ وَالْخَمِيسِ، فَأُحِبُّ أَنْ يُعْرَضَ عَمَلِي وَأَنَا صَائِمٌ.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、預言者 ﷺ は言われた。「**行いは月曜日と木曜日に（アッラーのもとに）示される。だから私は、断食している時に自分の行いが示されることを好むのだ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ヤフヤー ← アブー・アースィム ← ムハンマド・イブン・リファーア ← スハイル・イブン・アビー・サーリフ ← アブー・サーリフ・ザクワーン（その父） ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 306 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 747 番にもある。

判定： 伝承経路はハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:306

このハディースからの教訓

毎週、私たちの行いは二度**アッラーに示される**。彼は、自分の行いが最も良い状態、すなわち断食しているときに示されることを望まれた。これは、私たちの一つ一つの行いが記録され、アッラーに見られているという自覚を育ててくれる。

彼はまた**毎月三日**断食された。アブドゥッラー・イブン・マスウードは月の初めの三日と述べ（『シャマーイル』302）— ハサン、アーイシャは特定の日を決めておられなかったと言った（『シャマーイル』303）— サヒーフ。善い行いは十倍に報われるので、毎月三日の断食は一年じゅう断食するのと同じ報いになる。

注：曜日ごとの断食（『シャマーイル』307）

彼がある月には土曜・日曜・月曜に、別の月には火曜・水曜・木曜に断食されたというアーイシャの伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 307 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:307

月曜日には特別な徳もある。彼は、それが自分の生まれた日であり、啓示が初めて下された日であると述べられた。だから月曜日の断食は、預言者の誕生と啓示という恵みへの**感謝の表現**でもある。

アーシューラーの日

アーシューラー（ムハッラム月 10 日）の断食には、イスラーム以前にさかのぼる長い歴史がある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 308 番

حَدَّثَنَا هَارُونُ بْنُ إِسْحَاقَ الْهَمْدَانِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدَةُ بْنُ سُلَيْمَانَ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: كَانَ عَاشُورَاءُ يَوْمًا تَصُومُهُ قُرَيْشٌ فِي الْجَاهِلِيَّةِ، وَكَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم يَصُومُهُ، فَلَمَّا قَدِمَ الْمَدِينَةَ صَامَهُ وَأَمَرَ بِصِيَامِهِ، فَلَمَّا افْتُرِضَ رَمَضَانُ كَانَ رَمَضَانُ هُوَ الْفَرِيضَةُ وَتُرِكَ عَاشُورَاءُ، فَمَنْ شَاءَ صَامَهُ وَمَنْ شَاءَ تَرَكَهُ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アーシューラーの日は、クライシュ族がジャーヒリーヤの時代に断食していた日であり、アッラーの使徒 ﷺ もその日に断食しておられた。マディーナに来られると、彼はその日に断食し、人々にも断食を命じられた。**ラマダーンの断食が義務とされると、ラマダーンが義務となり、アーシューラーは（義務としては）やめられた。望む者は断食し、望む者はしなくてよいのである。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハールーン・イブン・イスハーク・ハムダーニー ← アブダ・イブン・スライマーン ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父） ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 308 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 2002 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:308

このハディースからの教訓

アーシューラーの断食は、イスラームの初期にはかつて**義務**とされていたが、ラマダーンが定められると、その義務は廃止された。しかしそれは、**強く勧められる任意の断食**として残っている。ムスリムの伝承で彼は、アーシューラーの断食は前の一年の罪を償うと言われた。

このハディースはまた、法の定めにおける**段階性**を示している。アッラーは物事を段階的に導入することで、しもべたちに容易にしてくださる。これは、アッラーは困難ではなく容易を望まれるという節と一致している。

別の伝承で彼は、啓典の民の習慣と区別するために**九日目**にも断食しようと決められた。そこで学者たちは、ムハッラム月の 9 日と 10 日に断食することを勧めている。アーシューラーはまた、アッラーが預言者ムーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ をファラオから救われた日であり、彼は感謝としてその日に断食されたのである。

「少なくても」

アルカマはアーイシャ رضى الله عنها に、アッラーの使徒 ﷺ が崇拝のために特定の日を選ばれたかと尋ねた。彼女は答えた。**「彼の行いは絶え間ないものでした。あなたがたの誰が、アッラーの使徒 ﷺ がしておられたことをできるでしょうか」**（『シャマーイル』309）— サヒーフ。この原則は次のハディースにまとめられている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 311 番

حَدَّثَنَا أَبُو هِشَامٍ مُحَمَّدُ بْنُ يَزِيدَ الرِّفَاعِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا ابْنُ فُضَيْلٍ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ أَبِي صَالِحٍ، قَالَ: سَأَلْتُ عَائِشَةَ، وَأُمَّ سَلَمَةَ، أَيُّ الْعَمَلِ كَانَ أَحَبَّ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم؟ قَالَتَا: مَا دِيمَ عَلَيْهِ، وَإِنْ قَلَّ.

日本語訳：

アブー・サーリフは言った。私はアーイシャとウンム・サラマに尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ が最も好まれた行いは何でしたか。」二人は答えた。**「少なくても、続けて行われるものです。」**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・ヒシャーム・ムハンマド・イブン・ヤズィード・リファーイー ← ムハンマド・イブン・フダイル ← アアマシュ ← アブー・サーリフ・ザクワーン ← 信仰者たちの母アーイシャ と ウンム・サラマ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 311 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2856 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:311

このハディースからの教訓

アーイシャ رضى الله عنها は、崇拝のために**夜眠らない**女性が彼女のもとにいたとき、彼がこう言われたと語っている。「あなたがたにできる行いをしなさい。アッラーにかけて、あなたがたが飽きるまで、アッラーは飽きられない」（『シャマーイル』310）— サヒーフ。行き過ぎた崇拝はすぐにやめられてしまうが、ほどよい崇拝は一生続けることができる。

彼はまた言われた。「アッラーに最も愛される行いは、少なくても続けられるものである」（『サヒーフ・ブハーリー』6464）。毎日二ラクアのドゥハーは、一度だけ八ラクアを行ってやめてしまうよりも良い。**量よりも続けることが大切なのである。**

この原則は生活のあらゆる面に当てはまる。毎日クルアーンを数節読むこと、毎週少しずつ施しをすること、毎回の礼拝の後にアッラーを念じること。**着実に**続けられる小さな行いは、一生を通じて積み重なると大きなものになる。

アウフ・イブン・マーリクとの夜の礼拝

断食の章は、彼の**夜の礼拝**についての伝承で締めくくられる。アウフ・イブン・マーリク رضى الله عنه は、ある夜アッラーの使徒 ﷺ とともにいたと語っている。彼はミスワークで歯を磨き、ウドゥーをして礼拝され、アウフも彼とともに立った。彼は**雌牛章**から始め、慈悲の節を通るたびに止まって慈悲を求め、罰の節を通るたびに止まって守りを求められた（『シャマーイル』312）— サヒーフ。

それから彼は、立っていたのと同じほど長くルクーウをし、こう唱えられた。「**スブハーナ・ズィル・ジャバルーティ・ワル・マラクーティ・ワル・キブリヤーイ・ワル・アザマ**」（力と王権と偉大さと威厳の持ち主に栄光あれ）。そしてそれと同じほど長くサジダをされた。それからイムラーン家章を唱え、各ラクアで章を次々と唱えられた。

この伝承は、礼拝の中で**クルアーンと向き合う**方法を教えている。ただ読むのではなく、節の意味に応じて立ち止まり、求め、守りを願うのである。彼ほど長く読むことはできなくても、意味のわかる短い章から始めることができる。

彼がルクーウとサジダで唱えられたこの称賛の言葉は、覚えて任意の礼拝で用いることができる。それはアッラーを四つの偉大な属性によってたたえ、かれの前で私たちがどれほど小さな存在であるかを思い起こさせる。

第 44 章：その朗唱

第 44 章は**アッラーの使徒 ﷺ のクルアーンの朗唱**を描いている。アッラーは彼にこう命じられた。「**ゆっくりと慎重な調子で，クルアーンを読め**」（衣を纏う者章 73:4）— タフスィール・イブン・カスィール 73:4。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 314 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا وَهْبُ بْنُ جَرِيرِ بْنِ حَازِمٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبِي، عَنْ قَتَادَةَ، قَالَ: قُلْتُ لأَنَسِ بْنِ مَالِكٍ: كَيْفَ كَانَتْ قِرَاءَةُ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم؟ فَقَالَ: مَدًّا.

日本語訳：

カターダは言った。私はアナス・イブン・マーリク رضى الله عنه に尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ の朗唱はどのようでしたか。」彼は答えた。「**（長母音を）長く伸ばしておられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ワフブ・イブン・ジャリール・イブン・ハーズィム ← ジャリール・イブン・ハーズィム（その父）← カターダ ← アナス・イブン・マーリク。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 314 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5045 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正）— ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:314

このハディースからの教訓

彼の朗唱は**長く伸ばす（マッド）**ものであった。すなわち長母音をその分量どおりに伸ばされたのである。ブハーリーの伝承でアナスは例を挙げている。彼は「ビスミッラー」を伸ばし、「アッ＝ラフマーン」を伸ばし、「アッ＝ラヒーム」を伸ばされた（『サヒーフ・ブハーリー』5045）。これが、今日私たちが学ぶ**タジュウィード**の基礎である。

ウンム・サラマ رضى الله عنها は、彼の朗唱を**一文字一文字はっきりとした**ものと描写している（『シャマーイル』313）— 伝承経路はハサン。彼女はまた、彼が**一節ごとに区切られた**と述べている。「アル＝ハムドゥ・リッラーヒ・ラッビル・アーラミーン」と唱えて区切り、次に「アッ＝ラフマーニッ＝ラヒーム」と唱えて区切り、次に「マーリキ・ヤウミッ＝ディーン」と唱えられた（『シャマーイル』315）— 伝承経路はハサン。

ゆっくりはっきりした朗唱は、**意味を味わう**時間を与えてくれる。クルアーンは急いで読み終えるためのものではなく、深く思うためのものである。一ページをタルティールで理解しながら読むほうが、一ジュズを急いで読むよりも益が大きいこともある。

親は、子どもたちに**タジュウィードを学ばせ**、家で一緒にクルアーンを読むことで、このスンナを生かすことができる。タルティールでクルアーンを読む子どもたちの声は、家の最も美しい飾りの一つである。

小さな声で、大きな声で

アブドゥッラー・イブン・アビー・カイスはアーイシャ رضى الله عنها に、夜の彼の朗唱は小さな声か大きな声かと尋ねた。彼女は答えた。**「彼はその両方をされました。ときに小さな声で、ときに大きな声で。」**アブドゥッラーは言った。「この事柄を広く定めてくださったアッラーに称賛あれ」（『シャマーイル』316）— サヒーフ。

アッラーもまた中間の道を教えておられる。**「礼拝の折には，声高に唱えてはならない。また（余り）低く唱えてもいけない。その中間の道をとれ」**（夜の旅章 17:110）— タフスィール・イブン・カスィール 17:110。

ウンム・ハーニゥ رضى الله عنها は言った。「私は自分の寝床にいながら、夜の預言者 ﷺ の朗唱を聞いていた」（『シャマーイル』317）— ハサン。イブン・アッバース رضى الله عنهما も、彼が家の中にいるとき、その朗唱が部屋にいる人に聞こえることがあったと言った（『シャマーイル』320）— 伝承経路はハサン。彼の声はほどよく、近くの人には聞こえるが、邪魔にはならなかった。

注：美しい声（『シャマーイル』319）

カターダは言った。「アッラーは、顔立ちが美しく声の美しい者でなければ預言者として遣わされなかった。あなたがたの預言者 ﷺ も顔立ちが美しく声が美しかったが、朗唱で節を過度にふるわせることはなかった。」その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 319 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:319

小さな声で読むのは、眠っている人や礼拝している人がいるときにふさわしく、大きな声で読むのは、心を奮い立たせ眠気を払うことができる。彼は**状況**に応じて選ばれた。これこそ崇拝における知恵である。

マッカ征服の日の朗唱

最大の勝利の日に、アッラーの使徒 ﷺ は何を唱えられたのだろうか。アブドゥッラー・イブン・ムガッファル رضى الله عنه がそれを目撃した。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 318 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو دَاوُدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ مُعَاوِيَةَ بْنِ قُرَّةَ، قَالَ: سَمِعْتُ عَبْدَ اللهِ بْنَ مُغَفَّلٍ، يَقُولُ: رَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، عَلَى نَاقَتِهِ يَوْمَ الْفَتْحِ، وَهُوَ يَقْرَأُ: إِنَّا فَتَحْنَا لَكَ فَتْحًا مُبِينًا لِيَغْفِرَ لَكَ اللَّهُ مَا تَقَدَّمَ مِنْ ذَنْبِكَ وَمَا تَأَخَّرَ، قَالَ: فَقَرَأَ وَرَجَّعَ، قَالَ: وَقَالَ مُعَاوِيَةُ بْنُ قُرَّةَ: لَوْلاَ أَنْ يَجْتَمِعَ النَّاسُ عَلَيَّ لأَخَذْتُ لَكُمْ فِي ذَلِكَ الصَّوْتِ أَوْ قَالَ: اللَّحْنِ.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・ムガッファル رضى الله عنه は言った。「**マッカ征服の日、私は預言者 ﷺ が雌ラクダの上で『インナー・ファタハナー・ラカ・ファトハン・ムビーナー、リヤグフィラ・ラカッラーフ・マー・タカッダマ・ミン・ザンビカ・ワマー・タアッハル』（勝利章 48:1〜2）と唱えておられるのを見た。**」彼は言った。彼は声を震わせるように（タルジーウして）唱えられた。ムアーウィヤ・イブン・クッラは言った。「人々が私の周りに集まってしまうのでなければ、その節回しをあなたがたに聞かせるところなのだが。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ダーウード・タヤーリスィー ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← ムアーウィヤ・イブン・クッラ ← アブドゥッラー・イブン・ムガッファル رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 318 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 4835 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:318

このハディースからの教訓

彼は、かつて自分を追い出したマッカに、誇らしい歓声とともにではなく、ラクダの上で**勝利章を唱えながら**入られた。その章は明らかな勝利とアッラーの赦しを語っている。勝利は傲慢ではなく、**感謝と赦しを求めること**と結びつけられたのである。

彼はまた、唱えながら**声に節をつけられた**（タルジーウ）。これは、タジュウィードの規則を破らない限り、クルアーンを美しい声で唱えることがスンナであることを示している。このハディースの伝承者ムアーウィヤ・イブン・クッラは、深く心を動かされてその節回しをまねたいと思ったが、人々が周りに集まってしまうことを恐れたのである。

その同じ日、彼は何年も自分を苦しめてきたマッカの人々を赦された。勝利章の朗唱と広い赦しは、本当の勝利とは**心の勝利**——アッラーの前にへりくだり、人々に寛大な心——であることを示している。

第 45 章：その涙

第 45 章は**アッラーの使徒 ﷺ の涙**を描いている。彼の涙は大声で泣くものではなく、へりくだった心の涙であった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 321 番

حَدَّثَنَا سُوَيْدُ بْنُ نَصْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ حَمَّادِ بْنِ سَلَمَةَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ مُطَرِّفٍ وَهُوَ ابْنُ عَبْدِ اللهِ بْنِ الشِّخِّيرِ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ: أَتَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ يُصَلِّي، وَلِجَوْفِهِ أَزِيزٌ كَأَزِيزِ الْمِرْجَلِ مِنَ الْبُكَاءِ.

日本語訳：

ムタッリフ・イブン・アブドゥッラー・イブン・シッヒールは、父 رضى الله عنه からこう伝えている。「**私がアッラーの使徒 ﷺ のもとに行くと、彼は礼拝しておられ、その胸からは泣くために、煮えたぎる鍋のような音が聞こえていた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：スワイド・イブン・ナスル ← アブドゥッラー・イブン・ムバーラク ← ハンマード・イブン・サラマ ← サービト・ブナーニー ← ムタッリフ・イブン・アブドゥッラー・イブン・シッヒール ← アブドゥッラー・イブン・シッヒール（その父） رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 321 番に収録。『スナン・ナサーイー』第 1214 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:321

このハディースからの教訓

煮えたぎる鍋のような音とは、胸の内にこらえられた涙を表している。彼は**アッラーへの畏れと愛**のために礼拝の中で泣かれた。

彼は有名なハディースで、審判の日にアッラーの陰に守られる七種類の人の中に、**ひとりでアッラーを思い、涙を流す人**がいると言われた。

「私に読んで聞かせなさい」

アッラーの使徒 ﷺ がある教友にクルアーンを読んで聞かせるよう頼まれたとき、とても心を打つ出来事が起こった。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 322 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ هِشَامٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنِ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ عُبَيْدَةَ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ مَسْعُودٍ، قَالَ: قَالَ لِي رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: اقْرَأْ عَلَيَّ فَقُلْتُ: يَا رَسُولَ اللهِ، أَقْرَأُ عَلَيْكَ وَعَلَيْكَ أُنْزِلَ، قَالَ: إِنِّي أُحِبُّ أَنْ أَسْمَعَهُ

مِنْ غَيْرِي، فَقَرَأْتُ سُورَةَ النِّسَاءِ، حَتَّى بَلَغْتُ وَجِئْنَا بِكَ عَلَى هَؤُلَاءِ شَهِيدًا، قَالَ: فَرَأَيْتُ عَيْنَيْ رَسُولِ اللهِ تَهْمِلَانِ.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は私に言われた。「私にクルアーンを読んで聞かせなさい。」私は言った。「アッラーの使徒よ、あなたに啓示されたものを、私があなたに読むのですか。」彼は言われた。「私はほかの人から聞くのが好きなのだ。」そこで私は婦人章を読み、「またあなた（ムハンマド）を，かれらの悪に対する証人とする時は，どんな（有様）であろうか」という節にさしかかった。**すると、アッラーの使徒 ﷺ の両目から涙があふれているのが見えた。**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← ムアーウィヤ・イブン・ヒシャーム ← スフヤーン・サウリー ← アアマシュ ← イブラーヒーム・ナハイー ← アビーダ・サルマーニー ← アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 322 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 4582 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:322

このハディースからの教訓

彼を泣かせた節はこれである。「**またあなた（ムハンマド）を，かれらの悪に対する証人とする時は，どんな（有様）であろうか**」（婦人章 4:41）— タフスィール・イブン・カスィール 4:41。

彼は、自分が**ウンマに対する証人**となる審判の日を思い描いて泣かれた。その涙は、私たちへの**愛と心配**から生まれたものである。それは、アッラーが述べられた性質——私たちの苦しみに心を痛められること——と一致している。

このハディースはまた、**クルアーンを聞く作法**を教えている。啓示を受けた方ご自身が、ほかの人から聞くことを好まれた。注意深く朗唱を聞くことは、自分で読むのとは違う形で心を開くことがある。

イブン・マスウードは、クルアーンの朗唱に最もすぐれた教友の一人であった。彼はかつて、クルアーンを下されたときのように新鮮に読みたい者は、イブン・ウンム・アブド、すなわちイブン・マスウードのように読みなさいと言われた。だから彼の頼みは、教友への**敬意**でもあったのである。

慈悲の涙

彼はまた、被造物への**慈悲**から泣かれた。アブドゥッラー・イブン・アムル رضى الله عنهما は、日食が起こったとき、彼がとても長い起立、ルクーウ、サジダで礼拝され、泣きながらこう祈られたと語っている。**「主よ、私が彼らの中にいる限り彼らを罰しないと約束されたではありませんか。彼らが赦しを求めている限り彼らを罰しないと約束されたではありませんか」**（『シャマーイル』323）— ハサン。『サヒーフ・ブハーリー』1044 にもある。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、彼が死にかけている孫娘を抱き、その子が彼の腕の中で息を引き取ったと語っている。ウンム・アイマンが泣くと、彼は言われた。**「これは（禁じられた）泣き方ではない。これは慈悲である。信仰者はどのような状態でも善の中にある。アッラーを称えているうちに、その魂が体の中から引き出されるのだ」**（『シャマーイル』324）— 伝承経路はハサン。

アナス رضى الله عنه は、彼が娘の墓のそばに座り、**涙を流しておられる**のを見た（『シャマーイル』326）— 伝承経路はハサン。『サヒーフ・ブハーリー』1285 にもある。そして息子イブラーヒームが亡くなったとき、彼は言われた。「目は涙を流し、心は悲しむ。しかし私たちは、主が喜ばれること以外は口にしない」（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。

> **注：ウスマーン・イブン・マズウーンへの口づけ（『シャマーイル』325）**
>
> 彼がウスマーン・イブン・マズウーンの亡くなった後に泣きながら口づけされたというアーイシャの伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。愛する人の死に彼が泣かれたことは、上のサヒーフな伝承で確立している。

出典：
『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 325 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:325

第 46 章：その寝床

第 46 章は**アッラーの使徒 ﷺ の寝床**を描いている。とても質素な暮らしを、とても短く描いた章である。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 327 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ حُجْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ مُسْهِرٍ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَ: إِنَّمَا كَانَ فِرَاشُ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، الَّذِي يَنَامُ عَلَيْهِ مِنْ أَدَمٍ، حَشْوُهُ لِيفٌ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が眠っておられた寝床は、なめし革で作られ、中身はヤシの繊維であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アリー・イブン・フジュル ← アリー・イブン・ムスヒル ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父） ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 327 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6456 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:327

このハディースからの教訓

一国の指導者が、**ヤシの繊維を詰めた革**の上で眠っておられた。柔らかい寝具も、高い寝台もなかった。別の伝承では、ウマル رضى الله عنه が彼のわき腹についた敷物の

跡を見て泣くと、彼は「彼らにはこの世が、私たちには来世がある。それで満足できないのか」と尋ねられた。

注：四つ折りにした寝具（『シャマーイル』328）

ハフサは、彼の寝具は二つ折りにした粗い毛織物であったと語った。ある夜、もっと柔らかくしようと四つ折りにしたところ、翌朝彼は、その柔らかさのせいで夜の礼拝ができなかったので元に戻すよう言われた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。彼の寝床の質素さは、上のサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 328 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:328

この質素さは、**できなかった**からではなく、**選んだ**からである。彼はぜいたくに暮らすこともできたが、この世に執着しないことを選ばれた。あまりに快適な寝床は、夜に起きることを重くしてしまう。

今日、多くの人が寝具や家具に多くのお金をかけている。快適に眠ることに問題はないが、このスンナは、**行き過ぎない**こと、そしてこの世の快適さのためにファジュルや夜の礼拝に起きることを怠らないよう、私たちに思い出させてくれる。

第 47 章：その謙虚さ

第 47 章は**アッラーの使徒 ﷺ の謙虚さ**を描いている。それは、ウンマが彼を度を越してほめないようにという彼の言葉で始まる。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 329 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، وَسَعِيدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْمَخْزُومِيُّ، وَغَيْرُ وَاحِدٍ، قَالُوا: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ بْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عُبَيْدِ اللهِ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، عَنْ عُمَرَ بْنِ الْخَطَّابِ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: لا تُطْرُونِي كَمَا أَطْرَتِ النَّصَارَى ابْنَ مَرْيَمَ، إِنَّمَا أَنَا عَبْدٌ، فَقُولُوا: عَبْدُ اللهِ وَرَسُولُهُ.

日本語訳：

ウマル・イブン・ハッターブ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**キリスト教徒がマルヤムの子（イーサー）を度を越してほめたたえたように、私をほめたたえてはならない。私はしもべにすぎない。だから『アッラーのしもべであり、その使徒』と言いなさい。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ と サイード・イブン・アブドゥッラフマーン・マフズーミー ← スフヤーン・イブン・ウヤイナ ← ズフリー ← ウバイドゥッラー・イブン・アブドゥッラー・イブン・ウトバ ← イブン・アッバース ← ウマル・イブン・ハッターブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 329 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3445 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:329

このハディースからの教訓

この言葉は**タウヒードを守る**ためにとても大切である。キリスト教徒は預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ をほめたたえるあまり、神の子と見なすに至った。アッラーの使徒 ﷺ はその扉を閉ざされた。彼は**アッラーのしもべであり、その使徒**である。彼への私たちの最も深い愛も、彼をしもべの地位を超えて高めてはならない。

「**アッラーのしもべ**」という呼び名は、最も尊い呼び名である。アッラーは最も大きな出来事において彼をこの呼び名で呼ばれた。夜の旅（「そのしもべを夜間に旅させた」）と、クルアーンの啓示（「そのしもべに識別を下された」）である。

謙虚さとはまた、誰からでも**真理を受け入れる**こと、そして他人を見下さないことでもある。彼は、アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは高められると言われた。地位が高くなるほど、人はいっそう謙虚であることが必要なのである。

ふつうの人々とともに

彼の謙虚さは、**ふつうの人々**との交わり方に表れていた。アナス رضى الله عنه は、（理解力の少し劣る）ある女性が来て「あなたに用があります」と言ったと語っている。

彼は言われた。**「マディーナのどの道でも好きなところに座りなさい。私があなたと一緒に座ろう」**（『シャマーイル』330）— 伝承経路はサヒーフ。

彼はまた、出される食事が大麦のパンと匂いの変わった油だけであっても**招待に応じられた**。そして亡くなられたとき、食べ物を買うために彼の鎧はまだユダヤ人のもとに質として入っていた（『シャマーイル』332）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』2509 にもある。彼は言われた。「羊の足を贈られれば私は受け取り、羊の足の食事に招かれれば私は応じる」（『シャマーイル』336）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5178 にもある。

ジャービル رضى الله عنه は、自分が病気のとき、彼がラバにも馬にも乗らず**歩いて**見舞いに来られたと言った（『シャマーイル』337）— ハサン。ユースフ・イブン・アブドゥッラー・イブン・サラームは言った。「アッラーの使徒 ﷺ は私にユースフと名づけ、**私をひざに座らせて頭をなでてくださった**」（『シャマーイル』338）— 伝承経路はサヒーフ。そしてアナスは、彼を食事に招いた仕立屋の話を繰り返している（『シャマーイル』340）— サヒーフ。

> **注：謙虚さについての弱い伝承（『シャマーイル』331、333、339）**
>
> 彼が病人を見舞い、葬儀に参列し、ロバに乗り、奴隷の招待に応じられたという伝承（第 331 番）と、四ディルハムにも満たない布を掛けた古い鞍で巡礼をされ、「アッラーよ、見せびらかしも評判も求めない巡礼としてください」と祈られたという伝承（第 333、339 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、いずれも**伝承経路が弱い**。しかし彼の謙虚さの意味は、多くのサヒーフな伝承で確立している。
>
> **出典：**
>
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 331、333、339 番。 sunnah.com/shamail:331

人に立たれることを好まず

アナス رضى الله عنه は言った。**「彼ら（教友たち）にとって、アッラーの使徒 ﷺ ほど愛しい人はいなかった。それでも彼を見ても彼らは立ち上がらなかった。彼がそれを好まれないことを知っていたからである」**（『シャマーイル』334）— サヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』2754 にもある。

彼は、民が直立して迎える王のように崇められることを望まれなかった。教友たちは儀式によってではなく、**従い、愛すること**によって彼を敬った。学者たちは、崇めるために立つこと（好まれない）と、訪れた客を迎えるために立ち上がること（許される）を区別している。

注：集まりでの彼についてのヒンドの描写（『シャマーイル』335）

ハサン・イブン・アリーは、おじのヒンド・イブン・アビー・ハーラに、集まりでのアッラーの使徒 ﷺ の様子を尋ねた。ヒンドは、彼が空いている所ならどこにでも座り、集まりの一人一人にそれぞれの心配りを与え、誰も自分より他の人が重んじられていると感じなかったと述べた。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**であるが、その意味の多くはほかの伝承で支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 335 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:335

今日、このスンナは指導者や教師や尊敬される人々によって生かすことができる。**特別扱いを求めず**、人々の中に座り、周りの人が気楽に過ごせるようにすることである。本当の威厳は儀式からではなく、人柄から生まれる。

家での彼

アッラーの使徒 ﷺ は家ではどのようであったのか。アーイシャ رضى الله عنها はとても素朴な姿を描いている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 341 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ صَالِحٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ صَالِحٍ، عَنْ يَحْيَى بْنِ سَعِيدٍ، عَنْ عَمْرَةَ، قَالَتْ: قِيلَ لِعَائِشَةَ: مَاذَا كَانَ يَعْمَلُ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم فِي بَيْتِهِ؟ قَالَتْ: كَانَ بَشَرًا مِنَ الْبَشَرِ، يَفْلِي ثَوْبَهُ، وَيَحْلُبُ شَاتَهُ، وَيَخْدُمُ نَفْسَهُ.

日本語訳：

アムラは言った。アーイシャ رضى الله عنها は尋ねられた。「アッラーの使徒 ﷺ は家で何をしておられましたか。」彼女は答えた。「**彼はほかの人と同じ人間でした。自分の衣服をきれいにし、羊の乳を搾り、身の回りのことはご自分でなさいました。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブドゥッラー・イブン・サーリフ ← ムアーウィヤ・イブン・サーリフ ← ヤフヤー・イブン・サイード・アンサーリー ← アムラ・ビント・アブドゥッラフマーン ← 信仰者たちの母アーイシャ。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 341 番に収録。

判定： 伝承経路はハサン（良好） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:341

このハディースからの教訓

アッラーの最も尊い使徒が、**自分で家の仕事をされた**。衣服をきれいにし、羊の乳を搾り、身の回りのことをご自分でされた。ブハーリーの伝承でアーイシャは言った。「彼は**家族の手伝い**に忙しくしておられ、礼拝の時刻になると、礼拝に出て行かれた」（『サヒーフ・ブハーリー』676）。

第 48 章：その人柄

第 48 章は**アッラーの使徒 ﷺ の人柄**を描いている。最も身近な証人は、幼いころから彼に仕えたアナス・イブン・マーリクである。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 344 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا جَعْفَرُ بْنُ سُلَيْمَانَ الضُّبَعِيُّ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: خَدَمْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم عَشْرَ سِنِينَ، فَمَا قَالَ لِي أُفًّ قَطُّ، وَمَا قَالَ لِشَيْءٍ صَنَعْتُهُ، لِمَ صَنَعْتَهُ، وَلا لِشَيْءٍ تَرَكْتُهُ، لِمَ تَرَكْتَهُ؟ وَكَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، مِنْ أَحْسَنِ النَّاسِ خُلُقًا، وَلا مَسَسْتُ خَزًّا وَلا حَرِيرًا، وَلا شَيْئًا كَانَ

أَلْيَنَ مِنْ كَفِّ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، وَلا شَمَمْتُ مِسْكًا قَطُّ، وَلا عِطْرًا كَانَ أَطْيَبَ مِنْ عَرَقِ رسول الله صلى الله عليه وسلم.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**私は十年間アッラーの使徒 ﷺ にお仕えしたが、彼は一度も私に『ちぇっ』とさえ言われなかった。私がしたことについて『なぜしたのか』と言われたことも、しなかったことについて『なぜしなかったのか』と言われたこともなかった。**アッラーの使徒 ﷺ は人々の中で最も人柄の優れた方であった。私は、アッラーの使徒 ﷺ の手のひらより柔らかい絹にも何にも触れたことがなく、アッラーの使徒 ﷺ の汗より良い香りのじゃこうにも香料にもかいだことがない。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ジャアファル・イブン・スライマーン・ドゥバイー ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 344 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2015 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:344

このハディースからの教訓

十年は長い年月であり、少年なら多くの失敗をするはずである。それでも彼は**一度も「ちぇっ」と言われず**、「なぜそうしたのか」「なぜしなかったのか」と問われなかった。彼は怒りや非難ではなく、**忍耐と愛情**によって育てられたのである。

アナスはまた、彼の**手の柔らかさと汗の香り**について述べている。これは単なる体の描写ではなく、彼の人格全体——外も内も——が美しく、心地よいものであったことを表している。親、教師、雇い主は、彼が自分の世話する人々にどう接されたかに倣うことができる。

注：人柄についての弱い伝承（『シャマーイル』342〜343）

彼が教友たちの話題に合わせて、この世のこと、来世のこと、食べ物のことを語り合われたというザイド・イブン・サービトの伝承（第 342 番）と、彼が自分にあまりに心を配ってくださったので、自分こそ最良の教友だと思ったというアムル・イブン・アースの伝承（第 343 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 342〜343 番。 sunnah.com/shamail:342

アッラーご自身が彼の人柄をほめておられる。**「本当にあなたは，崇高な徳性を備えている」**（筆章 68:4）。彼はまた、自分は**崇高な人柄を完成させる**ために遣わされたと言われた。だから人柄は宗教の飾りにすぎないのではなく、預言者の使命の目的の一部なのである。

赦し、報復しない

アーイシャ رضى الله عنها は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ は下品な言葉を使わず、わざと下品なことを言わず、市場で大声を上げず、悪に悪で報いることなく、赦し、許しておられた」**（『シャマーイル』346）— 伝承経路はサヒーフ。『ジャーミウ・ティルミズィー』2016 にもある。

彼女はまた言った。**「アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの道で戦うとき以外、手で何かを打たれたことはなく、仕える者も女性も一度も打たれなかった」**（『シャマーイル』347）— サヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』2328 にもある。これは、イスラームが妻や働く人への暴力を許しているという考えを完全に否定している。

アーイシャは付け加えた。「私は、アッラーの使徒 ﷺ が自分に加えられた不正に報復されるのを見たことがない。**アッラーの禁止が破られない限り**は。しかしアッラーの禁止が破られると、彼はそのために誰よりも怒られた。そして二つの事柄から選ぶよう示されると、それが罪でない限り、より容易なほうを選ばれた」（『シャマーイル』348）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』3560 にもある。

彼の赦しの最も大きな例は、**マッカ征服の日**、何年も敵対してきたマッカの人々に安全と赦しを与えられたことである。これこそ心をつかむ人柄であり、その後、人々は群れをなしてイスラームに入ったのである。

すべての人に優しく

アーイシャ رضى الله عنها は、ある男が彼に会う許しを求めたと語っている。彼は言われた。「一族の中のひどい兄弟だ。」しかしその男が入って来ると、彼は**穏やかに語りかけられた**。男が去った後アーイシャが尋ねると、彼は言われた。「**アーイシャよ、人々の中で最も悪い者とは、その悪を恐れて人々から避けられる者である**」（『シャマーイル』349）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』6032 にもある。

このハディースは、**ムダーラ**（善のための穏やかさ）と**ムダーハナ**（宗教を犠牲にするへつらい）の違いを教えている。彼は性格の悪い男に優しく接し、その害を避け、もしかするとその心を和らげようとされたが、真理については少しも妥協されなかった。

> **注：優しさについての弱い伝承（『シャマーイル』345、350）**
>
> サフランの跡のついた男に彼が直接注意されることはまれで、ほかの人に伝えるよう頼まれたというアナスの伝承（第 345 番）と、集まりでの彼の人柄についてのフサインの長い描写（第 350 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。
>
> **出典：**
>
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 345、350 番。 sunnah.com/shamail:345

彼の優しさはアッラーによっても記されている。「**あなたがもしも薄情で心が荒々しかったならば，かれらはあなたの周囲から離れ去ったであろう**」（イムラーン家章 3:159）。**優しさは人を近づけ、荒々しさは人を遠ざける。**

「いいえ」と言わない方

本書の題名はこの章から取られている。アッラーの使徒 ﷺ の**寛大さ**を、ジャービル رضى الله عنه は短い一文で描いている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 351 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ الْمُنْكَدِرِ، قَالَ: سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللهِ، يَقُولُ: مَا سُئِلَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، شَيْئًا قَطُّ فَقَالَ: لا.

日本語訳：

ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、何かを求められて『いいえ』と言われたことが一度もなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← スフヤーン・サウリー ← ムハンマド・イブン・ムンカディル ← ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 351 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6034 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:351

このハディースからの教訓

何か持っておられれば、彼はそれを与えられた。持っておられなければ、**約束するか祈られた**が、冷たく断ることはなかった。イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は人々の中で最も善において寛大な方であり、ジブリールが彼に会ってクルアーンを読み合わせたラマダーンに最も寛大であった。そのときの彼は、吹きわたる風よりも寛大であった**」（『シャマーイル』352）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』6 にもある。

アナス رضى الله عنه は言った。「預言者 ﷺ は明日のために何かをため込まれることがなかった」（『シャマーイル』353）— ハサン。アーイシャ رضى الله عنها は言った。「預言者 ﷺ は贈り物を受け取り、それにお返しをされた」（『シャマーイル』356）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』2585 にもある。贈り物にお返しをすることは、愛情を深め、贈った人の心を大切にすることである。

注：寛大さについての弱い伝承（『シャマーイル』354〜355）

求めてきた男に、預言者の名でつけ買いをするよう言われたというウマルの伝承（第 354 番）と、ナツメヤシの実とキュウリの贈り物のお返しに装身具を与えられたというルバイイウの伝承（第 355 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 354〜355 番。 sunnah.com/shamail:354

私たちは彼のように与えることはできないかもしれないが、その**心**に倣うことはできる。求める人を冷たく追い返さないこと、少しでも与えること、そして特にラマダーンに施しを増やすことである。

彼の寛大さは**アッラーへの確信**から生まれていた。施しは財を減らさず、糧はアッラーの手にあると確信しておられたので、与えることで貧しくなることを恐れられなかった。この確信が、彼の手をいつも開かせていたのである。

第 49 章：その恥じらい

第 49 章は**アッラーの使徒 ﷺ の恥じらい**を描いている。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 357 番

حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو دَاوُدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ قَتَادَةَ، قَالَ: سَمِعْتُ عَبْدَ اللهِ بْنَ أَبِي عُتْبَةَ، يُحَدِّثُ عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ، قَالَ: كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَشَدَّ حَيَاءً مِنَ الْعَذْرَاءِ فِي خِدْرِهَا، وَكَانَ إِذَا كَرِهَ شَيْئًا عَرَفْنَاهُ فِي وَجْهِهِ.

日本語訳：

アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ は、とばりの中の乙女よりも恥じらい深い方であった。何かを好まれないときには、私たちはそれをそのお顔から知ることができた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：マフムード・イブン・ガイラーン ← アブー・ダーウード・タヤーリスィー ← シュウバ・イブン・ハッジャージュ ← カターダ

← アブドゥッラー・イブン・アビー・ウトバ ← アブー・サイード・フドリー رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 357 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3562 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:357

このハディースからの教訓

とばりの中に暮らす乙女は、ふつうとても恥ずかしがりである。しかしアッラーの使徒 ﷺ——指導者であり、指揮官であり、教師であった方——はそれ以上に恥じらい深かった。この恥じらいは、彼が真理を伝えることを妨げはしなかったが、**ふさわしくない言葉や行い**から彼を遠ざけた。

また、彼が**何かを好まれないとき**、教友たちはそれを彼の顔から知ることができた。彼は叱る必要がなかった。顔色が変わるだけで十分な戒めとなったのである。彼は言われた。「恥じらいは信仰の一部である。」

注：家庭での恥じらい（『シャマーイル』358）

彼と妻とのあいだで守られた恥じらいについてのアーイシャの伝承は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。彼の恥じらいそのものは、上のアブー・サイードのサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 358 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 sunnah.com/shamail:358

本当の恥じらいは、人に対してよりも**アッラーに対して恥じる**心を生む。それは、ひとりのときでも視線、舌、行いを守るよう人を動かす。アッラーが常に見ておられることを知っているからである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：197 / 238

教訓と結び

『シャマーイル』の第 41〜49 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**日々の崇拝と人柄**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
41〜42. ドゥハーと家での礼拝	ドゥハー四ラクア、任意の礼拝は家で
43. 断食	シャアバーン、月曜・木曜、アーシューラー、少なくても続ける
44. 朗唱	タルティール、マッド、一節ごとに区切る
45. 涙	アッラーのための涙、慈悲の涙
46〜47. 寝床と謙虚さ	アッラーのしもべであり使徒、家族を手伝う
48. 人柄	「ちぇっ」と言わない、赦す、寛大である
49. 恥じらい	とばりの中の乙女よりも恥じらい深い

私たちへのメッセージ

アッラーの使徒 ﷺ の人柄は、ただ感心するためではなく、**少しずつ実践する**ためのものである。本書から一つの行いを選ぼう。ドゥハーの二ラクア、月曜日の断食、家事の手伝い、子どもに「ちぇっ」と言わないこと。そしてそれを、少なくても続けよう。アッラーが、私たちを預言者が誇りに思うウンマとしてくださいますように。

本書は最終部である**第六部**で完結する。その瀉血（ヒジャーマ）、御名、暮らしの糧、年齢、逝去、遺産、そして夢で彼を見ることなど、『シャマーイル』の結びの章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

付録：崇拝と人柄のチェックリスト

本書で取り上げたアッラーの使徒 ﷺ の崇拝と人柄を、出典とともにまとめた。家族みんなの毎週の目安として使うことができる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

実践	出典
ドゥハーを二〜四ラクア礼拝する	『サヒーフ・ムスリム』719
任意の礼拝を家で行う	『サヒーフ・ブハーリー』432
月曜日と木曜日に断食する	『ジャーミウ・ティルミズィー』745
毎月三日断食する	『シャマーイル』303
シャアバーンに多く断食する	『サヒーフ・ブハーリー』1969
アーシューラーに断食する	『サヒーフ・ブハーリー』2002
少なくても行いを続ける	『サヒーフ・ブハーリー』6464
タルティールで一節ごとに区切って読む	『シャマーイル』315
ほかの人のクルアーンの朗唱を聞く	『サヒーフ・ブハーリー』4582
家事を手伝う	『サヒーフ・ブハーリー』676
「ちぇっ」と言わず、責めない	『サヒーフ・ブハーリー』6038
赦し、より容易なほうを選ぶ	『サヒーフ・ブハーリー』3560
求める人を追い返さない	『サヒーフ・ブハーリー』6034
贈り物を受け取り、お返しをする	『サヒーフ・ブハーリー』2585

今週は、崇拝から一つ、人柄から一つを選んで始めよう。それが習慣になったら、次のものを加えよう。これこそ、アッラーに最も愛される行いは少なくても続けられるもの、という彼の言葉の意味である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第五部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（雌牛章 2:185、婦人章 4:41、悔悟章 9:128、夜の旅章 17:110、衣を纏う者章 73:4）。tafsir.app/ibn-katheer/9/128

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 41〜49 章（ハディース第 287〜358 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』6、432、676、1044、1176、1285、1303、1969、2002、2509、2585、3445、3560、3562、4582、4835、5045、5178、6032、6034、6038、6456、6464。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』719、2328。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』478、745、747、768、2015、2016、2754、2856、『スナン・ナサーイー』1214、『スナン・イブン・マージャ』1378。sunnah.com

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

Wikipedia, “Duha prayer”. en.wikipedia.org/wiki/Duha_prayer

Wikipedia, “Day of Ashura”. en.wikipedia.org/wiki/Day_of_Ashura

Wikipedia, “Tajwid”. en.wikipedia.org/wiki/Tajwid

第六部

ムスハフの一葉のように

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 50〜56 章

吸い玉療法、御名、暮らし、年齢、ご逝去、遺産、そして夢で彼を見ること

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムスハフの一葉のように

これまでの五部では、アッラーの使徒 ﷺ のお姿、衣服、食卓、ほほえみ、眠り、崇拝、そして人柄を知った。この第六部は**最終部**である。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』の最後の章、すなわち第 50 章から第 56 章を扱う。吸い玉療法、御名、暮らし、年齢、ご逝去、遺産、そして夢で彼を見ることである。

これらの章には、sunnah.com に示されたとおり **55 の伝承**がある。そのうち二つは伝承者についての注記にすぎないため、判定の対象は **53 の伝承**である。これまでと同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

本書は、これまでとは違うかたちで胸を打つ。**吸い玉療法を受け、施術者に公正な報酬を払われた**預言者、その家族が一か月かまどに火をおこさなかった預言者、六十三歳で**妻の胸にもたれて**亡くなられ、**ディーナール金貨一枚も遺されなかった**預言者である。

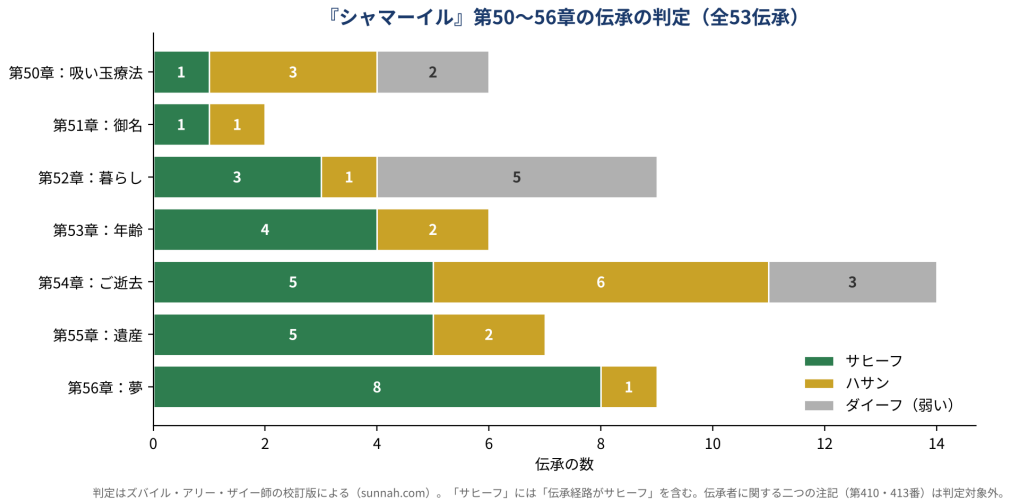


図 6：『シャマーイル』第 50〜56 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版による。判定された 53 の伝承のうち 43 がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご連絡いただければ幸いである。

ムハンマドは一人の使徒に過ぎない

この最終部は、アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられた日にアブー・バクル رضى الله عنه が読み上げた節で始まる。

イムラーン家章 3:144

وَمَا مُحَمَّدٌ إِلَّا رَسُولٌ قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلِهِ ٱلرُّسُلُ ۚ أَفَإِيْن مَّاتَ أَوْ قُتِلَ ٱنقَلَبْتُمْ عَلَىٰٓ أَعْقَٰبِكُمْ ۚ وَمَن يَنقَلِبْ عَلَىٰ عَقِبَيْهِ فَلَن يَضُرَّ ٱللَّهَ شَيْـًٔا ۗ وَسَيَجْزِى ٱللَّهُ ٱلشَّٰكِرِينَ ﴿١٤٤﴾

ムハンマドは，一人の使徒に過ぎない。使徒たちはかれの前に逝った。もしかれが死ぬか， または殺されたら，あなたがたは踵を返すのか。誰が踵を返そうとも，少しもアッラーを損うことは出来ない。だがアッラーは，感謝（してかれに仕える）者に報われる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/3:144

この節は、使徒が殺されたという偽りの知らせが広まったウフドの戦いの後に下された。イブン・カスィールは、アッラーが信仰者に、**この宗教はたとえ使徒であっても一人の人間の命に依存するものではない**と教えられたと説明している（タフスィール・イブン・カスィール 3:144）。

八年後、同じ節がウンマ全体を落ち着かせた。アッラーの使徒 ﷺ が本当に亡くなられ、ウマル رضى الله عنه がそれを受け入れられなかったとき、アブー・バクルは立ち上がって言った。「ムハンマドを崇拝していた者よ、ムハンマドは亡くなられた。アッラーを崇拝していた者よ、アッラーは永遠に生きておられ、死ぬことはない。」そしてこの節を読み上げた（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

これが本書のテーマである。アッラーの使徒 ﷺ は**まったくの人間**であられた。病を得、空腹に耐え、ついに亡くなられた。しかし彼はまた**アッラーの使徒**でもあられた。

第 50 章：吸い玉療法

『シャマーイル』の第 50 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の吸い玉療法**」と題されている。六つの伝承があり、サヒーフが一つ、ハサンが三つ、弱いものが二つである（図 6）。吸い玉療法（ヒジャーマ）とは、皮膚にカップを当てて血を吸い出す伝統的な治療法である。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 359 番

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ حُجْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ جَعْفَرٍ، عَنْ حُمَيْدٍ، قَالَ: سُئِلَ أَنَسُ بْنُ مَالِكٍ عَنْ كَسْبِ الْحَجَّامِ، فَقَالَ: احْتَجَمَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، حَجَمَهُ أَبُو طَيْبَةَ، فَأَمَرَ لَهُ بِصَاعَيْنِ مِنْ طَعَامٍ، وَكَلَّمَ أَهْلَهُ فَوَضَعُوا عَنْهُ مِنْ خَرَاجِهِ، وَقَالَ: إِنَّ أَفْضَلَ مَا تَدَاوَيْتُمْ بِهِ الْحِجَامَةُ، أَوْ إِنَّ مِنْ أَمْثَلِ دَوَائِكُمُ الْحِجَامَةَ.

日本語訳：

フマイドは言った。アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は、吸い玉療法をする者の稼ぎについて尋ねられ、こう答えた。「**アッラーの使徒 ﷺ は吸い玉療法（ヒジャーマ）を受けられた。施術したのはアブー・タイバであった。彼はアブー・タイバに二サーウの食糧を与えるよう命じ、その主人たちに話をされたので、彼らは彼に課していた税を軽くした。**そして彼は言われた。あなたがたが用いる治療のうち最も優れたものは吸い玉療法である——あるいは、あなたがたの治療のうちで最も良いものの一つは吸い玉療法である、と。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← フマイド・タウィール ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 359 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5696 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:359

このハディースからの教訓

このハディースは、アッラーの使徒 ﷺ が、アッラーに最も深く信頼を寄せた預言者でありながら、**治療を受けられた**ことを示している。治療はアッラーへの信頼（タワックル）と矛盾しない。それは彼が教えられた、手段を尽くすことの一部である。

また、吸い玉療法を仕事とする奴隷であったアブー・タイバに対する彼の**公正さと思いやり**にも注目したい。彼は二サーウの食糧を報酬として与え、さらにその主人たちに話をして税を軽くさせた。報酬を払うだけでなく、**弱い立場の働き手を守られた**のである。

この章のハサンの伝承も同じ意味を裏づけている。アリー رضى الله عنه は、彼が吸い玉療法を受け、施術者に報酬を払うよう自分に命じられたと伝えている（『シャマーイル』360）。イブン・アッバース رضى الله عنهما は、彼が首の両側の血管と両肩の間に施術を受け、施術者に報酬を与えられたと述べ、**「もしそれが禁じられていたなら、与えられなかったであろう」**と言った（『シャマーイル』361、『サヒーフ・ブハーリー』2103）。

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、彼が施術者に税はいくらかと尋ね、三サーウと聞くと**一サーウ減らし**、報酬を与えられたと伝えている（『シャマーイル』362）— ハサン。これは、私たちに仕える人々の暮らしの重荷に心を配ることを教えている。

吸い玉療法：スンナと現代の研究

彼はイフラームの状態でも吸い玉療法を受けられた。イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。「アッラーの使徒 ﷺ はイフラームの状態で吸い玉療法を受けられた」（『サヒーフ・ブハーリー』1835）。吸い玉療法は、家でも旅先でも、彼の暮らしの中でなじみのある治療だったのである。

> **注：吸い玉療法についての弱い伝承（『シャマーイル』363〜364）**
>
> 毎月**十七日、十九日、二十一日**に吸い玉療法を受けられたというアナスの伝承（第 363 番）と、マラルでイフラームの状態のとき足の甲に施術を受けられたという伝承（第 364 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、いずれも**伝承経路が弱い**。したがって、これらの伝承をもとに特定の日付を確かなスンナとすることはしない。

出典：
『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 363〜364 番。 sunnah.com/shamail:363

現代医学は吸い玉療法をどう見ているだろうか。湿式吸い玉療法に関する 14 のランダム化臨床試験を評価した系統的レビューは、腰痛や首の痛みなど筋肉や関節の痛みについて**有望な根拠**を見いだした。しかし研究者たちは、**より質の高い試験がなお必要である**と強調している（Al-Bedah ほか、2016 年）。

別の総説は、吸い玉療法の種類と、あざ、傷、衛生が不十分な場合の感染などの**副作用**を整理している（Aboushanab・AlSanad、2018 年）。施術を望む人は**資格のある施術者**を選び、持病がある場合や薬を服用している場合は医師に相談すべきである。

この章のより大きな教訓は、**治療に対する姿勢**である。彼は当時知られていた治療を用い、施術者に公正に報い、こう言われた。「アッラーは、治療法を下されない病を一つも下されなかった」（『サヒーフ・ブハーリー』5678）。イスラームは、アッラーに信頼を寄せつつ、薬と医学を求めることを勧めている。

第 51 章：その御名

第 51 章は**アッラーの使徒 ﷺ の御名**を集めている。サヒーフが一つ、ハサンが一つの、二つの伝承がある。これらの御名は単なる呼び名ではなく、彼の**使命と地位**を表している。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 365 番

عن سَعِيدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْمَخْزُومِيُّ، وَغَيْرُ وَاحِدٍ، قَالُوا: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ جُبَيْرِ بْنِ مُطْعِمٍ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: إِنَّ لِي أَسْمَاءً، أَنَا مُحَمَّدٌ، وَأَنَا أَحْمَدُ، وَأَنَا الْمَاحِي الَّذِي يَمْحُو اللَّهُ بِيَ الْكُفْرَ، وَأَنَا الْحَاشِرُ الَّذِي يُحْشَرُ النَّاسُ عَلَى قَدَمِي، وَأَنَا الْعَاقِبُ الَّذِي لَيْسَ بَعْدَهُ نَبِيٌّ.

日本語訳：
ムハンマド・イブン・ジュバイル・イブン・ムトイムは、父 رضى الله عنه からこう伝えている。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**私にはいくつかの名がある。私はムハンマ**

ド、私はアフマド、私はアッラーが私によって不信仰を消し去られるマーヒー（消し去る者）、私は人々が私の後ろに集められるハーシル（集める者）、そして私は後にもはや預言者のいないアーキブ（最後の者）である。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：サイード・イブン・アブドゥッラフマーン・マフズーミー ← スフヤーン・イブン・ウヤイナ ← ズフリー ← ムハンマド・イブン・ジュバイル・イブン・ムトイム ← ジュバイル・イブン・ムトイム（その父）رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 365 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3532 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:365

このハディースからの教訓

ムハンマドは「多くほめたたえられる者」、**アフマド**は「アッラーを最もよくほめたたえる者」を意味する。アフマドという名は、預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がもたらした吉報としてクルアーンに記されている。

戦列章 61:6

وَإِذْ قَالَ عِيسَى ٱبْنُ مَرْيَمَ يَٰبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ إِنِّى رَسُولُ ٱللَّهِ إِلَيْكُم مُّصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَىَّ مِنَ ٱلتَّوْرَىٰةِ وَمُبَشِّرًۢا بِرَسُولٍ يَأْتِى مِنۢ بَعْدِى ٱسْمُهُۥٓ أَحْمَدُ ۖ فَلَمَّا جَآءَهُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ قَالُوا۟ هَٰذَا سِحْرٌ مُّبِينٌ ﴿٦﴾

マルヤムの子イーサーが，こう言った時を思い起せ。「イスラエルの子孫たちよ，本当にわたしは，あなたがたに（遣わされた）アッラーの使徒で，わたしより以前に，（下されている）律法を確証し，またわたしの後に来る使徒の吉報を与える。その名前は，アハマドである。」だがかれが明証をもって現れた時，かれらは，「これは明らかに魔術である。」と言った。

日本語訳：三田了一 — quran.com/61:6

イブン・カスィールは、イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がイスラエルの子孫の最後の預言者であり、**自分の後に来る預言者**、すなわち預言者ムハンマド ﷺ の到来を告げたと説明している（タフスィール・イブン・カスィール 61:6）。

マーヒー（消し去る者）とは、アッラーが彼によって不信仰を消し去られることである。**ハーシル**（集める者）とは、復活の日に人々が彼の後に集められることである。そして**アーキブ**（最後の者）とは、彼の後にもはや預言者がいないことである。これらの御名の一つ一つが、人類の歴史と来世における彼の位置を考えさせてくれる。

慈悲の預言者、預言者たちの封緘

フザイファ رضى الله عنه は、マディーナの道の一つで預言者 ﷺ に出会い、彼がこう言われたと伝えている。「私はムハンマド、私はアフマド、私は**慈悲の預言者**、**悔悟の預言者**、私はムカッフィー（先の預言者たちに続く者）、私はハーシル、そして大いなる戦いの預言者である」（『シャマーイル』366）— 伝承経路はハサン。（『サヒーフ・ムスリム』2355）

慈悲の預言者という御名は、アッラーの次の御言葉と一致する。

預言者章 21:107

وَمَآ أَرۡسَلۡنَٰكَ إِلَّا رَحۡمَةٗ لِّلۡعَٰلَمِينَ ١٠٧

われは只万有への慈悲として，あなたを遣わしただけである。

日本語訳：三田了一 — quran.com/21:107

アーキブと**ムカッフィー**の御名は、彼をすべての預言者の封緘とする節と一致する。

部族連合章 33:40

مَّا كَانَ مُحَمَّدٌ أَبَآ أَحَدٍ مِّن رِّجَالِكُمْ وَلَٰكِن رَّسُولَ ٱللَّهِ وَخَاتَمَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمًا ﴿٤٠﴾

ムハンマドは，あなたがた男たちの誰の父親でもない。しかし，アッラーの使徒であり，また預言者たちの封緘である。本当にアッラーは全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/33:40

彼は預言者たちを、一つのれんがの場所だけが空いている美しい家にたとえ、こう言われた。「**私がそのれんがであり、私が預言者たちの封緘である**」（『サヒーフ・ブハーリー』3535）。

第 52 章：その暮らし

第 52 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の暮らし**」と題され、彼とその家族が食べ物と財産の面でどのように日々を送ったかを扱う。サヒーフが三つ、ハサンが一つ、弱いものが五つの、九つの伝承がある。

この章は、ヌウマーン・イブン・バシール رضى الله عنهما が同時代の人々をたしなめた言葉で始まる。「あなたがたは今、好きなだけ食べ、飲んでいるではないか。私はあなたがたの預言者 ﷺ を見たが、**彼は腹を満たすだけの粗末なナツメヤシの実さえ得られなかった**」（『シャマーイル』370、『サヒーフ・ムスリム』2977）— 伝承経路はサヒーフ。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 371 番

حَدَّثَنَا هَارُونُ بْنُ إِسْحَاقَ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدَةُ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: إِنْ كُنَّا آلَ مُحَمَّدٍ نَمْكُثُ شَهْرًا مَا نَسْتَوْقِدُ بِنَارٍ، إِنْ هُوَ إِلا التَّمْرُ وَالْمَاءُ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**私たちムハンマドの家族は、（煮炊きのために）火をおこすことなく一か月を過ごすことがあった。あるのはナツメヤシの実と水だけであった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ハールーン・イブン・イスハーク・ハムダーニー ← アブダ・イブン・スライマーン ← ヒシャーム・イブン・ウルワ ← ウルワ・イブン・ズバイル（その父） ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 371 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6458 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:371

このハディースからの教訓

かまどに火のない一か月とは、パンを焼くことも料理を煮ることもなかったということである。あったのは「**二つの黒いもの**」、すなわちナツメヤシの実と水だけであった。アーイシャ رضى الله عنها はおいのウルワに、アッラーの使徒 ﷺ の家々で火がおこされないまま、**二か月で三度の新月**を見たことがあったと語っている（『サヒーフ・ブハーリー』2567）。

この質素さは、彼が財産を得られなかったからではない。戦利品や贈り物は彼のもとに届いたが、彼は**それを人々に分け与えられた**。彼はこう祈られた。「**アッラーよ、ムハンマドの家族の糧を、生きるのに足るだけのものとしてください**」（『サヒーフ・ブハーリー』6460）。

この話は、恵みを正しく測るものさしを与えてくれる。満ちた台所と食べ物の詰まった冷蔵庫をもつ私たちは、**いっそう感謝し**、むだをせず、今もナツメヤシの実と水で暮らす人々を忘れないようにしたい。

アッラーのために脅かされて

彼の苦難は食べ物のことだけではなかった。マッカでの宣教の初期、彼はひとりで**脅しと迫害**に向き合われた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 376 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ، قَالَ: حَدَّثَنَا رَوْحُ بْنُ أَسْلَمَ أَبُو حَاتِمٍ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، قَالَ: حَدَّثَنَا ثَابِتٌ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: لَقَدْ أُخِفْتُ فِي اللهِ وَمَا يَخَافُ أَحَدٌ، وَلَقَدْ أُوذِيتُ فِي اللهِ وَمَا يُؤْذَى أَحَدٌ، وَلَقَدْ أَتَتْ عَلَيَّ ثَلاثُونَ مِنْ بَيْنِ لَيْلَةٍ وَيَوْمٍ، وَمَا لِي وَلِبِلالٍ طَعَامٌ يَأْكُلُهُ ذُو كَبِدٍ، إِلا شَيْءٌ يُوَارِيهِ إِبِطُ بِلالٍ.

日本語訳：

アナス رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**私は、ほかに誰も脅かされなかったときに、アッラーのために脅かされた。ほかに誰も苦しめられなかったときに、アッラーのために苦しめられた。三十の昼と夜が過ぎる間、私とビラールには、命あるものが食べられるような食べ物が何もなかった。ただビラールのわきの下に隠せるほどのわずかなものがあっただけである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブドゥッラー・イブン・アブドゥッラフマーン・ダーリミー ← ラウフ・イブン・アスラム ← ハンマード・イブン・サラマ ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 376 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2472 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:376

このハディースからの教訓

彼は三つの苦難を挙げておられる。**恐れ、迫害、そして飢え**である。そのすべてを、重荷を分かち合う信仰者がまだ少なかった時期に、「アッラーのために」耐えられた。信仰のために拷問を受けた元奴隷のビラール رضى الله عنه が、その飢えの中での彼の連れであった。

アブー・タルハ رضى الله عنه は、教友たちが空腹を訴え、それぞれ石を一つ縛りつけた腹を見せたところ、**アッラーの使徒 ﷺ は石を二つ縛りつけた腹を見せられた**と伝え

ている（『シャマーイル』372）— 伝承経路はハサン。腹に石を縛りつけるのは、アラブの人々が空腹の痛みをこらえるための方法であった。

同じことが塹壕の戦いで塹壕を掘ったときにも起きた。ジャービル رضى الله عنه は、教友たちが大きな岩に突き当たったとき、彼が立ち上がって岩を砕かれたが、**その腹には石が縛りつけられており**、彼らは三日間何も口にしていなかったと語っている（『サヒーフ・ブハーリー』4101）。

従う者たちよりも空腹な指導者——これがアッラーの使徒 ﷺ の指導であった。自分は満腹でありながら人に忍耐を求めることはなさらなかった。この教訓は、親や教師や指導者にとってとても大切である。忍耐は言葉ではなく行いで示すものである。

教友たちとともに味わった空腹

彼の空腹についての最も美しい話の一つは、『サヒーフ・ムスリム』でアブー・フライラ رضى الله عنه が伝えている。ある日、あるいはある夜、アッラーの使徒 ﷺ が外に出られると、アブー・バクルとウマル رضى الله عنهما も外にいた。彼は「この時刻にあなたがたを外に出したものは何か」と尋ねられた。二人は「空腹です、アッラーの使徒よ」と答えた。彼は言われた。**「私の魂をその御手に握られる方にかけて、あなたがたを外に出したものが、私をも外に出したのだ」**（『サヒーフ・ムスリム』2038）。

三人はアンサールのある男の家へ行った。男はナツメヤシの房を持って来て、羊を一頭ほふった。食べて飲み終えると、彼は言われた。**「あなたがたは復活の日に、必ずこの恵みについて問われるであろう。空腹があなたがたを家から出し、この恵みを得るまで帰らなかったのだから」**（『サヒーフ・ムスリム』2038）。

注：暮らしの章の弱い伝承（『シャマーイル』373〜375、377〜378）

上の話の『シャマーイル』版で、アンサールの男を**アブー・ハイサム・イブン・タイイハーン**と名指し、使用人や助言についての長い詳細を加えたもの（第 373 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路が弱い**。第 374、375、377、378 番の、彼の食べ物と苦難についての伝承も同様である。空腹と、復活の日に問われる恵みという話の核心は、『サヒーフ・ムスリム』第 2038 番で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 373〜378 番。 sunnah.com/shamail:373

『サヒーフ・ムスリム』第 2038 番。 sunnah.com/muslim:2038

この話は、**空腹は恥ではない**こと、そしてどんな恵みもアッラーに**問われる**ことを教えている。

第 53 章：その年齢

第 53 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の年齢**」と題されている。サヒーフが四つ、ハサンが二つの、六つの伝承があり、弱い伝承はない。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 379 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا رَوْحُ بْنُ عُبَادَةَ، قَالَ: حَدَّثَنَا زَكَرِيَا بْنُ إِسْحَاقَ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ دِينَارٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ: مَكَثَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِمَكَّةَ ثَلاثَ عَشْرَةَ سَنَةً يُوحَى إِلَيْهِ، وَ بِالْمَدِينَةِ عَشْرًا، وَتُوُفِّيَ وَهُوَ ابْنُ ثَلاثٍ وَسِتِّينَ.

日本語訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。「**預言者 ﷺ は啓示を受けながらマッカに十三年、マディーナに十年とどまられ、六十三歳で亡くなられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← ラウフ・イブン・ウバーダ ← ザカリヤー・イブン・イスハーク ← アムル・イブン・ディーナール ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 379 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3652 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:379

このハディースからの教訓

このハディースは預言者としての全期間を要約している。宣教と迫害と忍耐の年月である**マッカでの十三年**と、共同体を築き、努め、聖法を完成させた年月である**マディーナでの十年**である。わずか二十三年で、彼はアラビア半島を変え、イスラームを世界に広めるウンマを遺された。

アーイシャ رضى الله عنها も言った。「預言者 ﷺ は六十三歳で亡くなられた」（『シャマーイル』381、『サヒーフ・ブハーリー』3536）。また、ムアーウィヤ رضى الله عنه は説教でこう言った。「アッラーの使徒 ﷺ は六十三歳で亡くなられ、アブー・バクルもウマルも同じであった。そして私は今、六十三歳である」（『シャマーイル』380）— 伝承経路はサヒーフ。

ムアーウィヤの言葉に注目したい。まるで自分の最期が、アッラーの使徒 ﷺ と最良の二人の教友の年齢と**同じであることを願っていた**かのようである。教友たちは、年齢に至るまで、あらゆる点で彼に似ることを望むほど彼を愛していたのである。

六十代という年齢は、彼の言葉も思い起こさせる。「私のウンマの寿命は六十歳から七十歳の間であり、それを超える者は少ない」（『ジャーミウ・ティルミズィー』3550）。この年齢に達した人は、来世への備えをいっそう増やしたい。

六十三年

彼が**六十五歳**で亡くなられたとする二つのハサンの伝承もある。イブン・アッバースから（『シャマーイル』382）と、ダグファル・イブン・ハンザラから（『シャマーイル』383）である。そして次のハディースで、アナス رضى الله عنه は六十という数を挙げている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 384 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، حَدَّثَنَا مَالِكُ بْنُ أَنَسٍ، عَنْ رَبِيعَةَ بْنِ أَبِي عَبْدِ الرَّحْمَنِ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّهُ سَمِعَهُ، يَقُولُ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، لَيْسَ بِالطَّوِيلِ الْبَائِنِ، وَلَا بِالْقَصِيرِ، وَلَا بِالأَبْيَضِ الأَمْهَقِ، وَلَا بِالآدَمِ، وَلَا بِالْجَعْدِ الْقَطَطِ، وَلَا بِالسَّبْطِ، بَعَثَهُ اللَّهُ تَعَالَى عَلَى رَأْسِ أَرْبَعِينَ سَنَةً، فَأَقَامَ بِمَكَّةَ عَشْرَ

سِنِينَ، وَبِالْمَدِينَةِ عَشْرَ سِنِينَ، وَتَوَفَّاهُ اللَّهُ عَلَى رَأْسِ سِتِّينَ سَنَةً، وَلَيْسَ فِي رَأْسِهِ وَلِحْيَتِهِ عِشْرُونَ شَعَرَةً بَيْضَاءَ.

日本語訳：

ラビーア・イブン・アビー・アブドゥッラフマーンは、アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه がこう言うのを聞いた。「アッラーの使徒 ﷺ は、背が高すぎることも低いこともなく、青白くもなく浅黒くもなく、髪は縮れすぎてもまっすぐでもなかった。**至高なるアッラーは、四十歳の終わりに彼を遣わされた。彼はマッカに十年、マディーナに十年とどまられ、アッラーは六十歳の終わりに彼を召された。そのとき、彼の頭とあごひげには白髪が二十本もなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← ラビーア・イブン・アビー・アブドゥッラフマーン ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 384 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 3547 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:384

このハディースからの教訓

学者たちは、最も有力な説は**六十三歳**であると説明している。多くの教友が最も確かな伝承経路で伝えているからである。六十とするアナスの伝承は、アラブの習慣どおり端数を省いた**切りのよい数**にすぎない。六十五とする伝承は、生まれた年と亡くなった年をそれぞれ一年と数えたものと考えられる。

アナスのハディースは、心に残ることも伝えている。彼の頭とあごひげには**白髪が二十本もなかった**。第一部で、彼の白髪がとても少なかったことを見た。彼は弱々しい老いの中ではなく、なお力強く輝くお姿のまま亡くなられたのである。

イブン・アッバース رضى الله عنهما はまた、彼が**四十歳で遣わされた**と伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』3902）。これはすべての人に希望を与える。四十歳は

終わりではなく、最も意味のある人生の**始まり**になりうる。アッラーご自身も、砂丘章第 15 節で四十歳を成熟の年齢として挙げておられる。

第 54 章：そのご逝去

第 54 章は「**アッラーの使徒 ﷺ のご逝去**」と題されている。本書で最も長い章で、サヒーフが五つ、ハサンが六つ、弱いものが三つの、十四の伝承がある。まず、アナス رضى الله عنه が目にした最期のひとときから始めよう。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 386 番

حَدَّثَنَا أَبُو عَمَّارٍ الْحُسَيْنُ بْنُ حُرَيْثٍ، وَقُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، وَغَيْرُ وَاحِدٍ، قَالُوا: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ بْنُ عُيَيْنَةَ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: آخِرُ نَظْرَةٍ نَظَرْتُهَا إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، كَشْفُ السِّتَارَةِ يَوْمَ الاثْنَيْنِ، فَنَظَرْتُ إِلَى وَجْهِهِ كَأَنَّهُ وَرَقَةُ مُصْحَفٍ، وَالنَّاسُ خَلْفَ أَبِي بَكْرٍ، فَكَادَ النَّاسُ أَنْ يَضْطَرِبُوا، فَأَشَارَ إِلَى النَّاسِ أَنِ اثْبُتُوا، وَأَبُو بَكْرٍ يَؤُمُّهُمْ وَأَلْقَى السِّجْفَ، وَتُوُفِّيَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ آخِرِ ذَلِكَ الْيَوْمِ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**私がアッラーの使徒 ﷺ を最後に見たのは、月曜日に彼がとばりを上げられたときであった。私はそのお顔を見た。それはまるでムスハフ（クルアーンの書）の一葉のようであった。**人々はアブー・バクルの後ろで礼拝していた。人々は（喜びのあまり）動き出しそうになったが、彼はその場にとどまるよう合図され、アブー・バクルが彼らを導いた。それから彼はとばりを下ろされた。**そしてアッラーの使徒 ﷺ は、その日の終わりに亡くなられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・アンマール・フサイン・イブン・フライス と クタイバ・イブン・サイード ← スフヤーン・イブン・ウヤイナ ← ズフリー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 386 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 680 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:386

このハディースからの教訓

これが本書の題名の由来である。「**ムスハフの一葉のよう**」。学者たちは、アナスが彼のお顔をムスハフの一葉にたとえたのは、その**美しさ、清らかさ、そして光**のためであると説明している。重い病の中にあっても、そのお顔は輝いていた。

ブハーリーの伝承では、人々がアブー・バクルの後ろに列をなしているのを見て、**彼はほほえみ、笑われた**と記されている（『サヒーフ・ブハーリー』680）。彼を喜ばせた最後の光景は、**集団で礼拝する自分のウンマ**であった。それが二十三年の努力の実りであった。

人々に**その場にとどまり**、アブー・バクルの後ろで礼拝を続けるよう合図されたことにも、深い意味がある。彼は、ウンマが自分の存在に頼ることなく崇拝を続けることを望まれた。彼がいなくなっても、礼拝は止まらないのである。

最後の病

アッラーの使徒 ﷺ の最後の病は、ご逝去の数日前に始まった。病が重くなると、彼は妻たちに**アーイシャの家で看病を受ける**許しを求め、皆がそれを認めた。彼はアッバースともう一人の男に支えられ、**足を地面に引きずりながら**アーイシャの家へ向かわれた（『サヒーフ・ブハーリー』4442）。

重い病の中でも、**妻たちに公平であった**ことに注目したい。最も愛する妻の家へそのまま移るのではなく、全員に許しを求められた。体がひどく弱っていても、彼の人柄は変わらなかった。

アブドゥッラー・イブン・マスウード رضي الله عنه は高熱の彼を見舞い、「アッラーの使徒よ、ひどい熱です」と言った。彼は答えられた。「**そうだ。私はあなたがたの男二人分の熱を受けている。**」イブン・マスウードが「それはあなたが二倍の報いを受けるからですか」と尋ねると、彼は言われた。「そうだ。ムスリムは、とげが刺さることであれ、何かの痛みを受ければ、アッラーはそれによって、木が葉を落とすようにその罪を落としてくださる」（『サヒーフ・ブハーリー』5648）。

このハディースは、**病むすべての人への慰め**である。痛みは、アッラーがその人を嫌っておられるしるしではない。預言者たちこそ最も厳しく試された人々であった。信仰者にとって、忍耐して耐えた痛みは**罪を落とし**、報いを増やすのである。

アーイシャの胸にもたれて

アーイシャ رضى الله عنها は、彼の最期のひとときを簡潔に語っている。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 387 番

حَدَّثَنَا حُمَيْدُ بْنُ مَسْعَدَةَ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُلَيْمُ بْنُ أَخْضَرَ، عَنِ ابْنِ عَوْنٍ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنِ الأَسْوَدِ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: كُنْتُ مُسْنِدَةً النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، إِلَى صَدْرِي أَوْ قَالَتْ: إِلَى حِجْرِي فَدَعَا بِطَسْتٍ لِيَبُولَ فِيهِ، ثُمَّ بَالَ، فَمَاتَ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**私は預言者 ﷺ を自分の胸にもたれさせていた。**――あるいは、ひざに、と彼女は言った――彼は用を足すための器を求め、用を足された。**そして亡くなられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：フマイド・イブン・マスアダ・バスリー ← スライム・イブン・アフダル ← アブドゥッラー・イブン・アウン ← イブラーヒーム・ナハイー ← アスワド・イブン・ヤズィード ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 387 番に収録。『スナン・ナサーイー』第 33 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。アーイシャの胸にもたれて亡くなられたことは、ブハーリーも伝えている。

ソース：sunnah.com/shamail:387

このハディースからの教訓

ブハーリーの伝承によれば、アッラーの使徒 ﷺ は**彼女の家で、彼女の番の日に、彼女の胸にもたれて**亡くなられ（『サヒーフ・ブハーリー』4449）。

最期に彼は上を見上げて言われた。「**アッラーよ、（私は）至高の友（ラフィーク・アアラー）を（選びます）**」（『サヒーフ・ブハーリー』4463）。それが彼の最後の言葉であった。

死の苦しみ

アッラーに愛された方であっても、彼は**死の痛み**を感じられた。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 388 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ , حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنِ ابْنِ الْهَادِ، عَنْ مُوسَى بْنِ سَرْجِسَ، عَنِ الْقَاسِمِ بْنِ مُحَمَّدٍ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّهَا قَالَتْ: رَأَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، وَهُوَ بِالْمَوْتِ وَعِنْدَهُ قَدَحٌ فِيهِ مَاءٌ، وَهُوَ يُدْخِلُ يَدَهُ فِي الْقَدَحِ، ثُمَّ يَمْسَحُ وَجْهَهُ بِالْمَاءِ، ثُمَّ يَقُولُ: اللَّهُمَّ أَعِنِّي عَلَى مُنْكَرَاتِ أَوْ قَالَ: عَلَى سَكَرَاتِ الْمَوْتِ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**私は、アッラーの使徒 ﷺ が死に臨んでおられるのを見た。そばには水の入った器があった。彼は手を器に入れ、その水で顔をぬぐい、こう祈られた。アッラーよ、死の苦しみを乗り越えられるよう私をお助けください。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ライス・イブン・サアド ← ヤズィード・イブン・ハード ← ムーサー・イブン・サルジス ← カースィム・イブン・ムハンマド ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 388 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 978 番にもある。

判定： 伝承経路はハサン（良好） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。同様の意味をブハーリー（第 6510 番）も伝えている。

ソース：sunnah.com/shamail:388

このハディースからの教訓

ブハーリーの伝承では、彼は水で顔をぬぐいながら言われた。「**ラー・イラーハ・イッラッラー、まことに死には苦しみがある**」（『サヒーフ・ブハーリー』6510）。

彼の祈りは、すべての人の人生で最もつらいときに**アッラーの助けを求める**ことを教えている。

その苦しみを見て、アーイシャ رضى الله عنها は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ のご逝去がどれほどつらいものであったかを見てからは、安らかな死を迎える人を誰もうらやまなくなった」**（『シャマーイル』389）— ハサン。重い死の苦しみはアッラーのお怒りのしるしではなく、預言者たちにとっては**位を高め**、報いを増すものである。

ファーティマ رضى الله عنها も父の姿を見て悲しみをこらえられず、「ああ、父上の苦しみ」と言った。彼は答えられた。**「今日の後、あなたの父に苦しみはない」**（『シャマーイル』398、『サヒーフ・ブハーリー』4462）— ハサン。自らが苦しむさなかに娘を慰められた、慈しみに満ちた言葉である。

この章から、私たちは**死に備える**ことを学ぶ。ラー・イラーハ・イッラッラーを多く唱え、死の苦しみが軽くなるよう祈り、残される家族を慰めることである。彼は言われた。「最後の言葉がラー・イラーハ・イッラッラーである者は天国に入る」（『スナン・アビー・ダーウード』3116）。

最後の教え

病の最後の日々に、アッラーの使徒 ﷺ はウンマに**大切な教え**を遺された。これらは『シャマーイル』の章にはないが、真正なハディース集に伝えられており、彼の最期の日々の姿を補ってくれる。

アリー・イブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が最後に口にされた言葉の中に、こうあったと言った。**「礼拝を、礼拝を。そして、あなたがたの右手が所有する者たちについてアッラーを畏れなさい」**（『スナン・アビー・ダーウード』5156）。彼が繰り返されたのは二つ、礼拝による**アッラーの権利**と、私たちの保護のもとにある**弱い人々の権利**であった。

ジャービル رضى الله عنه は、亡くなる三日前に彼がこう言われるのを聞いた。**「あなたがたの誰も、アッラーについて良く思いながらでなければ死んではならない」**（『サヒーフ・ムスリム』2877）。この教えは彼の最期にふさわしい。彼ご自身、アッラーの慈悲に希望を抱いて至高の友を選ばれたのである。

アーイシャ رضى الله عنها は、最後の病の中で彼が、**預言者たちの墓を礼拝の場とした**昔の人々について戒められたと伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』1330）。彼は最期まで唯一神信仰（タウヒード）の純粋さを守り、ウンマが彼を、アッラーのしもべであり使徒であるという地位を超えて崇めることのないようにされた。

アブー・バクルの口づけ

ご逝去の知らせが広まると、アブー・バクル رضى الله عنه はスンフの自宅から来てアーイシャの部屋に入り、彼のお顔の覆いを取った。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 391 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، وعياش العنبرى , وسوار بن عبد الله , وغير واحد , قالوا: أخبرنا يحيي بن سعيد , عن سفيان الثورى , عن موسى بن أبي عائشة , عن عبيد الله , عن ابن عباس وعائشة: أن أبا بكر قبل النبي صلى الله عليه وسلم بعدما مات.

日本語訳：

イブン・アッバースとアーイシャ رضى الله عنهما は伝えている。「**アブー・バクルは、預言者 ﷺ が亡くなられた後、彼に口づけをした。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ヤフヤー・イブン・サイード・カッターン ← スフヤーン・サウリー ← ムーサー・イブン・アビー・アーイシャ ← ウバイドゥッラー・イブン・アブドゥッラー・イブン・ウトバ ← イブン・アッバース と 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 391 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 4455 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:391

このハディースからの教訓

アーイシャ رضى الله عنها は別の伝承で、アブー・バクルが彼の両目の間に口を当て、両手を彼の腕に置いて、「**ああ預言者よ、ああ真心の友よ、ああ愛する友よ**」と言ったと伝えている（『シャマーイル』392）— 伝承経路はハサン。彼はまた「父母をあなたの身代わりに。あなたは生きても亡くなっても善い方です」と言った（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

その日アブー・バクルは二つのことを示した。**深い愛**と**揺るがない信仰**である。彼は泣いて口づけをしたが、その後落ち着いて外に出て、クルアーンでウンマを支えた。彼はアッラーの次の御言葉も読み上げた。

集団章 39:30

إِنَّكَ مَيِّتٌ وَإِنَّهُم مَّيِّتُونَ ﴿٣٠﴾

本当にあなたは（何時かは）死ぬ。かれらもまた死ぬのである。

日本語訳：三田了一 — quran.com/39:30

イブン・カスィールは、この節が、アッラーの使徒 ﷺ も含めて**すべての人は死ぬ**こと、そして皆がアッラーの御前に集められることを思い起こさせると説明している（タフスィール・イブン・カスィール 39:30）。

私たちへの教訓はこうである。**愛する人の死に涙することは禁じられていない**。彼ご自身、息子イブラーヒームが亡くなったときに涙を流された（『サヒーフ・ブハーリー』1303）。禁じられているのは、泣きわめくことと絶望である。忍耐と受容をともなう悲しみこそ、アブー・バクルの道である。

暗くなったマディーナ

アナス رضى الله عنه は、彼がマディーナに着かれた日と亡くなられた日の違いをこう描いている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 393 番

حَدَّثَنَا بِشْرُ بْنُ هِلَالٍ الصَّوَّافُ الْبَصْرِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا جَعْفَرُ بْنُ سُلَيْمَانَ، عَنْ ثَابِتٍ، عَنْ أَنَسٍ، قَالَ: لَمَّا كَانَ الْيَوْمُ الَّذِي دَخَلَ فِيهِ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم الْمَدِينَةَ أَضَاءَ مِنْهَا كُلُّ شَيْءٍ، فَلَمَّا كَانَ الْيَوْمُ الَّذِي مَاتَ فِيهِ أَظْلَمَ مِنْهَا كُلُّ شَيْءٍ، وَمَا نَفَضْنَا أَيْدِينَا مِنَ التُّرَابِ، وَإِنَّا لَفِي دَفْنِهِ صلى الله عليه وسلم، حَتَّى أَنْكَرْنَا قُلُوبَنَا.

日本語訳：

アナス رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ がマディーナに入られた日、そこにあるすべてのものが輝いた。そして彼が亡くなられた日、そこにあるすべてのものが暗くなった。**私たちが彼 ﷺ を埋葬し、まだ手から土を払い終えないうちに、私たちは自分の心が変わってしまったのを感じた。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ビシュル・イブン・ヒラール・サウワーフ ← ジャアファル・イブン・スライマーン・ドゥバイー ← サービト・ブナーニー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 393 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3618 番にもある。

判定： 伝承経路はハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：sunnah.com/shamail:393

このハディースからの教訓

学者たちは、ここでの「光」と「暗さ」は**心の光と暗さ**であると説明している。彼が来られたときの喜びと導きと安らぎ、そして去られたときの悲しみと喪失である。教友たちの心が変わったのは、信仰が減ったからではなく、**いつも自分たちを照らしていた光を失った**からであった。

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は月曜日に亡くなられた**」（『シャマーイル』394）— サヒーフ。アブー・バクル رضى الله عنه はアーイシャに彼が亡くなった曜日を尋ね、月曜日と聞くと、自分も同じ日に亡くなることを願った（『サヒーフ・ブハーリー』1387）。

注：埋葬についての伝承（『シャマーイル』390、395〜396）

「預言者は亡くなった場所に葬られる」というアブー・バクルの伝承（第 390 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば**伝承経路は弱い**が、ほかの経路に支えられて**ハディースとしてはハサン**と判定されている。水曜日の夜に埋葬されたという伝承（第 395 番）と火曜日に埋葬されたという伝承（第 396 番）は**伝承経路が弱い**。確かなのは、彼が亡くなられたアーイシャの部屋に葬られたことである。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 390、395〜396 番。 sunnah.com/shamail:390

教友たちの悲しみは、彼を見たことのない私たちへの教訓である。彼らがあれほど大きな喪失を感じたのは、**彼を身近に知っていた**からである。『シャマーイル』のような書を通して彼を知れば知るほど、私たちの彼への愛も深まっていく。

彼を慕って

ご逝去の後、教友たちは彼を深く**慕った**。アナス رضى الله عنه によると、アブー・バクルはウマルに「アッラーの使徒 ﷺ がしておられたように、ウンム・アイマンを訪ねよう」と言った。二人が着くと、ウンム・アイマンは泣き出した。二人が「アッラーのもとにあるものは、アッラーの使徒 ﷺ にとってより良いものです」と言うと、彼女は答えた。**「それを知らないから泣いているのではありません。天からの啓示が絶えてしまったから泣いているのです」**（『サヒーフ・ムスリム』2454）。すると二人も彼女とともに泣いた。

アブー・バクルとウマルが、幼いころから彼を育てた女性ウンム・アイマンを訪ねるという**彼の習慣を続けた**ことに注目したい。人を慕う最良の方法は、その人がしていた善い行いを続けることである。

後の時代の私たちにも吉報がある。ある男が彼に、終末の時はいつかと尋ねた。彼は「そのために何を備えたのか」と尋ねられた。男は「何もありません。ただアッラーとその使徒を愛しています」と答えた。彼は言われた。**「あなたは、あなたが愛する者とともにいる。」**アナスは「私たちはこれほど喜んだことはなかった」と言った（『サヒーフ・ブハーリー』3688）。

アナスはその伝承でこう付け加えている。「私は預言者 ﷺ とアブー・バクルとウマルを愛している。私の行いは彼らに及ばないが、彼らを愛しているので、彼らとともにいられることを願っている。」彼への本当の慕わしさは、**私たちを行いへと動かす**ものである。

礼拝を導くアブー・バクル

この章で最も長い伝承は、スッファの人々の一人である教友サーリム・イブン・ウバイド رضي الله عنه によるものである（『シャマーイル』397）— 伝承経路はサヒーフ。彼は病の中で気を失い、意識が戻ると「礼拝の時間になったか」と尋ねられた。人々が「はい」と答えると、彼は言われた。**「ビラールにアザーンを唱えさせ、アブー・バクルに人々の礼拝を導かせなさい。」**これが何度も繰り返された。

アーイシャ رضي الله عنها は、父が心優しく涙もろい人なので別の人をと頼んだが、彼は**アブー・バクル**が導くよう重ねて命じられた。同じ出来事はブハーリーも伝えている（『サヒーフ・ブハーリー』664）。教友たちはこのしるしを理解した。彼が礼拝の導き手としてアブー・バクルを認められたのなら、世の事柄の導き手としても彼を認めよう、と。

サーリムの伝承は、ご逝去を受け入れられないウマル、**「本当にあなたは死ぬ。かれらもまた死ぬ」**という節を読み上げたアブー・バクル、そして最後に後継者としての**アブー・バクルへの忠誠の誓い**へと続く。アブー・バクルは、葬儀の礼拝を**一組ずつ順番に**行うこと、**アッラーが彼の魂を取られた場所**に葬ることを教え、近親者に彼の体を清めるよう命じた。最もつらいときにも、教友たちは**一つにまとまっていた**のである。

この章は、子を亡くした親への吉報で結ばれている。イブン・アッバース رضي الله عنهما によると、彼は言われた。「私のウンマのうち、幼くして先立った子が二人ある者は、アッラーがその二人のゆえに天国に入れてくださる。」アーイシャが「一人の場合は」と尋ねると、「一人の場合もだ、恵まれた人よ」と言われた。「一人もいない場合は」と尋ねると、彼は言われた。**「私が私のウンマの先立つ者である。私を失うほどの災いに、彼らが遭うことはない」**（『シャマーイル』399）— 伝承経路はハサン。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

第 55 章：その遺産

第 55 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の遺産**」と題されている。サヒーフが五つ、ハサンが二つの、七つの伝承がある。この章は大切な問いに答えている。かつてアラビア全土を導いた預言者は、何を遺されたのだろうか。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 400 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مَنِيعٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا حُسَيْنُ بْنُ مُحَمَّدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا إِسْرَائِيلُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ عَمْرِو بْنِ الْحَارِثِ، أَخِي جُوَيْرِيَةَ لَهُ صُحْبَةٌ، قَالَ: مَا تَرَكَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم إِلا سِلاحَهُ، وَبَغْلَتَهُ، وَأَرْضًا جَعَلَهَا صَدَقَةً.

日本語訳：

信仰者たちの母ジュワイリヤの兄弟であるアムル・イブン・ハーリス رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が遺されたものは、武器と雌ラバと、施しとされた一区画の土地だけであった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アフマド・イブン・マニーウ ← フサイン・イブン・ムハンマド・マッルーズィー ← イスラーイール・イブン・ユーヌス ← アブー・イスハーク・サビーイー ← アムル・イブン・ハーリス・フザーイー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 400 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 2739 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:400

このハディースからの教訓

武器と白い雌ラバ、そしてすでに施しとされた一区画の土地——それだけであった。宮殿も、金の蓄えも、子孫のための領地もなかった。それどころかアーイシャ رضى الله عنها は、彼が亡くなられたとき、**その鎧は大麦三十サーウのためにユダヤ人に質入れされたままであった**と語っている（『サヒーフ・ブハーリー』2916）。

私たちは相続されない

この章から、多くの教友が伝えるイスラーム法の大切な原則が生まれた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 403 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْمُثَنَّى، قَالَ: حَدَّثَنَا صَفْوَانُ بْنُ عِيسَى، عَنِ أُسَامَةَ بْنِ زَيْدٍ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ، عَنْ عَائِشَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: لا نُورَثُ مَا تَرَكْنَا فَهُوَ صَدَقَةٌ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها によると、アッラーの使徒ﷺは言われた。「**私たち（預言者）は相続されない。私たちが遺したものは施しである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ムサンナー ← サフワーン・イブン・イーサー ← ウサーマ・イブン・ザイド・ライスィー ← ズフリー ← ウルワ・イブン・ズバイル ← 信仰者たちの母アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 403 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 6727 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:403

このハディースからの教訓

預言者たちは**普通の人のようには相続されない**。彼らが遺したものはウンマのための施しとなる。アブー・フライラ رضى الله عنه によると、彼は言われた。「私の相続人はディーナールを分け合わない。私が遺したものは、妻たちの扶養と働き手の報酬を除いて、施しである」（『シャマーイル』404、『サヒーフ・ブハーリー』2776）。

ファーティマ رضى الله عنها は、父の遺産の分け前を求めてアブー・バクルのもとに来たことがある。アブー・バクルは、アッラーの使徒 ﷺ が「私たちは相続されない」と言われるのを聞いたと答えたうえで、こう約束した。「**アッラーの使徒 ﷺ が養って**

おられた人を私は養い、アッラーの使徒 ﷺ が費やしておられた人に私は費やそう」（『シャマーイル』401）— 伝承経路はハサン。

ウマル رضى الله عنه がカリフであったとき、アッバースとアリー رضى الله عنهما がその財産をめぐって言い争いながら彼のもとに来た。ウマルは、その場にいたアブドゥッラフマーン・イブン・アウフ、ズバイル、サアドら有力な教友たちにアッラーにかけて尋ねた。「アッラーの使徒 ﷺ が『私たちは相続されない。私たちが遺したものは施しである』と言われたのを知っているか。」皆は「**はい**」と答えた（『シャマーイル』405、『サヒーフ・ブハーリー』3094）。ハサンの伝承第 402 番も同じ出来事を伝えている（『シャマーイル』402）。

この話は**指導者の誠実さ**を教えている。アブー・バクルもウマルも、その財産を自分のものとせず、アッラーの使徒 ﷺ がされたとおり、彼の家族とウンマの益のために管理した。また意見が分かれたときの作法、すなわち**アッラーの使徒 ﷺ の言葉に立ち返り**、満足してそれを受け入れることも教えている。

ディーナールもディルハムもなく

アーイシャ رضى الله عنها は、彼の財産としての遺産を一言でまとめている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 406 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ عَاصِمٍ ابْنِ بَهْدَلَةَ، عَنْ زِرِّ بْنِ حُبَيْشٍ، عَنْ عَائِشَةَ، قَالَتْ: مَا تَرَكَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم دِينَارًا وَلَا دِرْهَمًا وَلَا شَاةً وَلَا بَعِيرًا، قَالَ: وَأَشُكُّ فِي الْعَبْدِ وَالأَمَةِ.

日本語訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ は、ディーナール金貨一枚も、ディルハム銀貨一枚も、羊一頭も、ラクダ一頭も遺されなかった。**」（ズィッルは言った。）彼女が男女の奴隷にも触れたかどうかは、私ははっきりしない。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← スフヤーン・サウリー ← アースィム・

イブン・バフダラ ← ズィッル・イブン・フバイシュ ← 信仰者たちの母アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 406 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 1635 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも収録した。

ソース：sunnah.com/shamail:406

このハディースからの教訓

ディーナールもディルハムも遺されなかったのなら、彼の本当の遺産とは何だったのか。彼ご自身が答えておられる。**「学者たちは預言者たちの相続人である。預言者たちはディーナールもディルハムも遺さず、知識を遺した。それを受け取った者は、豊かな分け前を受け取ったのである」**（『スナン・アビー・ダーウード』3641）。

第 56 章：夢で彼を見ること

『シャマーイル』の最後の章である第 56 章は、**「夢でアッラーの使徒ﷺを見ること」**と題されている。サヒーフが八つ、ハサンが一つ、伝承者についての注記が二つの、十一の伝承があり、弱い伝承はない。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 407 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، قَالَ: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ أَبِي الأَحْوَصِ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ مَسْعُودٍ، عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: مَنْ رَآنِي فِي الْمَنَامِ فَقَدْ رَآنِي فَإِنَّ الشَّيْطَانَ لا يَتَمَثَّلُ بِي.

日本語訳：

アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه によると、預言者 ﷺ は言われた。「**夢の中で私を見た者は、本当に私を見たのである。悪魔は私の姿をまねることができないからである。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー ← スフヤーン・サウリー ← アブー・イスハーク・サビーイー ← アブー・アフワス ← アブドゥッラー・イブン・マスウード رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 407 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 2276 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。同様の意味をブハーリーとムスリムも伝えている。

ソース：sunnah.com/shamail:407

このハディースからの教訓

このハディースは多くの教友が伝えている。アブー・フライラ（『シャマーイル』408、『サヒーフ・ブハーリー』110）、ターリク・イブン・アシュヤム・アシュジャイー（『シャマーイル』409）、アブー・カターダ（『シャマーイル』414、『サヒーフ・ブハーリー』6996）、そしてアナス（『シャマーイル』415、『サヒーフ・ブハーリー』6994）である。いずれも同じ意味を伝えている。**悪魔はアッラーの使徒 ﷺ の姿をまねることができない。**だから彼を見る夢は真実の夢である。

学者たちは、その夢が真実であるのは、**見た姿が真正なハディースに伝えられた彼の特徴と一致する場合**であると説明している。それはまさに、私たちが『シャマーイル』の各部で学んだ特徴である。彼のお姿についての知識は、夢を見分ける助けとなる。

しかし学者たちはまた、**夢は法の源ではない**と強調している。夢の中で聞いたことによって、すでに完成した聖法に何かを加えたり変えたりすることはできない。夢で彼を見ることは吉報であって、新たな啓示ではない。

アースィムの父クライブは、このハディースをアブー・フライラ رضى الله عنه から聞いた。そしてイブン・アッバースに、自分も夢で彼を見たと告げ、その姿がハサン・

イブン・アリーに似ていたと話した。イブン・アッバースは言った。**「確かにハサンは彼に似ていた」**（『シャマーイル』411）— 伝承経路はサヒーフ。

ヤズィード・ファーリスィーの夢

この章で最も詳しい話は、**ムスハフの書き手**であったヤズィード・ファーリスィーの夢である。彼はイブン・アッバースの時代に夢でアッラーの使徒 ﷺ を見て、そのことを告げた。イブン・アッバースは言った。「アッラーの使徒 ﷺ は、悪魔は私の姿をまねることができない、眠りの中で私を見た者は本当に私を見たのだ、と言っておられた。**あなたが見たその人の姿を描くことができるか。**」（『シャマーイル』412）— 伝承経路はハサン。

ヤズィードは、**中背**で、白みがかった褐色の肌、黒いコールを引いたような目、美しいほほえみと整った顔立ちをもち、あごひげがここからここまで顔を満たし、胸の上部を覆っている人を描いた。イブン・アッバースは言った。**「目覚めているときに彼を見たとしても、これ以上うまく描くことはできなかったであろう」**（『シャマーイル』412）。

> **注：伝承者についての二つの注記（『シャマーイル』410、413）**
>
> 第 410 番は、ハラフ・イブン・ハリーファが幼いころ、預言者 ﷺ の教友アムル・イブン・フライスを見たという言葉である。第 413 番は、アウフ・アアラービーが**自分はカターダより年上である**と言った言葉である。どちらもアッラーの使徒 ﷺ についてのハディースではなく、伝承経路の中の伝承者の位置を明らかにするための、イマーム・ティルミズィーの注記である。そのため判定の対象とはならない。
>
> **出典：**
>
> 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 410、413 番。 sunnah.com/shamail:410

イブン・アッバースが夢を**そのまま受け入れず**、見た特徴について尋ねたことに注目したい。これが教友たちの学問的な姿勢である。彼らは何事も、彼から確かに伝わったものに照らして確かめた。そして**『シャマーイル』がものさしとなっている**ことにも注目したい。ヤズィードの描写は、第一部で学んだことと一致している。

この知識こそ宗教である

イマーム・ティルミズィーは、『シャマーイル』を学者たちの二つの意味深い言葉で結んでいる。第一に、アブドゥッラー・イブン・ムバーラクは言った。「**もし裁判官の職で試されたなら、伝承（アサル）に従いなさい**」（『シャマーイル』416）— 伝承経路はサヒーフ。

第二に、バスラの偉大なタービウーンであるムハンマド・イブン・スィーリーンは言った。「**この（ハディースの）知識は宗教である。だから、誰から自分の宗教を受け取るのかをよく見なさい**」（『シャマーイル』417）— 伝承経路はサヒーフ。イマーム・ムスリムも、この言葉を『サヒーフ』の序文に引いている。

アッラーの使徒 ﷺ の特徴を描いた書が、なぜ**伝承を受け取る際の慎重さ**についての言葉で結ばれているのだろうか。彼についてのあらゆる描写は、それが**本当に確かなもの**であってこそ意味をもつからである。だからこそこの六部では、すべてのハディースの判定と伝承経路を記し、弱い伝承は注の枠に分けてきた。

SNSの時代にあって、イブン・スィーリーンの言葉はいっそう重みを増している。出典のない「ハディース」が数多く広まっている。共有する前に、**出典と判定を確かめよう**。アッラーの使徒 ﷺ を愛することには、彼に帰されることの真実を守ることも含まれる。彼は言われた。「故意に私について偽りを言う者は、地獄に自分の座を用意せよ」（『サヒーフ・ブハーリー』110）。

彼への祝福の祈り

六部を通して彼を知った今、最もふさわしい応え方は、アッラーが命じておられるとおり**彼に祝福を祈ること**である。

部族連合章 33:56

إِنَّ ٱللَّهَ وَمَلَٰٓئِكَتَهُۥ يُصَلُّونَ عَلَى ٱلنَّبِيِّۚ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ صَلُّواْ عَلَيۡهِ وَسَلِّمُواْ تَسۡلِيمًا ٥٦

本当にアッラーと天使たちは，聖預言者を祝福する。信仰する者たちよ，あなたがたはかれを祝福し，（最大の）敬意を払って挨拶しなさい。

日本語訳：三田了一 — quran.com/33:56

イブン・カスィールは、アッラーがしもべたちに、至高の天における御許での預言者の地位を告げておられると説明している。アッラーは天使たちの前で彼をたたえ、天使たちは彼に祝福を祈る。そしてアッラーは地上の人々にも、**ともに祝福と平安を祈る**よう命じられた（タフスィール・イブン・カスィール 33:56）。

祝福の祈りの報いはとても大きい。彼は言われた。「**私に一度祝福を祈る者に、アッラーは十度祝福を与えられる**」（『サヒーフ・ムスリム』408）。教友たちが祈り方を尋ねると、彼はイブラーヒームの祝福の祈りを教えられた。「アッラーフンマ・サッリ・アラー・ムハンマド、ワ・アラー・アーリ・ムハンマド、カマー・サッライタ・アラー・イブラーヒーム、ワ・アラー・アーリ・イブラーヒーム、インナカ・ハミードゥン・マジード.....」（『サヒーフ・ブハーリー』3370）。

彼への愛もまた信仰の一部である。彼は言われた。「**あなたがたの誰も、私がその人にとって、父よりも子よりもすべての人々よりも愛しい者とならない限り、本当に信じたことにはならない**」（『サヒーフ・ブハーリー』15）。彼を知る心で唱えられる祝福の祈りこそ、最も美しい愛の表現である。

六部で描く一つの姿

本書をもって、『シャマーイル・ムハンマディーヤ』の**全 56 章**をたどる旅は完結する。次の表は『預言者のシャマーイル』全六部をまとめたものである。

部	内容
第 1 部：誰よりも美しい方	第 1〜7 章：容姿、預言者性の印、髪、白髪、染髪、コール

部	内容
第 2 部：最も愛された衣	第 8〜22 章：衣服、フッフ、サンダル、指輪、剣、鎧、ターバン、歩き方、座り方
第 3 部：なんと良い副菜	第 23〜31 章：食べ方、パン、副菜、食事の言葉、果物、飲み物
第 4 部：その笑いはほほえみ	第 32〜40 章：香り、話し方、笑い、冗談、詩、眠り、崇拝
第 5 部：「いいえ」と言わない方	第 41〜49 章：ドゥハー、断食、朗唱、涙、謙虚さ、人柄、恥じらい
第 6 部：ムスハフの一葉のように	第 50〜56 章：吸い玉療法、御名、暮らし、年齢、ご逝去、遺産、夢

合わせて見ると、この六部は**一つの完全な姿**を形づくっている。お姿（第 1 部）、装い（第 2 部）、食卓（第 3 部）、人との交わり（第 4 部）、崇拝と人柄（第 5 部）、そして最期と遺産（第 6 部）である。

彼を知る目的は、知識を増やすことだけではなく、**彼に従うこと**である。アッラーは言われる。「本当にアッラーの使徒は、あなたがたにとって良い模範であった」（部族連合章 33:21）。

アッラーがこのささやかな努力を受け入れ、その至らなさを赦し、この六部を読者とアッラーの使徒 ﷺ をつなぐ**愛の架け橋**としてくださいますように。そして私たちが彼とともにカウサルの池に集められ、二度と渇くことのない飲み物をいただけますように（『サヒーフ・ブハーリー』6579）。

教訓と結び

『シャマーイル』第 50〜56 章の教訓を次にまとめる。

章	主な教訓
50. 吸い玉療法	治療はアッラーへの信頼と矛盾しない。働き手に公正に報いる

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

章	主な教訓
51. 御名	慈悲の預言者、悔悟の預言者、預言者たちの封緘
52. 暮らし	かまどに火のない一か月。問われる恵みに感謝する
53. 年齢	六十三歳で逝去。四十歳で遣わされた
54. ご逝去	ムスハフの一葉のようなお顔。至高の友を選ばれた
55. 遺産	ディーナールもディルハムもなく、遺産は知識
56. 夢	悪魔は彼の姿をまねられない。この知識こそ宗教

私たちへのメッセージ

アッラーの使徒 ﷺ は亡くなられたが、**その教えは今も生きている**。預言者のモスクで彼とともに座ることはできないが、彼のハディースとともに座り、家で彼のスンナを実践し、彼に多くの祝福を祈ることはできる。本書から一つの実践を選び、少しずつでも続けよう。

これをもって、本書『**預言者のシャマーイル：まるでそのお姿を見るように**』は完結する。正しいことはすべてアッラーからであり、誤りはすべて著者によるものである。アッラーが私たちと私たちの両親、そして預言者ムハンマド ﷺ のウンマ全体を赦してくださいますように。アッラーが最もよくご存じである。

付録：彼に倣うためのチェックリスト

本書で取り上げた実践を、出典とともにまとめた。自分と家族の目安として使うことができる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

実践	出典
許された治療を受け、アッラーに信頼を寄せる	『サヒーフ・ブハーリー』5678
働き手に公正に報いる	『サヒーフ・ブハーリー』2103
食べ物の恵み一つ一つに感謝する	『サヒーフ・ムスリム』2038
質素に暮らし、むだをしない	『サヒーフ・ブハーリー』6460
病人を見舞い、病の中で忍耐する	『サヒーフ・ブハーリー』5648
礼拝を守り、保護のもとにある人に優しくする	『スナン・アビー・ダーウード』5156
ラー・イラーハ・イッラッラーを多く唱える	『スナン・アビー・ダーウード』3116
死の苦しみが軽くなるよう祈る	『ジャーミウ・ティルミズィー』978
死に際して忍耐し、泣きわめかない	『サヒーフ・ブハーリー』1303
施しをし、財産を寄進する	『サヒーフ・ブハーリー』2739
知識を求め、伝える	『スナン・アビー・ダーウード』3641
ハディースを共有する前に出典を確かめる	『サヒーフ・ブハーリー』110
毎日、彼に祝福を祈る	『サヒーフ・ムスリム』408
何よりも彼を愛する	『サヒーフ・ブハーリー』15

まずは、礼拝のたびに十回祝福を祈るといった最も易しい実践から始めよう。それが習慣になったら、次のものを加えよう。アッラーに最も愛される行いは、少なくても続けられるものである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：236 / 238

第六部の参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（イムラーン家章 3:144、預言者章 21:107、部族連合章 33:40、33:56、集団章 39:30、戦列章 61:6）。tafsir.app/ibn-katheer/3/144

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 50〜56 章（ハディース第 359〜417 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』15、110、664、680、1303、1330、1387、1835、2103、2567、2739、2776、2916、3094、3370、3535、3536、3547、3668、3688、3902、4101、4442、4449、4455、4462、4463、5648、5678、5696、6458、6460、6510、6579、6727、6994、6996。sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』408、1635、2038、2354、2355、2454、2877、2977。sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』978、2276、2472、3550、3618、3652、『スナン・アビー・ダーウード』3116、3641、5156、『スナン・ナサーイー』33。sunnah.com

医学研究

Al-Bedah, A. M. N., et al. (2016). Evaluation of Wet Cupping Therapy: Systematic Review of Randomized Clinical Trials. Journal of Alternative and Complementary Medicine, 22(10), 768–777. doi.org/10.1089/acm.2016.0193

Aboushanab, T. S., & AlSanad, S. (2018). Cupping Therapy: An Overview from a Modern Medicine Perspective. Journal of Acupuncture and Meridian Studies, 11(3), 83–87. doi.org/10.1016/j.jams.2018.02.001

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

Wikipedia, “Cupping therapy”. en.wikipedia.org/wiki/Cupping_therapy

Wikipedia, “Death of Muhammad”. en.wikipedia.org/wiki/Death_of_Muhammad

Wikipedia, “Names and titles of Muhammad”. en.wikipedia.org/wiki/Names_and_titles_of_Muhammad